

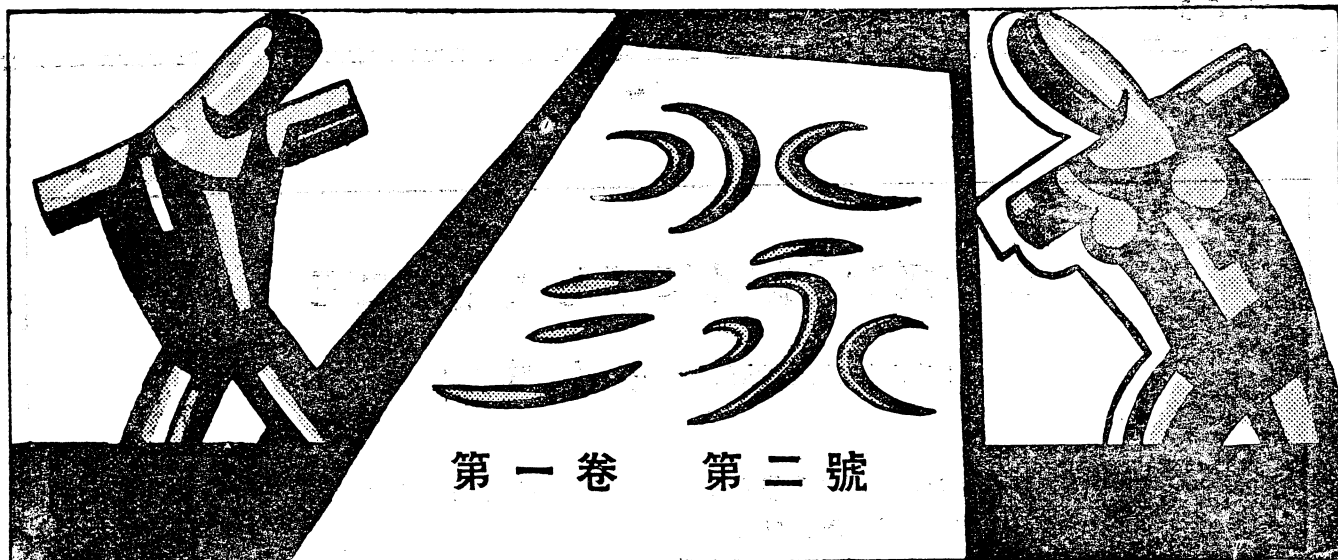
第二號

水 泳  
十 月 号

1930

OCTOBER

YAKUZA



## 目 次

シーズンを終るに際して感想二三	日本水上競技聯盟長	末 弘 嚴 太 郎	(2)
オリンピック第一主義を吟味す		川 口 又 男	(3)
北歐の旅より		麻 生 武	(5)
ALOHA! ALOHA	明大水泳部	村 松 正 一	(7)
海外水泳通信		飯 田 光 太 郎	(8)
獨逸選手權飛込競技記録		島 崎 安 正	(10)
水泳教授法		杉 本 傳	(11)
水を樂め	醫學博士	太 田 正 隆	(12)
水球の研究(2)		吉 本 祐 一	(14)
日米對抗——愈々米國に挑戦			(16)
全日本に飛んだ人々		山 内 辰 雄	(17)
ライレーの飛込	日大水泳部	井 上 一 郎	(21)
選手權大會餘談		安 部 輝 太 郎	(22)

### 第九回全國學生水上競技大會

決勝競技の經過		松 澤 一 鶴	(23)
大會總評		松 澤 一 鶴	(27)
勝者の涙	早大水泳部	深 田 忠 彌	(30)
我等の敗因	明大水泳部	村 松 正 一	(31)
競技會所感	慶大水泳部	林 忠 雄	(31)
全日本選手權京都地方豫選		深 山 泉	(32)
女子水泳を見て		江 島 歌 子	(38)
關西學生水上競技大會概評		T S 生	(39)

### 昭和五年水上競技戰績表

全日本選手權競技大會	(40)
第九回全國競技大會	(42)
關西學生競技大會	(48)
西部中等學校競技大會	(49)
第二回全日本女子競技大會	(52)
全日本女子東西對抗競技大會	(55)
全日本飛込關東豫選	(56)
全國學生飛込競技大會	(58)
東部中等學校競技大會	(63)
東西中等學校對抗競技	(63)
東西優勝校爭霸戰	(20)
聯盟マーク懸賞募集	(20)
水泳特輯畫報	(32)
水泳漫畫	杉 田 忠 治
編輯後記	(64)

## シーズンを終るに際して感想二三

日本水上競技聯盟會長 末弘 嚴太郎

昭和五年の水泳のシーズンは一般に豫想されたより遙に立派な収穫を與へてくれた。殊に八月中旬に行はれた、インターミッドルの競技會及び同じく下旬に行はれた、全日本選手權大會は、吾國水泳界の將來に對して、極めて明るい將來を約束してくれたやうに思はれる。又九月下旬に行はれた、インターカレッジの競技會は會の性質上絶對的に見て、必ずしも優れたレコードを示さなかつたけれども、尙吾國中堅選手の實力を示すに十分な成績を示してくれた。野田も米山も依然として元氣である。彼等は必ずや高石等と共に、新鋭選手を卒んで來るべきロスアンジェルスに吾國水泳の威力を示してくれるに違ひない。吾々はかく信じかく考へて、光榮ある未來を期待する。偏に選手諸君一層の奮勵努力を希望する次第である。

\* \* \* \*

一般水泳愛好者の後援によつて吾々の明治神宮外苑プールは、第一半を形成することが出來た。然るに今や、又原田財團は十五萬圓の巨資を寄附されて、プール諸施設の完備を助けられることになつた。かくして選手先輩の努力によつて人的用意が遺憾なく充實せられつゝある今日、物的施設亦完備の域に達せんとするの形勢を見るとき、誰か吾國水泳界の先途洋々として春の如きものあるを感ぜざるものがあらうか。私は此際一面原田財團關係者の理解ある美擧を嘆美し感謝すると共に、此間に在つて極力周旋の勞をとられた岸清一博士のお骨折に對して深謝せざるを得ない。選手諸君はもとより水泳關係の諸先輩は均しく此等諸氏の厚意に對して深く謝する所がなければならぬ。而して諸君深謝の意を表すべき最も好い機會は明後年にある

ことを心から考へて欲しい。

\* \* \*

男子競技會の好成績を喜ぶ吾々は同時に女子競技會の成績がこれに劣らず、立派な躍進を示しつゝあることを心より喜ぶ。諸嬢よ、仕事はもう一息です。どうか男子選手に負けなだけの努力をして下さい。明後年のロスアンジェルスすら既に諸君の爲めにかなり明い將來を約束してゐるやうに思はれてなりませぬ。

\* \* \* \*

ダイビングの現状を罵るのは間違だと思ひます。しかし、ダイビング現在の選手諸君に對して注文したいことは多々あると思ふ。ライレーを見、ライレーの話を聞いた人々は誰しもこのことに異存ないと思ふ。私はダイビングの選手をも、亦國際競技の矢面に立て、吾國水泳の共同戦線に於ける責任者たらしめることを心より希望するの意味に於て選手諸君の更に一層の努力を希望する。遠慮なしに言ふことを許されるならば、ダイビングに於ては、どうも新人が現はれない。古い選手が不相變同じやうに飛んでゐる。吾々には何となく、沈滞の感じがしてならない。關係者諸君の努力を熱望する次第である。

\* \* \* \*

ウォーターポロが盛になつたのは大いによろしい。それにしても、神戸の外人なぞにあんな負け方をするやうでは三十年前の野球と同じ程度である。今秋インターカレッジのリーグ戦が企てられたについても、關係者諸君の此の方面に於ける一層の努力を希望してやまない。

# オリンピック第一主義を吟味す

川 口 又 男

今夏吾が全日本水泳競技聯盟によつて提唱されたる、オリンピック第一主義によつて全日本水泳界の指導原理が確立せられた。來るべきシーズンは此の主義のもとに、吾國水泳選手及指導者が「登れて後止む」の決意と熱情とを以て、精進に精進を重ねる時である。而して後、始めて「日本水泳界が世界の覇権を獲得することは決して不可能ではない」と斷言し得るのである。然しながら、この企圖たるや「同時に決して容易なことではない」のである。此の言葉こそ吾國水泳界に與へられたる尊き忠告である。ロスアンゼルスの高高く日章旗を翻へし、狂喜と感激に咽ばんと望むならば、吾水泳界は「あと二年間の周到なる準備と絶大なる精進が必要である」。

オリンピック第一主義は、次のロスアンゼルスに於て優勝することによつて、一應はその目標に到達する。然しながら私はこの事によつて、この主義が幸福なる終局をつけるものではないと思ふ。オリンピック第一主義は吾國水泳界精進の永遠の指針である。端知らぬ熱望、疲れを知らぬ驀進、永遠の覇者への精進、この精神こそ、スポーツの眞髓であり、同時にこの主義の本質的使命でなければならぬ。かくして、吾々は「行」に到達する。スポーツマンシップの眞價はその精進の過程にあつて、その生んだ結果にあるのではない。是に吾國水泳界永遠の指導原理オリンピック第一主義のレーゾンデートルがなければならぬ。

この主義を信ずるに當り、與へられるべき問題は「オリンピックに優勝することは結局アメリカを破ること」である。これが爲に吾々は先ずアメリカの陣容を具に偵察し、彼を打破るべき作戰計畫をなさねばならぬ。此の意味に於て明年の日米對抗水上競技大會は絶大の價値を有する。世界の水泳界も定めて多大の期待をもつて、その日の來るのを鶴首して待つて居ることであろう。唯吾々の憂ふる所は、アメリカが吾が招待に對して吾國遠征を快諾するや否やである。過日の戰跡に鑑み、オリンピックの前哨戰たることを思へば、彼にとつて得る所のものよりは失ふ所のものの方が遙に多いだろう。若し彼等を

迎へる最善の榮に失敗した際は何を以て之に代ふべきか。それには先づ聯盟で承諾を見たるユール大學を主とせる、吾學生チームの招待に應ずるに如くものはない。即ち經驗、觀察、理解共に勝れたる、所謂水泳界の尖端にある、カレッジメンバーを彼地に送り、敵陣の偵察をせしめねばならぬ。偵察なるが故に敢て吾がベストメンバーを以て戦ふことを必要條件とはしない。詳細なる調査と、効果ある参考とを持歸る者を以てすべきである。唯茲に注意を要するのは、遠征による精神的肉體的疲勞によつて明後年のオリンピックに何等の惡影響を及ぼさしめないことである。次に此の計畫も亦不成功であつたとするならば、私は明年の全米水泳選手權大會を期して、斯界の指導的地位にあるもの一二を派遣して、親しくアメリカの實力を視察せしめ、併せてロスアンゼルスに如何に備へるべきか、如何に戦ふべきかを明確に把握し得よう。猶、平素アメリカは勿論世界の水泳界の動きを絶えず注視し、自己満足に陥ることなからしめんが爲に、聯盟に調査部を設けて、海外の新聞、雜誌等に注意し、關係資料を聚集し、之を廣く一般愛好家及選手に傳へ、常に刺戟と緊張とを與へ以て不斷の精進を示すべきである。或意味に於て飯田氏の「ニュース」の擴張を計るとも云へよう。

次に解決する問題は如何にしてチームを編成すべきかである。私は以下田畑君の所謂「四段準備策」及和久山君の「混合チームの編成法」に言葉を借りつゝ批判を試みることにする。田畑君の云ふ「四段準備策」は從來の「泥繩的準備」の缺陷の總てを補ひ、「優秀選手の實力を積極的に助長」せしめつゝ、且常に後より生れ來る「慧星的」選手をして常に代表選手たり得る機會をとらへしめ「望に遺憾なきを期する」意味に於て、指導的價値一〇〇パーセントである。唯茲に忘れてならないことは、既定のスケジュールをメカニカル（機械的）に勵行することによつてオーバアウアーク、又はステールを誘かない様にするることである。絶えざる事情の變化に應じ、

巧にスケージュールを変更して、以て眞の意味の「遺憾なき準備」をなさねばならない。此の點よりして私は第二段に於て正式のコーチ、マネージャーを決定せず、第一段に於て兩スタッフの協議會を起し、コーチ、マネージャーの自己批判を先以て行ひ、各人共に力を協せて豫選會迄選手を指導し、次に選手詮衡委員會前にコーチ、マネージャーを決定し置き、選手詮衡に當り、兩者の意見を、優先的に尊重すべきであると思ふ。かくすれば「チームメンバー決定以前に、コーチを選定發表」することにもなる。

此處に於て充分研究をせねばならないのは所謂「花形本位」のチーム編成と所謂「ねらいうち」戦法に立脚せる選手詮衡の効果である。

從來單に豫選會によつて編成せられたるチームは會で好成績を示せる選手が詮衡せられ、期待せられる不得止状態にあつた。それが爲に不慮の支障の突發にもよるが、案外不振に終ることが應々あつた。殊に經驗少き年少選手にこの傾向が多い。之が若し二週間の海上生活と未知の國に於ける僅かな滞在練習をへて戦に望む場合、何人と雖も不安なき能はずであらう。老練なる選手と雖も、肉體的、精神的ギャツプは可成大である。この意味に於て私は中等選手を期待する前に確實性と鬪争精神とに満ち溢れたる、カレヂ選手に多大の期待を抱いてゐるものである。

カレヂ選手諸君！ 日本チームの中心は諸君である。一層の努力と不斷の精進とを心から祈る。日本選手はオリンピックへ行くのではなくて、オリンピックで勝つのである。

和久山君の所謂「ねらいうち」戦法は敵情が極めて明白に分つて居る場合に、最も効果ある戦法と思ふ。然し準備の第一段よりかゝる意識を以て計畫をなすべきものではないと思ふ。今から百及バツクは云々と云ふことは大いに考慮を要する。單にロスアンゼルスで勝つ丈がオリンピック第一主義の全目的ではない。吾國水泳界の永遠の指導原理たる爲には一層かゝる觀念にとらはれてはならない。練習は出来る限り總ての種目に努めて而して後始めて何に主力をそゝぐべきかを考慮すべきであらう。今から四百千五百、ブレスト、リレーに於て勝利を得んとし、それのみを充實すべく計畫し、若しオリンピック數ヶ月前に何れかの種目に敵チームに慧星的選手を生んだ時、又は味方に不慮の支障を招いた時、何を

以て彼と對戦し、何を以て之に代へるか。私は常に一の超一流選手の後には十の一流選手がなければならぬの覺悟を以て準備すべきと思ふ。ゴチックの尖塔は高く聳えるが、この縦の線の強さは之と調和する横の線の動きを伴はない。

最後に私は財政問題に就て一言したい。幸に此夏の全日本選手權大會にアメリカ選手の参加を得、全水泳愛好家の貢獻コントリビューション（入場料と云ふ言葉は用ひたくない）によつて兎に角、ロスアンゼルスロスアンゼルスの爲の練習費は用意し得たと聞いて居る。故に私の云はんとするのは、吾チームの弗の國アメリカに遠征する當り、この世界的不景氣による國庫の收入減と、もし更迭はあつたとしても、現政府の緊縮策による豫算減は必ずやオリンピック出場補助金額の減少を見るに違いない、従つて可成の財政的苦痛は味はせらるゝと思ふ。物質的地位によつてチームの強さが増加するものではないが一日でも早く選手を彼地に送る遺憾なき準備をなさしむる爲には充分の遠征費の用意は必要であらう。その一策として全國の水泳愛好家よりれい細なる寄附金を募ることを提案したい。又來年度よりの各競技會コントリビューションの一部をオリンピックの爲に寄附してオリンピック準備金として貯へては如何、かくすれば「一般運動愛好者諸君にも吾々の仕事に對し充分なる理解と同情を寄せる」ことにもなり、「舉國一致の努力を以て目標の到達を圖る」ことにもなろう。

以上私は愚見を述べて、オリンピック選手への激勵の辭とし、併せて「敗れても遺憾ないだけの準備」の爲に「オリンピック第一主義」を高唱したい。

オリンピック第一主義、これこそ世界第一の水泳國を吾が日本帝國に實現せんとするものゝ旗印である。

全日本水泳愛好家諸君、共に力を協せてロスアンゼルスに日章旗を翻へそうではないか。

又第二段に於てアメリカ選手と戦ふチャンスを負つたならば、タリス、バラニー其他ドイツの選手を持つ全歐洲チームを今夏八月の全歐選手權大會の結果を参照し、數名を招待してアメリカの對戦に代へては如何。全歐洲の實力を充分知ることアメリカとの戦に備へる好資料とならないだらうか。

## 北 歐 の 旅 よ り

麻 生 武

H<sub>2</sub>O=水=雪 何だか縁がある様な氣もする。Wissenschaftler でない僕には、そんなことはわからぬ。諸威Holmenkollen での國際スキー競技會をすませた僕は陸上競技王國フィンランドへと心はいそいだのであつた。それはかのヌルミの大先輩コーレマイネンが手紙をくれて是非遊びに来てくれといつたからであつた。Oslo から Helsingfors への道すがら、Stockholm に立寄つた、Oslo からの夜行は翌朝湖水と幾十の島と共等を越づける針葉樹林によつて水色明美北歐第一の都につくのである、Platform に出て先づ驚いたのはいきなり、Halloh, Take, Wo Kommst du her? と近よる男の顔を見れば一昨秋 Olympic の後玉川プールで泳いだり、さんざ茶目つたBorgぢやないか、奇遇といへば實に偶然だ。僕もStockholm へ行つたら、訪ねてみようと思つてゐたし、彼も今冬僕がスキーに Oslo へ来てゐたことは知つてゐた、時に大將其後どうしたいと聞いたら、日本から上海、Honolulu 米大陸其處でFox film corporationのAgent をとつて歸國、今ではつまり、ヤンキーの活動フィルムの瑞典乃至スカンデナヴィア各地賣込をやつてるわけだ、中々忙しいらしい様子、今日は地方のお得意まわりをしての歸りだつたそうだ、かたわらにはしとやかさうな Lindberg 嬢、日本で結婚したあの妻君が一緒だ、此處ぢや話も出来ないつてわけで十一時に、プールで合ふ約束で、僕は驛前のContinental に宿をとつた。ゆつくり朝のカフェーを飲んで僕は約束の時間より、早目にプールに行つて同じ建物の中にある、ムシ風呂で汽車のごみをながして出てくるとArneが待つてた。早速、僕をプールに案内してくれた。ちつぽけな處だ、まあざつと昔の神田のY.M.C.A. 位と思へばいい。其處でBorgは一週間前にToris の歐洲レコード2分14秒<sup>4</sup>を破らうとゴム玉を浮べて、Toris のラツプタイムと同じ早さで兩端からひもでひつぱつて其を目あてに泳いだんだ、さうだが、何分近頃は練習不足で2分16秒かゝつたとこぼしてゐた。職業柄また話の様子でも實際練習はしなかつたらしい、それで16秒なら悲觀するにはあたるまいと云つてやつたら、いや俺は Los Angeles には

poloはやるかもしれないが、レースには出ないといつてた。が頑張り屋の彼、肉體的にめぐまれたあざらしの様な男、樂天性の彼、400はすてゝも1500にはまだ氣があるらしい。さうやすやす城は明け渡さぬらしい話しつ振りだつた。奴さんの著書に We schwimme ich um die Welt?なんてのが獨譯で出てる世界をまたに遊いでまわつた彼、あゝ日本が俺を遇すること一番厚かつただとさ、もう一邊よんぢやくれまいかなんて蟲のいゝことを云つてた。Direktor Ogata(東朝編輯局長)とTakaishiに宜しくといふのが、別れる時の拶揆だつた。それつきり會はず僕はFinland へたつてしまつた。

日本の學生のアスリートが歐洲へ來るつて話は正月になつて具體化してきたんだ。準備委員とかなんとか本人の承諾も求めないできめ込みやがつて、當人の處へは、葉書一通よこさない。而して餘計なこつたと云ふのかもしれないが、俺は諸威の學生聯盟へも渡りをつけてZ. R. R. へ電報をうつたんだ。其返事がまた頗るにへきらないものだ、昨秋の日獨競技の時だつて、あれだけ下働きをしてやつてろくな拶揆(物質を意味するのではない)もしない陸上競技聯盟の役員づらをした奴等に愛想をつかした、僕は其方は勝手にしやがれとばかりに本場ビールの痛飲とピナコテークが見たくなつて伯林を後にミュンヒエンへの道すがら一寸まわり道をしてMagdeburg に立よつたんであつた。學校友達で而してアルペンの雪に共にスキーを馳せたこともあるロツテの住む町。僕はMagdeburg は初めてだつた。

Ete や Arthur Dressel が僕を迎へるにやぶさかでないといふことは、一昨年日本へ來た時また其後の文通でもよく云つてくれたことだつた。然し僕は先づ彼女に會ひたかつた。それはどの男もがそうである様に、町は1928年日本オリピック水泳チームにはお馴染の處だ、其處の Hellas は獨乙水泳界に君臨してるクラブぢやないか。當年の獨乙水泳界の寵兒エリツヒラデマツヘルあり、Hellas Klub の顔役Dressel が僕を待つてくれ、また僕の好きな友達の一人であるロツテが住む町であるにしても Magd

eburg は僕には気に入らない。それは、あまりにプロイセン臭味の強い町だから、ハンザの三自由市を(それも Hamburg はそれ程でもない)のぞいては北獨乙は僕の趣味でないんだもの。僕が伯林から出した手紙がおそくついたんで友達は留守だつた。おかあさんに逢つた。切角いらつしやつたのにお氣の毒ですお晝すぎには歸りますから、Herr Rademacher のとこへいつてそいから歸りにいらつしやいと云つてくれた。その娘も年をとつたらあんなしわくちやばあさんになるのかと思つたら僕の淡い戀心は残念さめてしまつたね。スポーツマンよ戀するなかれ、競技場のいとなみこそは眞に久遠の理想であるのである。Leistung の上からいつたらとるにたらぬ僕でさへいつもより高きにつかんと理想に燃へてゐる。まして名選手とうたわるる若士の婦人問題などでけつつまづくのはおしい事だ、あまりに輕擧だ、そんなことを考へながら Ete の家を訪れた。今家の中を模様變へをしてるんだとかいつてごつたがへしてあるが、まあ入れといふわけで書齋に通された。おやぢさん、おふくろ、出てきた。息子が日本では随分お世話になつたさうでなんて日本式のお世辭を云ふ。弟の Aki が出てきて挨拶をする。御兩親はさうでもないが、弟は兄貴そつくり下あごが出てゐる。珍客來といふわけで午後は Office へも行かないで、僕を接待してくれる。

昨年晩秋の候對スペインのウオーターポロ戦の時マドリツドからしよい込んできた腸チブスのおかげでまる二月も寝込んでやつてと聞けば成程おもやつれして顔色もすぐれない。あの大兵だから無理もないかもしれないが、飲食の節制がちと足らなかつたんぢやあるまいか。日本に來た頃トーマスクツク社の世話人みたいな仕事をしてやつた僕は玉川の日本選手合宿で憲チャンあたりと一緒に飯をくつた時も北濱の鶴屋で御馳走をくつた時もおかずはもとより香の物迄サラダと稱してみんなにしたり、かき船へ行つたら酢がきを三人前もべろりやつて天ぷらよしさしみよし、In zwischen trinkeich SAKE. なんて云ひながら杯を手にする彼だもの、チブスにもなるだらうよ。何はともあれ、ドレツセルに都合を聞いてやらうつてわけで、電話したら先生また生來吞氣者招かれもしない日本へ Ete と行を共にしただけあつてヌーボー式は持前、どこへいつてるかわかりませんとは留守居の答。Magdeburg なんて處にや見るべ

き物もなんだが、Ete は僕を一應ひつぱり廻して、それから Hellas へ行つた。町はづれの原つばの中にポプラの繁みにかこまれて水たまりがある、其が Hellas の練習場だ。子供が二人泳いでた外<sup>15</sup>度といつてたから戸外で泳ぐ奴はゐなんだ、傍にテニスコートがある、現役を退いた人達の社交機關ださうだ。日さしのいい其コートでドレツセルがあせだくでマッチ最中だ。かたわらの木蔭にテーブルを出して子供づれも居りや編物なんぞしてる女達も居た。Hilda Schrader 及其一黨といつた様な男まさりなものも居る Arthur の試合がおわると一同卓をかこんで午後のお茶を飲んだ。茶やコーヒーこそ持参ぢやないが、サンドイツチなり菓子類はめいめい家から持よりだから愉快だ。オリムピア目指して競技道への精進も結構だが、スポーツを通じてのんびりした社交機關が日本にはまだない。今日は Hellas の練習日だ、夕方六時から町の家内プールであるんだ。ドレツセルの車でエテと三人クラブハウスを辭してプールに行つた。之は Y・M・C・A でもなければ市立でもない、始め Magdeburg の水泳愛好者達が、プールを一つ造らんかと當局へ持出したところそんなものはいらんとはねつかへされたさうだ、勿論只今の獨乙ならだまつても國家で各都市に陸上競技場とプールはつくるが、戦前だから話は別だ。それではといふので Hellas 外二つのクラブが、合議で擧金、貯金してつくつたのが、室内<sup>25</sup>米のプールで地下室に男女別シャワー、一人一室更衣カビネ、レストラン等の設備ある堂々たるものだ。練習は老年、青年、幼年三組に別れ各トレーナーが居てフリースタイル、バツク、プレストといふわけでやつてる。

ドレツセルが、お前は此人達の仲間にはいれといふ其組どうも下手くそばつかしだなと氣がついたらそれは老年組だつた。お前なんか青年組へきちやじやまだし卅二歳の乃公には老年組がにあいだ。三組にわかれてリレーなんかやつて卅五六歳から五拾近いぢいさん迄が、銀行會社、店の歸りに他愛なくプールにつかつてから家路につくあの氣分を日本の O・B へ取入れられんことを希望する、練習は二時間でおわるしまいの卅分が、Water Polo である、もうプレストを游がないエテは専らゴールキーパーをやるさうだ、アムステルダムオリムピア當時も對ハンガリー奮戦努めてゐたが。プールから出て三人で夕飯をしたゝめた、獨乙式の簡単なコールドミート、共に何

を飲むかとドレツセルが聞いたから、獨乙に居る間は俺はビールを飲むんだと答へたら Du hast ganz Recht ときて Kulmbacher といふ同じ dunkels の中でも Malz の大に入つた奴を出してくれた。彼等が、俺みたいな水には縁もゆかりない奴を遇すること厚きに之がほんとにスポーツマンの友情の發露なんだと感じた。歸國の上は Dr Suehiro や Iida, Nishimoto にくれぐれも宜しく傳へてくれ Munchen へたつ俺を驛迄見送つてきた二人は、もう二度と行くことはおそくないであらう日本がたまらなく懐

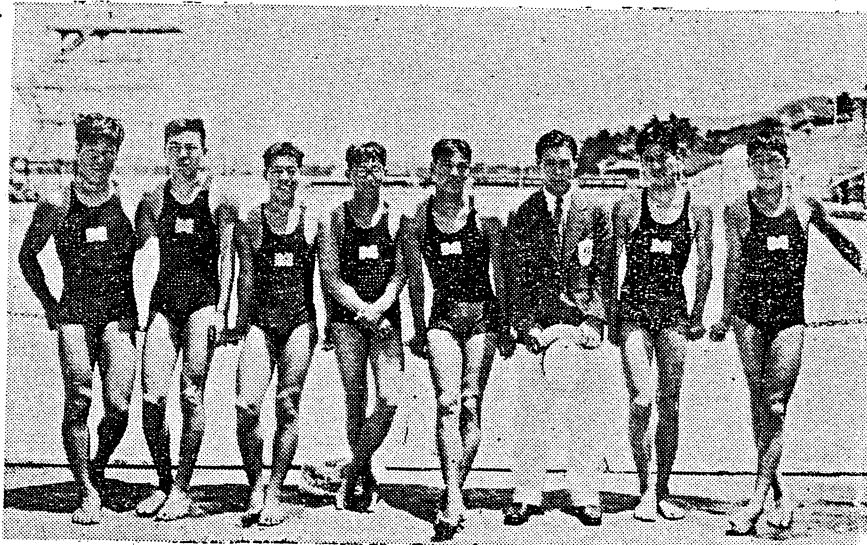
しい而して暗緑の杉を配した朱ぬりの春日神社の建築美を稱揚し智音院あたりで探幽や春信の筆に感歎の詞をおしまなかつた彼等と H. nois A. C. あたりに居てやんき一かぶれのした Arne や日本へ来てまでゴルフがやりたいなんて云ひ出す Weissmuller あたりとは同じ水の人でも輕重がある様な気がする。

N. B. 8月3日獨乙キヨルンに開かれたる競技會に Borg は招かれたのであつたが、瑞典水上競技聯盟は投票の結果7對にて Borg を Professional と決議したとは僕が歸朝後 Idretts liv 紙上で讀んだ。

## ALOHA ! ALOHA

明大水泳部 村 松 正 一

Aloha と親しみ深く心地良くひびく言葉で迎へられ、又同じ言葉で送り出された、廿一日間の滞布中吾々は色んな事を見、又は聞いて來た筈だ。それなのに半年たつて今遠征の事をさて改めて書き始めるとワイキキ海岸の、サーフボルド、カヌーの波乗り又はライトを消した自動車のキツスの音と云ふ様な下らない事ばかりで頭に浮んで來て仕末が悪い、さて仕方なくトラリタの底から當時の遠征日記を引っぱり出してそれをたよりに書き綴つて見よう。



ハワイ遠征の明大チーム …向つて左から鶴田、浦木、安田、武村、佐田、馬渡、村松、鈴木、

るために毎日午前午後二回ワイキキプールに練習に行く事にした。

強い太陽の光線鹽の強い海水は第一に吾々の目を

害して八名共血膜炎を起してしまつた、四、五日たつてもう全部がすっかり鹽水にも百のコースにもすっかり馴れて時々各自の全コースを泳ぎ得る様になつた、七月九日エール大學が、マロロ號でやつて來た、此の船マロロと云ふのは、飛魚の布哇語で吾が明大水泳部の部象も飛魚なの

で吾々は一寸愉快になりながら迎へに行つたのだつた。

始めて見るエールのチーム、實に堂々たるチームだ、コーチ、キツパス氏學生監 트레이ナーを含んで總勢十七名、そして、米國のケンブリジと例へられるだけあつて選手のゼントルな事吾々八名もたゞたゞ感心の外はなかつた、今まで外國選手と云へばワイスマウラ、ボルグ、等々かなり多くの人に接して外國選手と云ふものは皆あの様な人だ、と思つて居た考へが根底からくつがへされた、そして少く

[目次に戻る](#)

七月四日、オレンジ色鮮かなレイを首に一同冲天の意氣物凄く堂々ホノルルの地を踏む、と日記にある、だが實際は中々ドウして、汗ばんだ顔を興奮で硬直させ舌をかみ切りそうな英語で新聞記者と應答しながら、ノコノコとワァーフへ下りたのだつた。そして御出迎へ下さつた日布の日本人の方々の御顔を拜見して始めて一安心、元氣を取りもどして、ヤマシロホテルへ今度は幾分堂々と車を乗りつけた、此の七月四日から吾々は鹽水と百米のコースに馴れ



とも私は勝負は兎角此の様な選手等と試合すると云ふ事を喜ばしく感じた、そして其日から吾々はエールに對抗上、其の行爲の上に最深の注意を拂ふ事を申し合はせた、禁烟は勿論外出の時は必ず上衣を着たネクタイもしめた靴も磨いた、あらゆる吾々全體で注意の出来るだけの事はなるだけ禮儀正しく、スポーツメンライクに行動する様にした、此れが今度の遠征で競泳よりも船量よりも一番苦しかった、と今吾々仲間で話し合つて笑つて居る。

さて試合も早や一週間足らずにせまつて來た、吾々は極東大會以來相當の練習を重ねて來たので布哇に着いて、ただ鹽水と百米コースに馴れる程度の軽い練習で暇にまかせてエールの専門コーチの付いた練習を興味をもつてながめて居た。

さて一つ彼等の練習振りを書いて見よう、それは吾々に取つてあながち無駄な事でもなさうだから、書きおくれたが、十七名のエールメンは豫算の關係で全部ホノルルの先輩の自宅に合宿して居た、ハワイの或る水泳関係者は私にこんな事を話して呉れた『エールの選手は合宿して居ても、實に良くコーチの

言付けを守る、例へば起床就寢の時間は勿論コーヒーを飲まないと云ふ細かい點まで』

此んな次第で彼等は毎日午前十時に各自、自動車でプールに集まる、そしてコーチキツパスの命令一下糸亂れざる練習が開始される、コーチのメカホンから出る聲に於て彼等はまるで機械の様に動く泳ぎに關して何の心配もなくコーチを絶対に信頼して居る様子を上から見て居ると吾々は無精にウラヤマシくなつて來た、心配しながら自信なく各自が練習して居る日本の現状が、なさけなく又大きな無駄をして居る様に思へてならなかつた、今一つエールの練習の特色は（此れはレースに近いからであらうが）徒らに長い距離を決して泳がさない事だ、例へば平泳の選手だと二時間の練習中に三回ぐらい二百米を其の人の全力の八分目ぐらいな力で全コースを泳がすと云ふ風に各自のコースを八分目ぐらいの力で幾回も泳がず練習振りが目に立つた。

かくして練習が終るとトレーナーが大きいメデイシンケースから目薬を取り出して、選手全部の目を洗ひマツサージにかゝるのだ。

## 海外水泳通信

飯田光太郎

### 大英帝國競技大會

大英帝國を組織して居る、各國間の選手權大會はカナダのハミルトンで開かれたが、水泳は八月十六、十八、十九の三日間で、其の結果は下の通りであつた。水路の長さは25碼。距離が碼制で比較にならないので110碼に計算した、時間を100米として括弧の中に添書して置いた、勿論100米は110碼に等しくはなく一寸短いが、大體の見當と見てもらふたい。

#### 男子の部

			時間	分	秒
100碼	自由	ブーン(カナダ)	0	56	0
			(100米)	1	01 6)
400碼	自由	ライアン(濠)	4	39	8
			(400米)	39	07 8)
1500碼	自由	ライアン(濠)	19	55	4
			(1500米)	21	54 9)
100碼	背泳	トリツベツト(英)	1	05	6
			(100米)	1	12 2)
200碼	平泳	オービン(カナダ)	2	38	4

時間 分 秒

(200米 2 54 2)

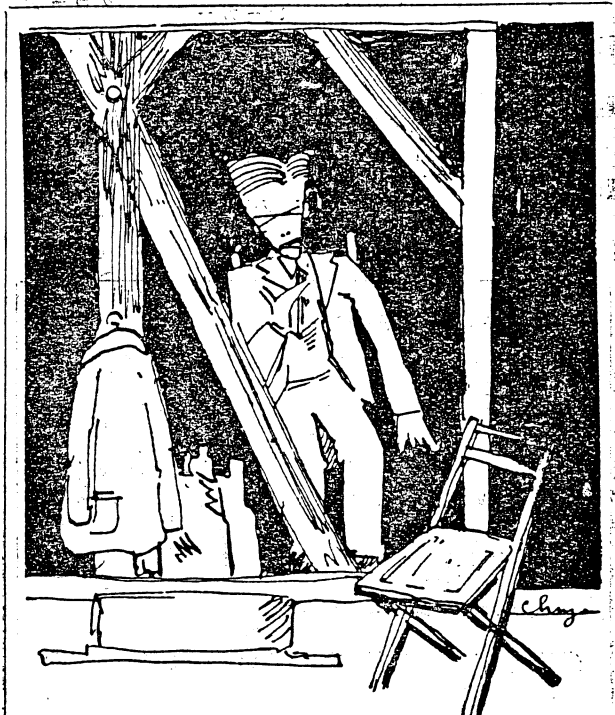
飛板飛込	フリッツ(カナダ)				
800碼リレー	カナダ				時間不明
女子の部					
100碼	自由	クーパー(英)	1	07	0
			(100米)	1	13 6)
400碼	自由	クーパー(英)	5	28	4
			(400米)	6	41 2)
100碼	背泳	クーパー(英)	1	15	0
			(100米)	1	22 5)
200碼	平泳	ウォルステンホルム(英)	2	54	6
			(100米)	3	12 1)

### 新世界記録

飛板飛込	キツトセツト(南阿)				
400碼リレー	英國	(ジョーイネス、ドリー、クーパー、ハーヂング、ジョーイス、クーパー)			
			時間	分	秒
			4	32	8
			(400米)	5	00 0)

成績から云ふと、男子よりも女子の方がよかつた。女子は飛込を除いた外は皆英蘭土の勝となつた。之は指導者ハウクロフトの効績と認められて居る。個人成績はジョーイス・クーパー嬢でリレーと共に四種目で優勝して居る。クレーに於ては、100碼を1分05秒8 (100米1分12秒4)で泳いで居る。

濠洲のライアレは19年であるから、今後注目すべき選手である。



インターカレチ競技會の審判長末弘先生、準決勝の選手組合せを入眼の付かぬ處でやる必要上、アチ、コチと搜したあげく、審判員席の後方亞鉛板で圍まれた奥行二尺のスタンド下を發見、圖は先生其處に鎮座ましまして煙草やお茶を置き俗界と絶つて公平なる番組編纂をずるの圖。

### マチソン嬢の活躍

米國シヤトルの新進水泳選手ヘレン・マチソン嬢17年は、ポートランド市の60米プールで開かれた北西太平洋選手権大會に、下の様な素張らしい成績を示した。

	分	秒
50米自由		31-0
100米自由	1	10-6
200米自由	2	41-2
100米背泳	1	24-4

### ダルムスタットの學生大會

獨逸のダルムスタット市で開かれた、第四回國際

大學競技大會の水上競技には、歐洲の十一國が参加した。特に興味を引いたのは、イタリヤが自由型400米で全勝して、1500米で一二等を取つた事であつた。

		分	秒
男子	100米自由	スケビー(ハンガリー)	1 03-7
	100米背泳	オールグイン(スエーデン)	1 16-2
	200米平泳	ワイクマン(ドイツ)	3 04-2
	400米リレー	ハンガリー	4 24-0
	飛込	ツイークラ(ドイツ)	
	400米自由	ガムビ(イタリヤ)	5 24-0
	1500米自由	ガムビ(イタリヤ)	22 34-8
女子	100米自由	サルガド(フランス)	1 21-0
	100米背泳	サルガド(フランス)	1 30-8
	200米平泳	ベール(ドイツ)	3 31-5
	飛込競技	ボルク(ドイツ)	

### 米國に於ける牧野の評判

日本からの電報によると、ハワイの新進選手マイオラ、カリリは1500米で、日本の新スターシオーゾー、マキノに敗れた。マキノは50米水路で19分35秒4の記録(19分35秒2の誤り)を出したが、之はスエーデンのアルネボルクの世界記録19分07秒2以外の最優な記録である、其上にマキノが、15年の學生であるから其効績は一層、驚嘆に値する。尙今日ボルクはアマチュア資格を失ひ、又他に20分を切る選手がないので、此少年が1500米の國際先導者の地位を取つたものと云へる。

### 片足の飛込

最近英國プリマウスで開かれた、英國の選手権競技に於て、ロンドンのワイルドと云ふ、片足の男が高逆飛に優勝した。此事は英國の水泳界に大論争を惹起した。高逆飛競技は走飛込があるので、極少數の専門家は、ワイルドに有利なる判定は全然、不當であると考へ、片足の者はどうしても之等の飛込を規則で審判に要求せられてゐる如く行ふことは出来ないと公言した。他の者は之に反對した。其結果此問題は統轄團體に於て決定することとなつた。

### 女子500米平泳

女子500米平泳の世界記録は今夏迄は公認されたのがなかつたが、濠洲のエルチ嬢が10分33秒4と云ふ記録を出して、國際水泳聯盟へ記録を申請をしたさうであるが、其後最近にフランスのジュアレス嬢

が9分15秒4で之を破り、又オランダのフィベルス嬢は9分27秒2の好記録を出したさうであるが、フィベルス嬢の泳いだ水泳路の一端は確りと固定されて居なかつたので世界記録として認められないとのことである。

### 獨逸の水泳選手権

獨逸の水泳選手権はミュンヘン市で開かれた。決勝戦はマクデブルクのヘラス・クラブとハンノーフェルのワツサーフロイントの組合せで5=2でヘラスが勝つた。ヘラスのメンバーはラーデマツヘル兄弟、アマン、シユンブルク、コルデス、ベネツケ及びフロツエ。

### 米國の水泳選手権

米國の水泳選手権はニューヨーク州のロツカエービーチで行はれたが、全然つまらなかつた。参加チームは僅に三組、選手権保持チームであるニューヨーク・アスレチック・クラブの外にカーネギー・ライブラリー・アスレチック・クラブ及びブルクリン中央Y. M. C. A. の二チームが先に戦つて前者が7=2で勝つたがN. Y. A. C. に樂々と6=1でひねられた。

### 米國の平泳

ニューヨーク・アスレチック・クラブのレオナード・スペンス(百米平泳の世界記録保持者ウォルター・スペンスの弟)は55碼プールで220碼平泳に2分54秒6の記録を出して同種目の米國長水路新記録を作つた。前記録保持者はウォルター・スペンス

### 1930年獨逸選手権 飛込競技記録

一島 崎 安 正

### 男子スプリングボード飛込

- |   |                |        |
|---|----------------|--------|
| 1 | エヴルド・リープシュレーガー | 193.08 |
| 2 | ヴィリ・ノイマン       | 179.48 |
| 3 | ハインツ・ブルマンス     | 178.18 |

優勝者リープシュレーガーの競技得点總計193.08は如何なる飛込を選択してゐるか判らないが、殆ど満点の成績である。採点の標準が異ふと云ふもののノイマン・ブルマ

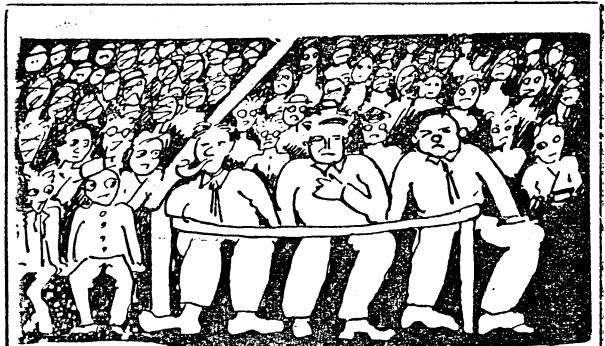
ンス等の成績と比較して、リープ・シュレーガー面目を一新した飛込を完成したことは想像出来る。

### 男子高飛込混合競技

- |   |                |       |
|---|----------------|-------|
| 1 | ハインツ・ブルマンス     | 92.52 |
| 2 | エヴルド・リープシュレーガー | 90.54 |
| 3 | ハンス・グローテ       | 85.24 |

此の三名の各飛込に於ける得点は次の如くである

	ブルマンス	リープシュレーガー	グローテ
規定飛合計	28.52	31.40	28.28
撰規飛	1 16.00	15.60	15.54
	2 17.60	15.12	12.40
選擇飛	3 14.06	13.60	14.82
	4 16.34	14.06	14.96
總計	92.52	90.54	85.24



炎熱焼くが如き八月初旬のインターミドル競技會も今年は夜間行われたので納涼がてらに見物せんとする人多く連日七八千の觀衆は定刻前既にスタンドに満ちて肅として聲さえ出す者もない位でした。然るに試合が開始するに於て放送局坐席後方の人々が盛んに左右に動くので今夜は中繼放送もせぬのに「何事なりや」と怪しめば水泳界の三巨人(向つて右より)石本、松澤、飯田の三氏に放送局坐席を占領された結果とわかる。

ブルマンスは選擇飛に64點を得て、リープシュレーガーを破つてゐる。

リープシュレーガー、ブルマンスの二人は、此の數年間獨逸男子飛込界の首位を争ひ續けて來たのであつて、1929年には、リープシュレーガーがNo. 1. として第九回オリンピックに出場し、昨年は、ブルマンスが兩種目に優勝してゐたのであるが、今年を上記の如き結果となつた。

### 女子スプリングボード飛込

- |   |            |       |
|---|------------|-------|
| 1 | オルガ・ヨルダン   | 97.78 |
| 2 | ベルタ・ジュルター  | 85.16 |
| 3 | ベルタ・カスロウスキ | 81.20 |

# 水 泳 教 授 法

—〔 1 〕—

## 杉 本 傳

中學生を扱つて來た私には其の経験だけしか持たないから、茲に申し上る事は多く此の年齢のものに關した事になると云ふ事を御承知願ひたい。

小學兒童から中學の下級二年位いまでの子供の時代は、何んとはなしに水を好む天性を持つて居るやうに思はれる。三年級四年五年と次第に青年になつて來るに連れ身體の發育に大變化が來るとき、子供時代のやうにまめまめしく活動する事が訓練なしに出來難い状態になると云ふ事は、誰れでも體驗する所だ。水泳に於ても同様で、少し水に入ると疲れる疲れるのが苦しいから嫌だと云つた調子で、水と縁が遠くなり勝ちのものである。

此の身體的にも精神的にも水に親み易い時代中學生なら一、二年時代——を掴まへるといふ事が水泳教育に、最も大切な事ではないかと思つて居る。

中學の二年終るまでに完全に水泳は面白い。自己は泳ぎ得る。遊びは好きだと云つたやうな氣持を注ぎ込む事が必要となつて來る。さうすると其れから後の青年時代の初期十六、七、八歳頃でも、進んで水泳をするやうになり、従つて立派な水泳家に最も必要な技術の基本は、此の時代にちゃんと出來上つてしまふ。

水上競技の選手も大てい此の時代に基礎が出来るやうである。單に泳ぎのみならず、總ての學問技藝も大體同じ道行である事は、今更説明する程の事でもない。

斯くして出來上つた技は、中學を出て上級學校に進む年になると、自分自身で其道を研究し開拓して行くと云ふ風になる。此の初めから云つた道行をよく留意して、其の時代時代に適した方法に於て導いて行くと云ふ事が、水泳發達の上に最も必要な事であらう。

### 素質—熱心—境遇—指導

先年二百米背泳及四百米背泳で世界記録を作つた入江稔夫君は、尋常小學を卒へて、茨木中學に入學した。一年級の彼れは泳ぎと云ふ事に對しては全然白紙で、水へ入つたが最後、手も足も出ない石のお地藏様であつた。が然しそれから四年の後の、彼れ

が五年級に在學して居るとき、オリンピック大會に日本選手として出場し、決勝に残つて奮闘したと云ふ事と、その秋世界記録を二つ作つて、泳ぎ得ざりし中學生でも在學中に、斯くの如き記録を残したのであつた。素質、熱心、境遇、三つともが悪くなかつたのである。たゞ私の指導方法が適法であれば、もつとよい成績を收め得たものと信ずる。素質—いくら熱心でも素質がないと大物になれない、蚊トンボのやうに瘠せた小さい弱い人が、如何に角力が好きで熱心であつても、大關にはなり得ないと同じ事で水泳も「素質がある」と云ふ事が第一に必要な事である。然らば如何なる素質が必要かと云ふと、身體が頑健である事と、泳ぎに必要な運動神經の發達したのが其れである。身體がいくら頑健であつても、泳ぎは腕、脚、呼吸の調子を巧みに持つて行く技巧がなければ、力の入れ損で進み難い、ワイズミューラー氏も泳ぎのスピードは九〇パーセントまでフォームだと云つて居るのは此の事である。速さはフォーム、其のフォームが出来るやうな筋肉を正しい練習によつて作らねばならないが泳ぎに對する運動神經が敏感でないとき正しいフォームに至るまでに、非常な長い時間を要する事になつて、結局その研究の爲にスピードの訓練が出来ないで終る事があり、又未完成のままのフォームである爲め、無駄な力が多くてスピードが思はしく出ないと云ふ事になる。

熱心—隨分よい素質を持ちながら、怠け者であつて練習を好かないと云ふ者がある。こんな者でも以前は競技會に出て立派に勝つ事が出來た時代はあつたかも知れないが、進んだ今日では到底そんな不眞面目なものは大成しない。指導者は此れを熱心にさせるやう上手に導いてやる必要があるけれども、此んなものがあると學校などでは、他のものにまで害を及ぼすから、餘程注意しないとイケない。

境遇—熱心で良素質はあつても、家庭の事情で課外に泳ぎを楽しむ事の出來ないものもある。又學課の成績が思はしくなく、進級の見込のない者、此れも水上競技をやる資格を缺くのであるけれど、指導者はこれが怠け者である場合には適當に注意して、

此の方面の懸念がないやうにしてしまう事が出来ると思ふ。其んな例はこれまで澤山あつた。

人間である以上、前記の素質、熱心、境遇、三拍

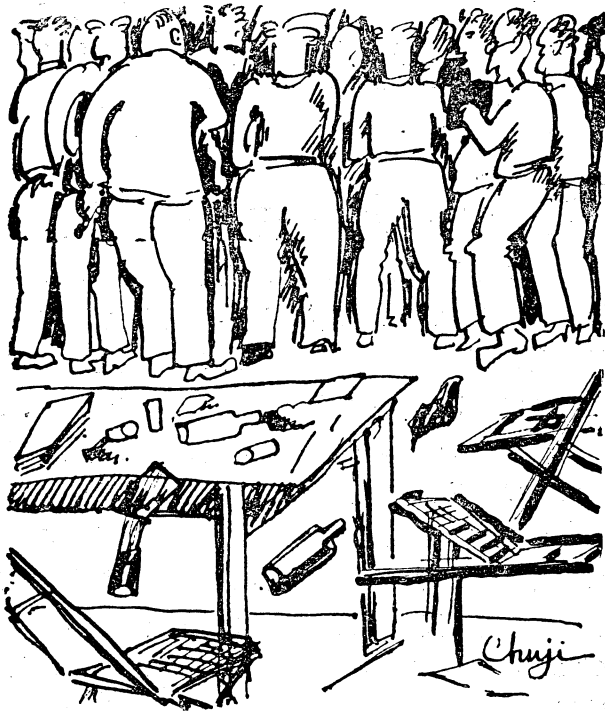
子揃ふて満點のものは甚だ稀である。此れは指導によつて其の短を補へば充分である。指導者の要は茲にあると思ふ。(續く)

## 水を樂め

醫學博士 大田正隆

學生々活を卒へてビジネスマンとなつた高石勝男君が、納りかへらずに十代の少年と飛沫を飛ばして、秒時を競ふたのは實に喜ばしい。私は之を見て高石君は矢張り、水泳三昧に這入りたいのだ。競技によつて無我の境致に入りたくてたまらぬのだと思ふた。水と心と一致して無念無想の境界に遊ぶのは流に乗つて御前游をする時ばかりではない。動中に静を求むるの妙味に浸り得るのは静水に眞游方を試みる時のみではないと思ふ。

高石君自身はこんな六敷い事はどうでもよいの



全日本選手権大會に於て、年少牧野君世界オリンピック記録を破つてゴールインすれば……

で、たゞ泳ぎたくてたまらぬから、泳いだに過ぎぬが、同君が此の夏競泳したので我國の老若男女にどの位水泳熱を盛ならしめたかわからぬ。高石君はパリーのスポーティングクラブで六十、七十の老人が氣持よさそうに泳いで居るのを羨望し、我國の水泳が現在の如くほんの小部分の選手のみ運動でなく、

あらゆる人のスポーツであり度いと希望を或る雑誌で述べて居らるゝが、高石君自身が將來水さへあれば何處でも、泳いで見せれば、我國の老若男女が春夏秋冬游泳を樂しむ爲めに、強力な清涼劑と成るに相違ない。實業家が青々たる原野でゴルフに興じるのも至極よい。然し裸で水中におどるスポーツは我國大衆の精神と肉體とを向上せしむるに隨一である事を忘れてはならぬ。

私は醫者の立場として永年の間の水泳が人體に如何なる影響を及ぼすか、而して健康な高年者にとつて最も恐るべき腦溢血の一原因となる血壓の上昇に如何なる關係があるか、又高年に成つてからの水泳が如何程血壓を上昇させるかを検査し、體育醫學的に年寄りも泳いでよいと云ふ實證を得て以て世の水泳家の参考としたいのである。

被檢者第一 外山高一氏(神傳流左下及右下泳手)

(一)年齢及職業 四十八歳、語學教師

(二)水泳歴

十三歳の年から水泳を始めて、其の年の夏の終りには約五百メートルを泳ぎ得た。其れ以來毎年水泳をせぬ年はないが、滞歐中は歐洲の河海以外プールでも泳いだ。

(三)水泳日時 昭和五年五月二十六日午後三時半

(四)場所 五十メートル淡水プール(芝公園)

(五)水溫 二十度五分

(六)氣溫 二十三度半

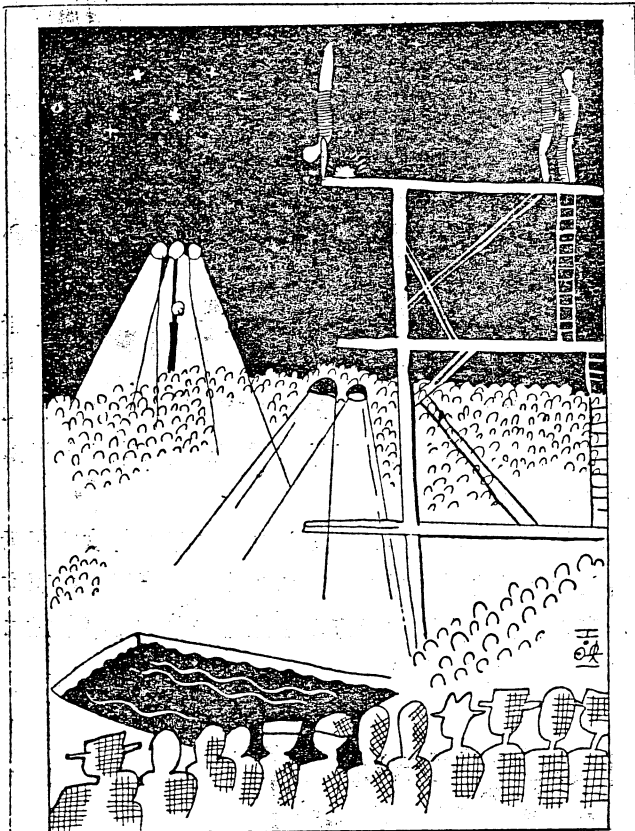
(七)水泳の種類 神傳流諸手伸

此の遊びは急流を横切又は短き溯潮(ウハゼリ)をする時に用ひて効多きものである。其故比較的間合をつめて、伸びの最も力強い所だけを用ひて、すぐ次ぎの動作に移る故、可成り勞力を費やすものである。

(八)距離及所用時間 五十メートル、一分十秒

(イ)脈 搏 { 水泳前 四十八 (可成遅脈であるが運動家によくある事である)  
水泳後一分 七十二、五分 六十、十分 五十

- (ロ)呼吸 { 水泳前 二十  
水泳後二分 二十三
- (ハ)血 壓 { 水泳前 { 最高百五十ミリメートル  
最低九十五ミリメートル  
水泳後 { 最高百六十五ミリメートル  
四分 { 最低九十ミリメートル  
水泳後 { 水泳前と略等し。  
十分



水谷選手の飛込み 全日本選手権大會、第三日、み空の星のまたたきもストップし、観衆は固唾をゴックリと呑み込んだ。何んと言ふ静けさであろう。誰かが生理的現象の咳拂を發散すると、忽ち『シツシー』でノック・アウトされて了つた。踏切前の懐中電燈の照明で、水谷選手の顔は、チョコレート色に染やく。何萬と云ふ眼が心が此の高所の一點に集中される。その瞬間です！此の寂莫を破つた百パーセントの狼藉物が現はれた。何ん、それは文明の利器、省線電車の警笛と齒ぎりでしたよ。

- (ニ)肢動脈音 { 水泳前 極微弱陽性  
水泳後六分 微弱陽性
- (ホ)膝蓋腱反射 { 水泳前 尋常  
水泳後七分 稍亢進
- (ヘ)アヒレス腱反射 { 水泳前 尋常  
水泳後七分 稍亢進

被檢者第二 本田存氏(水府流右下泳手)

- (一)年齢及職業 六十歳、語學教師
- (二)水泳歴

二十四歳頃より水泳を始め、其の後今日に至る迄持續して居る。

- (三)水泳日時 昭和五年五月二十七日午後一時
- (四)場所 五十メートル淡水プール(芝公園)
- (五)水温 二十度
- (六)気温 二十四度
- (七)水泳の種類 水府流太田派二重伸略體

二重伸は水府流で緊要な泳方であつて、一重の伸で流水を防いで置いて、次の伸にて充分前進するので、殊に略體では第二の伸の時更に再び受手を用ふるから、二度伸正體よりも力強くて、流水を横切るのに用ひられる強い泳方である。

- (八)距離及所用時間 五十メートル、一分十一秒

- (イ)脈 搏 { 水泳前 七十九 (四十年前脚氣に罹患した爲めか比較的速脈である)  
水泳後三分 九十二 五分 八十四
- (ロ)呼 吸 { 水泳前 十九  
水泳後五分 二十
- (ハ)握 力 { 水泳前 { 右二十七キログラム  
左二十二キログラム  
水泳後 { 右二十五キログラム  
三分 { 左十五キログラム
- (ニ)血 壓 { 水泳前 { 最高百四十ミリメートル  
最低八十ミリメートル  
水泳後 { 最高百四十五ミリメートル  
六分 { 最低八十ミリメートル
- (ホ)股動脈音 { 水泳前 微弱陽性  
水泳後七分 中等度陽性

- (ヘ)膝蓋腱反射 水泳前後とも左右等しき減退

- (ト)アヒレス腱反射 水泳前後とも左右等しく消失(四十年前罹患せる脚氣の爲め)

第二被檢者で水泳前後に稍著しく相違を示すものは左手の握力である。同氏は右下の泳手であつて、受手(左手)を一泳に二度宛使ひ、且つ當流の大家であるから受手を殊によく利かして居る爲めであると思ふ。水府流の横體で受手を利かす事は中々六敷い事である。

さて第一被檢者の外山氏は五十歳に近いのであるが、攝氏二十度位の水中で諸手伸を以て五十メートルを一分十秒で泳ぐには可成りの筋勞作用を要するのであるが、水泳直前百五十ミリメートルの血圧が水泳後四分には百六十五ミリメートルと成つて居るのであるから著しき變化とは言へないのである。

第二の本田氏は六十歳であるが、二重伸略體で五十メートルを一分十一秒で泳いで居るのであるか

ら、之も前者と略同等の筋勞作であつて、然かも水泳直前百四十ミリメートルの最高血圧は水泳後六分には殆ど水泳前と等しき百四十五ミリメートルに恢復して居るので、之は一層年齢の割合に變化が僅少である。

要するに今回の二氏に就ては、高年の水泳家としての平常血圧は年齢に比して相當であつて、可成り烈しき水泳後の血圧上昇も案外著明でなく、恢復も亦速かであるから此の二氏の程度の水泳は、たとへ之を長年繼續しても血圧に對して左程の影響はないのであらう。又高年になつてからも適度の水泳ならば、血圧に對して影響はなからうと思ふ。

さて若い者は男も女も病弱で運動に堪へられぬ人の他は悉く水泳をして水に楽しまねばならぬのであつて之は私がおすゝめする迄もない事であるが、老年に成つても健康體の人は適度の（水泳各自の體力に應じ、其の技量に適應して甚しく疲勞を覚えぬ程度）ならば、大丈夫である事を更に七十、八十の高年者に就いて實證する心算である。

然らば高年者が水を楽しむには如何なる水泳が最も適するであらうか。之に就いて少しく余の考へを述べて見やう。

自分は年をとつたから水泳は少し劇し過ぎるから他の運動をすると云ふ説を時々耳にするが、年に應

じた水泳をして水を楽しむならば、斯かる事はないと思ふ。高石勝男君は大正十四年以來今日に至る迄我國短距離界の第一人者である。其處で同君が七十に成つても歐洲の老人のやうに泳いで、我國水泳界（廣い意味の水泳界で、競技界では無い）の爲めに盡さるゝものと假定して、其の時の同君のクロールストローク（同君は何でもやる泳手だからクロールのみはしないだらうが）は、おそらく大した價值のものではなからうと思ふ。なぜなら競泳用游法（假りに速泳と名づける）は速度が大きくてこそ初めて其の價值があるからである。速泳は觀衆を驚かす程の速度を以て水上をすべり行く時初めて値があるので、斯かる時のみ泳者は無我の境に入り得るのであらうと思ふ。

人が老ゆると健康であつても何とはなしに勢が無くなるのが自然である。六十を越えると打つ鐵が延びぬのが常だ。水泳でも矢張り此の通りである。此に於て初めてさびある靜泳の價值が出て來ると思ふのである。

其故我國の競泳界に活躍しない青年は勿論の事活躍した諸氏も競泳界を退かれた後は、後進を指導する旁ら、日本古來の游方の妙味を味はれん事を茲に切望する次第である。



## 水球の研究【2】

吉本祐一

前號に於て、今回よりは水球の技術的方面の説明に入ることを約束した。而し乍ら今夏の水球界の情勢即ち神宮プール、並に横濱プールに於て數多く行はれた試合により、又文部省の水泳講習等にて多少なり共、水球の語が多數に認識された以上本競技の普及を希望する本編である上からは、先づ大體の競技について説明を爲すべきではあるまいか、殊に昭

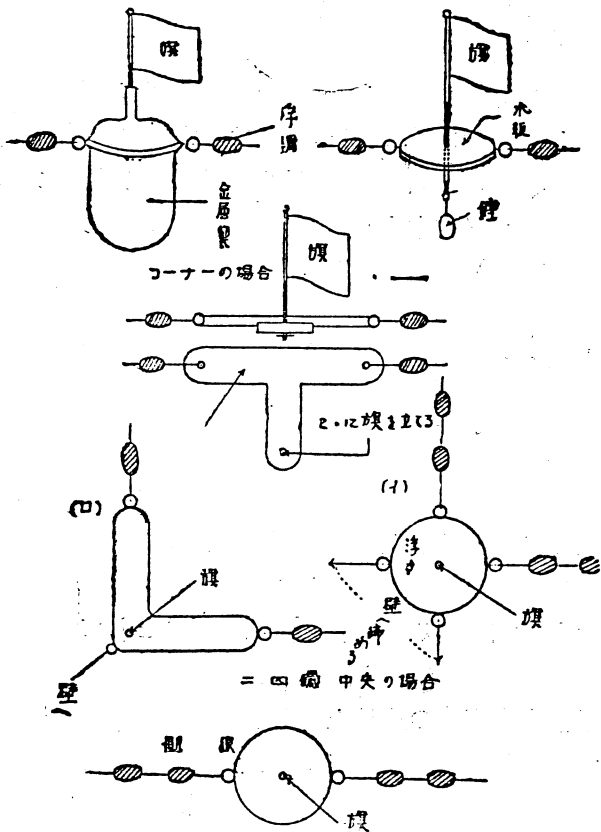
和五年版以後の競技規定には、競技の概要に關しての説明が省略してあるが故に。

以下説明に當つて規則の全文を擧げるは、かへつて繁雜の嫌ある故、讀者諸兄は既に昭和五年版の水球競技規定を座右に備へられ、本篇を讀まれる事として、競技の設備並に概要について、解説を試みる事とする。

(一)競技場の設備、競技場は規則(第一條)に抵触せざる範囲に廣さを持つた區劃された水面でなければならぬ。水泳場に適當な競技場の廣さを定め、ゴール、ライン並にサイド、ライン(側線)を浮綱を以て造り競技規則書一〇一頁第五圖の如く設置するを要す。海上又湖上の競技場は浮綱を以て、競技場を畫する事は必順の要仰であるが、プールに於ては、殊に二五米プールに於ては、略式として側線を壁を以て代用せしめるは差支へない。が、審判上の必要よりしてゴールラインは必ず設ける事を要する。

この二種の線をつくる浮綱は、競技者がゲーム中接觸するも傷つかず、ラインも切斷する事なき様に造らねばならぬ。浮綱は一般に丈夫な綱に圓筒形又は球形の木材又はコルクを通したりしたものを用ふる。これは競泳のコースにロープを以て充分代用

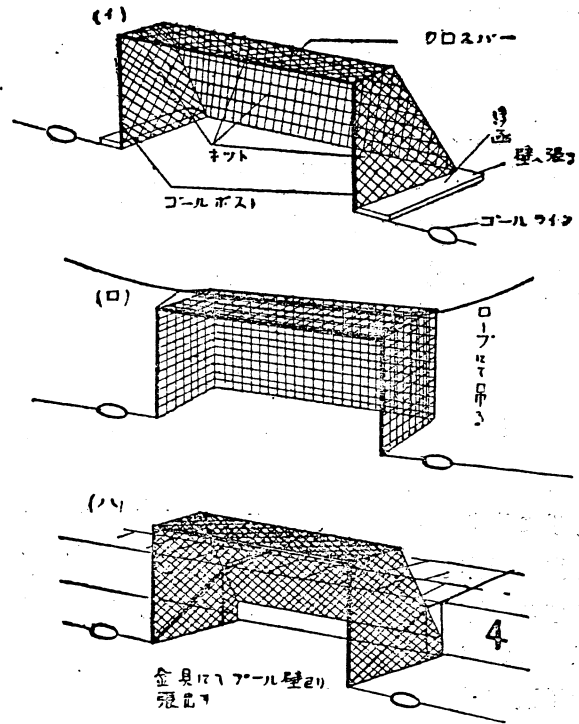
各種の標識



する事が出来る。この浮綱はプールの場合には壁とターンバツクルにて充分に締め、海上其の他の場所にては土俵、錨等で緊張させるのである。

コーナー、二碼線、四碼線、中央線の標識は側線上に明瞭に附さなければならない。即ち浮綱上に浮標を付けてその點を明にするので、その浮標は轉倒

せざる様注意して造るを要するので、一般に錘を下げた浮きに造りそれに小旗をつけて審判官並競技者



に認識せしめる、勿論各様のラインを明瞭ならしめる爲には、交互旗色を變へるべきである。例へばコーナー赤、二碼白、四碼赤、中央白の如くである。

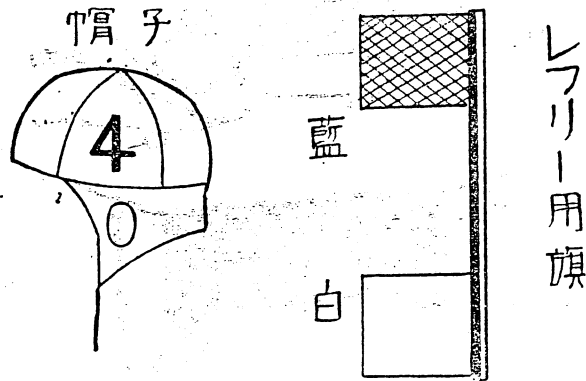
尙プール築造に當つて水球用のマーク即ちコーナー、二碼、四碼中央のマークを側壁に又、浮綱を締める爲の金具をオーバーフロー中に装置せられる事この競技場の設備を作るに簡便ならしめる。ゴール(第三線)はゴール、ラインの中央部に設ける。而してゴールの大きさは水深によつて高さに変化を及ぼす事を注意し規則に抵触せざる様に充分の注意を以て製作しなければならない。ボールが飛んでゴール入りて背面當り、又ポスト、バーにあたる力は強大なもの故、充分丈夫に製作しなければならない。ゴールの製作に關しては規則等三條並審判注意Bを熟讀せられん事を望む。

ゴールの設置は一般に二五米プールにては兩端の臺よりブラケットにて張出し、又はサイドに棒を立てて懸吊し、大プールにては懸吊し、又は浮かせるのであるが懸吊式は浮動多く、又懸吊ロープによる不便の點少なからず、可及的に現在神宮プールに於ける式のゴールを推奨する。ゴールに就ては下圖による適當のものを選ばれたい。

ボール(第四條)は革にて覆はれた空氣止瓣を供へた空氣室を有する球形のもの即ちそれは空氣を填充



する際に一般の蹴球用球の如く管より空気を入れて縫ふ式のものでなく、上の空気止瓣のケ所より空気を填充すれば縫ふ必要なく空気の洩れることなき球である。外國品には水球用球として完全なるものあ



るも手に入り難く且高價である、近時美滿津にて特許を得て製作してゐるが、尙研究中である。規則にふれざる範圍に於てA式ボールを使用するも正式とは云へないが一法であるふ。

帽子及旗(第五條)帽子は競技の烈しき爲に脱げざる様特殊の型につくらなければならない、又審判員の所持する旗も特殊のものである。下の如し。

帽子には番號をつけて、その競技者を明にし審判員は必要の場合その帽色の旗を上げ番號を呼んで指

圖するものとする。

尙この競技の爲には特殊の時計が作られてゐるがこれも我國にては手に入り難いもの故、不便ながら秒時計を用ひて計時を爲すも好く、一般ハーフタイムの時間平均十三、四分を要する點より延時間にて兩チーム協定の上時間を定めるも便宜であらう。

以上にて設備篇を了り、引きつゞき次號にては競技の一般的解説に進もふ。(續)

## 水 球 界 一 束

極東競技に華々しく蓋をあけた水球戦も引續く早慶戦に早くも白熱し、兩者独自の戦法を示し、七月に入るや、横濱外人團の挑戦、水、温かになると共に擡頭せる O B 軍の活躍神戸外人團の關東遠征、女子水球チーム Sard onyx club の誕生。又近くはインター、カレヂ、神宮プール八日間に亘つてのリーグ戦など、關東水球界は稀に見る賑はしきであつたが、秋風プールに訪れて水温下ると共に十月初旬幾多の挿話を残してシーズンの幕は閉ぢられた。

以上各種の競技會については、本號に詳説する豫定ではあつたが、多忙の爲め遺憾ながら次號に譲る事とした。(吉本生)

## ニ ユ ー ス

### 日米對抗—愈々米國に挑戦

本聯盟では十月十日理事會を開き兩三年來の懸案たる日米對抗水上競技會開催の件につき協議の結果、明年五月末日までには明治神宮プールに貴賓席を含むコンクリートスタンド(收容總數一萬四千五百名)とプールの照明、事務室、選手室なども完成するので、その完成記念として日米水七大會を開催することとなつた。

期日は一流選手を集めるに最も都合のよい全米選手權大會直後の八月上旬とし招聘選手はコヂヤック、クラブなどを含む、自由型短距離、平泳、背泳の各一流選手三名づつ合計約十二名といふことに決した、よつて本聯盟は末弘會長の名で同十一日米國運動競技の統轄代表團體である A・A・U に競技種目等の細目協定については、後便で田畑專務理事に行せることを附記し、正式の挑戦狀を發送した。

國際オリンピック大會を翌年に控へ世界の二大水泳國である日米の對抗競技は、世界運動の注目の焦點となるであらうが、本年の極東大會と全日本選手權大會などにおける牧野、横山、片山など中等學校新進選手の世界躍進に多大の脅威を感じてゐる A・A・U が、果して日本水上競技聯盟の挑戦に應ずるか、興味のある所である。

# 全日本に飛んだ人々

山内辰雄

現在世界の水上競技界中に於ける飛込王國をもつて燦として輝いて居る米國の、そのダイヴァ中でもデスジャーデイン無き後は名實共に世界第一の稱を受けて居るものこそ、今度二度目の來朝でお馴染みのミツキー、ライレーその人である。

すでに1927年玉川プールに於て我々は、當時大太平洋隨一との稱あつた、彼ミツキーの飛び振りに息を飲んで魅せられた事を忘れない。その後のアムステルダムでの活躍もさこそと思はせられた。

全日本選手權へライレー來る！ の報は俄然吾が飛込界に大なるショックと興奮を與へた。三年前の驚嘆して見た彼の神技は其の後どんなに巧くなつて居るか、又三年後の今日我々の頭もかなり進歩したつもりだ、その眼をもつてライレーの飛込を見られる事は、オリンピックを二年後にひかえて我々の興味と期待は非常なるものであつた、が併し、筆者に與へた第一印象が何んであつたかを忌憚なく云へば、ライレー恐るゝにたらず、米國恐るゝに足らず、然して次のオリンピックこそ見學にあらずして米國と堂々と覇を争そへるであるとさへ思はしめた。何がそんなに第一印象を與へたか？ 始めてその練習振りを見た瞬間、彼ライレーも一個の人間であつたと、そしてその程度迄にはじきに追付けさうだと直感させられた。

世界第一の稱ある彼ライレーの飛込こそどんな神技を見せるものか、日本のダイヴァには及びもつかない巧妙さを供へて居るに違ひないとの期待が大きかつた事は一般にさうであつたらしいが、さてその練習を見るに及んで、ダイヴァはダイヴァを知る、彼ライレーにも其の日の出來、不出來の我々と同じ様に、相當ある事を彼も亦神様ではなかつたと、一種の安心をささ覺えしめた。そして彼がデスジャーデインに負けたのも、あながち不思議ではなかつた事だと思はしめ、「大した事はないじゃないか」と異口同音なる語を聞いた。三年前に助走、踏切、フォーム、入水と總べての點に於て心から感嘆した當時を思つてみても、その間の我國飛込界の眼に見えざる進歩を如實に物語つて、餘りある程になつて來て

居る事を知る。然し乍ら、今年彼に依つて示されたる所の世界の第一流の飛び方を見て、我國ダイヴァが、外形的及び内容的に受けた直接、間接の教えなり暗示なりが、如何に多きな收獲となり、自信となつて行くかを思ふ時、このライレーの來朝こそ、凄まじい意氣で精進して居る、現在の我國ダイヴァの爲に、引いては我國飛込界の爲にどれ程大きな貢獻をした事になるか解らない。

彼の飛込を三年前と今とを比較して見ると、あの當時の凄さがすつかりけづれて了つて、ねつとりとした魅力、特にあのボードの先端へ下ろす時の力の用ひ方なんかにはたまらない巧さ、魅力を感じさせる。それにボードから跳ね飛ばされて行く、身體の調子、あの力と氣分！ あそこいらの處が日本のダイヴァ連に呑み込めたとしたなら占めたものだが、次に彼の技があつた時に比べて非常に複雑になり、高等になり、そして非常に裡結になつて來てゐる事である。日本のダイヴァの技が初等數學の位置で完成に向つて居るとすれば、彼ライレーの技は目下高等數學の境に入つて、それが未だ完成の境地に入らずして、目下その道程を歩んでゐると思はれる様である。故に若し、ライレーが思つた程巧くなかつたとすれば、その關係からだと思はれる。一つのあつた飛込型でも行く處を知らぬ、その技の進む道こそ、ダイヴァ自身の心の修養であり、修養された性格の表れであり、たゆまざる練習と研究心に依つて益々奥深く行く可きスポーツであると云ふ事を、三年前と現在のライレーの技を見てダイヴァは、今更ら乍ら充分そう思はれたと思ふ。

彼ライレーがハワイに於て高飛込で背骨を痛めた由で、高飛込に於ては僅かに走前二回半と途中宙返り位しか練習には飛ばず、その二つと云へ共未だ未完成の様であつたが、彼の後一回半宙返りが、現在の様なシステムで飛んで居るかと思ふ事を見たかつたのは、あへて筆者ばかりではなかつた事と思ふ。スプリングボードに於ける一回半モルベルグと後一回半宙返り、それに十米上からの後一回半宙返り、この三つは我國ダイヴァ達にとつて、目下最も

苦心して居る種目で、特に十米からの後一回半宙返りを完全に飛べる様になれば、目下の處、ライレーの高飛込の技量を思ふと、オリムピツクボードよりはるかに有望であると考へられる。それだけに高飛込に於ては、ライレーの負傷が残念であり、その結果が我々にとつては非常にものたりなさを覺えさせた。來年の日米對抗戦の折りには、その意味で、高飛込に於てはライレー以上の技を持つシヘイカと、女子飛込界の第一人者ジョージア、コールマンの妙に接したいものと思ふ。

高階君がオリムピツクに於て數多き幾多の名選手の感化を受けて腕を上げた様に、接して親しく見、且一緒に飛ぶと云ふ事がダイヴァにとつて一番上手になる近道であり、必要缺く可からざるコーチとしての専門家が居らない、我國現在の飛込界にとつても、その事が層一層大切な條件となつて居る事を知られたいと思ふ。

ライレーが來ると聞いてダイヴァ仲間にも、色々な豫想が立つたが、中でもスプリング、ボード飛込に於て、どの位點數の違ひが出来るかと云ふ事が興味の中心となつたが、水谷、鈴木、原君等の現在の實力を見て、筆者は五十點以上は絶対に違ふまい、それ以上違ふ様ではとうてい問題にならない、と思つて居たが、水谷君の好調と迄は行かないが、だが、普通の出來で五十點弱の違ひで筆者の豫想とへだたりはなかつた様である。そして五十點の違ひと云ふと非常に差がある様であるが、ライレーに依つて目の當り見せられた、その世界第一流のシステムを現在では直に咀嚼するだけの技量と精神を供へて來て居る事を思へば、五十點位の違ひは、少しも悲感の材料や、問題にされない材料とはならない。昨年から今年にかけて一流ダイヴァの總得點が、百五、六點から二十點止りに停滯し

て居る形だが、それが何れもが一寸した處の引かゝりが飲み込めず、煩悶を重ねて居る様な理由だつたから、ライレーに依つて、その煩悶の原因を見極めたダイヴァ達の今後の躍進は停滯して居たゞけ、それだけに素晴らしさを豫想させる。



ライレーの飛込

ライレーが日本のダイヴァは技のこなしが硬い様だと云つてみたさうだが、それは技の硬いのでは定評のある、水谷、鈴木兩君と一緒に飛び、それだけに兩君のを多く見て居た關係からではあるまいか、原君も未だぎごちない、硬さが抜けないが、足の肉離れの苦痛に悩んでいつも程の無理と思はれる程の力の入つた、踏切が出来なかつた爲か、あの日は技のこなしに無理が見えなくスムーズで、全體として非常に好い感じを今に至る迄筆者の頭に殘して居る。特に後踏切前一回半宙返りではライレーのに比べてシステムは初等かも知れぬが、高さと言ひ、入水と言ひ、決して遜色はなかつた程、美事だつた。練

習熱心では人後に落ちぬ君の將來は最も輝かしい。然し乍らその選擇飛の種目に於て昨年より少しも向上して居なかつた事は、ロサンゼルスを控へて君の前途に一脈の暗影さを投げて居る様だ。

昨年スプリング・ボードに不振を極めた水谷君も今年は極東大會以來練習を充分積んだゆへか、競技となると不思議と思はれる位、確實な所を見せて、下馬評をうらぎつて、原、鈴木兩君を美事におさえた處など、流石である。これぞと云つて感心する様な技は無いのだが、技のこなしの確實さが君の最も強味とする處であらう、後一回半宙返りと一回半モルベルグはもうかなり長い年月の練習を積んで居るのだが、少しも進歩の後が見られないのは、システムが悪いからだと思ふが、如何？ 宙返りを首と上半身で廻さずに、もつと腰部を中心として樂に廻し

伸ばして入水する迄の力の餘裕を首と上半身に残して置く様にすれば、もつと輕快にして確實なフォームを得られる事と思ふ。それから助走の最後の一步にもう少しスピードを付ける事が出来れば、君の飛込に良い革命が起るであらうし、技が確い確いと云ふ批難からも抜けきれぬ事と思はれる。スプリングボードに比べて高飛込の成績の甚だ振はなかつたのは、練習不足と云ふより他に理由はなかつた様であつた。高飛込に於ては昨年迄他の追隨を許さなかつただけに、その總得點、わづかに54點74で六等に落ちた事は風落寞の感なきあはれ、それだけに一人一種目でなければ、とうてい今後は勝はむづかしくなつて來たと云はなければならぬ。ライレー程のダイヴァでもスプリング・ボードに比べて高飛込の選擇飛種目の飛數が甚だ振はない。若しあの日水谷君がもつと高飛込の練習に全力を注いであつたとすれば、ライレーと物凄い接戦を見せた事であつたらうと思はれた。それは、今迄の高飛込の君の經歷と實力から云つても充分想像された事である。

スプリング・ボードに於ける最高乗數を採つて、こなせるダイヴァと云へば目下の處鈴木康友君を第一とする。難種目と云はれる後一回半や一回半モルベルグに於けるシステムはライレーに比べても、今一步と云ふ處迄行つて居る。技の上から云へばいつも、優勝候補と目されて居乍ら、その踏切の一寸した力の不足と踏出して技をかける迄のタイムの氣分が未だ洗練されて居ない爲と、競技に對する心のゆとりが未だ出來て居ない爲に、いつもおしい負け方をして居る。高飛込に出場するとすれば、選擇飛を確實にやつてのけて、ダークホースとしてはおそらく、ハイダイヴァ達をおびやかすに充分なだけの技量をも持つて居る。そして何よりも感心して良いのは多忙な業務を持つて居る爲、練習が不充分にもかかわらず、あれだけの成功を上げて行く處など、もつと認められても好い筈である。スポーツが、いや競技が、有閑階級や學生達の專有物でないと云ふ意氣を見せるだけでも、ある意味では推賞しよいダイヴァであらう、鈴木君の技が硬い、入水に對する意識が未だ不完全だと云ふ缺點も、君が云つて居る様に、もつと他のダイヴァの様に練習時間が豊富でありさへすれば、直に消しやる事の出来る問題であらう。

誰がなんと云つても、練習不足である事を一番好

く自分が知つて居るのは、永松君自身であらう。それなのに、今年は、いさゝか、高飛込に於ける君の當り年の感があつた様だ。事實又、君の性格から云つても練習時間を多く採れない、境遇から云つても亦その雄大な飛ぶりを思つてみても、君はハイダイヴァとして、優れた素質を多分に持ち合せて居るだけにスプリング、ボード飛込程練習時間を採らない高飛込に於て好成績を上げるのもあえて不思議ではなかつたかも知れない。全日本の折り、技としては、未だ危つ氣を多分に感じさせたが、全體としての感じは一番安全さを思はせ、いつも足先の伸びが不足なのに、この時は何をやつても完全にシャープであつたのと、走前一回半を兩足踏切で巧くこなして見せたのも、著しい進歩の跡を見せて、飛込界の元老としての君も、まだまだ今後の躍進を十分に物語つて餘りある様である。特に當日の後踏切前一回半宙返りは、水谷君がタツクでかなり綺麗に廻して居乍ら、入水の角度を採るのが遅すぎ、腕が伸び切れず、反りつばなしで入水し、惜しい處で失敗したのに反し、踏切と云ひ、技を早く済ませてかなり上から直角に水へ突込んで行つた工合なぞ、あれで、廻すフォームと感じをもつと抱めて居たなら、おそらく當日第一の出來であつたらうと思はれた。

豊富な運動神経と多分に器用さを供へた石田君のハイダイヴァとしての足本もどうやらしつかり固まつて來た様である。あの日硬くなつたせいか、練習時のフォームが出ず、かなり失敗が多かつた様であつたが、走前二回半宙返りだけは、ライレーと競つてほとんど遜色も無い程立派に飛んで見せた。入水などはライレーが、投げられて居たに反し、美事に突込んだ處など、一邊に男振りを上げて了つた。それ程の君も少しばかり飛込に對して臆病さを見せる事と、神経過敏過ぎる事が玉に疵である。それから身體の伸びがまだ本當に出來て居ない事も、技がこなせるだけに惜しいきはみである、君も亦入つて居る學校の關係上充分なる練習時間の採れない事が、君の飛込の爲に遺憾である。

少し硬い感じがつきまつて居るが、そのフォームと云ひ、入水と云ひ、ハイブレンでの技量が他を壓して來たのは奥平君である。長い間、踏切の弱さから來る全體の力なさが、どうにも弱々しい感じと多分に危険味を思はせて奥村君の飛込と云ふと、ハーンと思はせる程、貧弱極まるものでしかなかつ

た様であつたが、今年はスプリングを捨て、高飛込に精進して来たゞけあつて、踏切も大膽になり技もしつかりして来て、持前の美しい體軀と伸びを武器として、その進歩の跡は素晴らしいものがある。然し乍ら奥平としての最も惜しい缺點が一つ、それは氣分である。最初の規定飛の一つ二つが巧く行かないと後の種目を投げる様に見えるが、そんな氣分を持ち続けると次の競技の折りにも成功しなくなる。關東豫選の折あれ程確實な處を見せたのに、全日本の時にはまるで慎重味が缺けて居たには見るものをしてすつかり失望させられた。次のシーズンには恐らく君の天下が来る事と思はとるが、それだけに競技の折りは充分なる、慎重さを持つてのぞまれる様に、それから助走のフォームと後一回宙返りの研究とを忘れない様に。

末次君も今年に入つての進歩は著しく當日規定飛を六點平均に飛び、選擇飛に於てはイサングーとモルベルグに出色の出來榮へを示したが、立前一回半宙返りでの失敗が最後のキーポイントとなつて、惜しい處で、石田君におさへられて了つた。宙返りものになるとまるで不器用さを見せる様だが、まつたく惜しい事だ。

齋田君の立イサングー飛は天下一品だが、他の種目と同様、末だ確實味が無いので、どうにも仕方がない。只君の將來は非常に大きい様な氣もするが、それは君の心掛け一つであると云へる。

内山君の高逆飛は奥平君のと甲乙のない程綺麗なフォームを作るが、末次、齋田兩君と同じく、他のダイヴァ以上に、業務の關係上練習時間が少ないので、どうにもならない、まつたく、その素質の十二分な持主だけにどうかならないものかと思はせる。夜間に使えるインドアプールの出現を最も強く希望するグループであらう。

茨木中學から来た、野田、西尾兩君の將來は眞たく輝かしい様である。特に野田君は西尾君に比べて一層そう感じられた。そして何より強味であつたのは全部が平均して居つた事である。只踏切時に強く踏切らうとする爲、腰が後へ少し落ちる缺點はあつたが、コーチと練習場と設備にめぐまれてゐる事を考へると、來年當りからそろそろ關東の一流連もおびやかされそうである。競泳より飛込へと、そう思はれる様になつた此の頃の茨木中學も、杉本先生の話によると一校一と組に一人、ダイヴァとして育つ

て行けば好い方だが、それもむづかしいとの事、それに高飛込は末だ身體の出來てない少年達には進められないと云つて居られた。男子でさへ、それも元氣盛りの中學生でさへークラス一人のダイヴァが出るか出ないかであるそうであるから、現在の設備なり、條件なりを思つて見ると、女流ダイヴァ出現の少ないのも無理でない事と思はれる。極東大會で好成绩を上げた、小澤さんは學校の關係で、御子紫さんは家庭の關係で、藤田、金坂兩名は病臥の爲、出場出來なかつたのは残念であつた。全日本で一等になつた、小塚さんはダイヴァとしての素質は上々で、スプリングする調子と云ひ、器用さと云ひ、中々見る可きものがある。黒田さんはまだようやつと六種目を飛ぶと云ふだけで、レベルはずつと落ちるこの二人と小澤、御子柴、藤田、金坂の四名が競ひ争つたとしたなら、女子飛込界もかなり賑やかになつたに違ひないし、一般の啓發ともなつた事と思はれる。

石渡さんの高逆飛は藤田さんが病で仆れて了つて居て現在では文字通りの第一人者である。極東大會の折りは走飛込の方が高飛込に比べて失敗が多かつたが、今度は十米からの走飛込が素適に良く、その進歩は著しいものであつた。

最後に、夜間行つた飛込のエキジビションは照明が少し暗過ぎたきらひはあつたが、その人氣はかなり好く、我々が見てゐても中々好ましい感じを與へられた。競泳に昂奮した觀衆の氣分を轉換するだけでも必要である事と思はれる。

## 聯盟マーク募集

下の如く聯盟マークの意匠圖案を募集します。

- 一、本聯盟を表し、簡單にして特徴あり旗、バツヂ等何にでも用ひ得るもの。
- 一、締切本年末日限り。來年二月號にて發表。
- 一、採用した優秀なものには賞金貳拾圓を呈上す。

日本水上競技聯盟

## ライレーの飛込

日本大學 井上一郎  
水泳部

LAACのマイケル、ライレーの突然の訪問は、行詰つた観ある吾國のダイビング界に大きなショツクを與へて、吾々ダイヴァーへ多くの貴重なヒントを残して行つた。

デイスジャルデンなき後のライレー、次回のオリンピックに於ける最も注目すべき存在としての彼へ吾々の期待したものは、事實に直面した時、意外に素直に解けて、彼の技に就いて親しみを以てアングスタンドする事が出来た。そしてその親しみの中に一條の光明が誰にも閃いた事である。それと同時に次回オリンピックへの準備に先つて來朝して、よりよき資料を齎らした事は、吾々を非常に力づけて呉れた。

吾々は彼の進歩した技術に就いて最も多くを教へられた。彼の飛込より受ける印象としては、第一にスピードと活氣とに充ちて居る事、第二に進歩したシステムと技巧を持つ事、第三によき入水をなす事などであつた。今之を、一、踏切、二、モーション及びフォーム、三、入水、の三つに就いて記憶の斷片を書き留めて見たいと思ふ。

踏切は最も活氣に充ちて、スプリングボード飛込に於ける助走は、最初のステップは幅より寧ろ高さを取つてなされ、彼の充二分に發達した身體の體重に合はせて、最も力と速さのあるキツクに依つて板を踏んだ。不幸にも日本ダイヴァーに使馴せられた板は此の新らしいダイヴァーを押上げるには、あまりに大きな振幅と柔軟さを持つて居たのだつた。板の柔かさと遅さが、力と速さを持つ彼の踏切にバランスする事が出来なかつたのだらう。

高飛込に於て、彼は其踏切を高さよりも飛出す距離を作る様に使つた。一寸注意を引いたのは最後のステップを殆んど繼足に踏んで飛ぶ事であつたが、以前から最後のステップを狭くコーチされて居た、自分達には、寧ろ、それより一步前の、全然フライングする大きな一步がより注意を引いた。フアンシー（曲跳）は兩足踏切でなされた。之は踏切の力とスピードをつけるためのものであつた。之の力とスピードに依るダイヴのスケールの大きさは、決して其の美しさは感ぜしめなかつた。その點スタンデン

グに於ける踏切はしばしば美しさを見せて呉れた。

空間に於けるモーションは、踏切の後を受けて活氣とスピードを顯はに見せられた。そして之は踏切の高さを取り、上方に於て早くモーションを終つて入水前の身體の伸びた時間を長くして、入水を樂に正確にする爲に最も有効に使はれた。其の爲に急激な強いヘツドロート、切出ナイフの刃の様な敏捷な伸しと、槍の穂先の様な鋭い突込が、夫れ夫れ按梅せられた。

又モーションは大きいと云ふより華かであつた。それだけに技としての洗練さは、その不正確さに現はれた。尤も之は左して緊張しない彼の氣持と練習不足にも關係するだらうが、

フォームは腰以下の伸びが、彼の發達した豊滿な肉體線を助けて、より美しいものにした。それだけに彼はフォームに就いて幾分無關心の様にも思はれた。例へば、足先は實によく伸びては居るが、一時位の間はしばしば見受けられた。十米の走前逆飛に於て足先が、正確に着いて居た事は殆んどなく、大抵七米乃至五米邊り位は離れて居た。又イザンダーに於てツイストしないダイヴを見た事はなかつた。

入水は其角度に於てあまり正確でなかつた。にもかゝらず入水時に於て殆んどスプラツシュを上げなかつた事に對して、彼の身體に依るものと答へるのは、少し速断に過ぎる。筆者は、日本では身體を水に落し込む。と云ふ言葉をきいたし、又彼が入水時に於て潜り込む様にも感じた。之は彼の、突刺す様な、兩手先が揃つて伸びきつた鋭い突込について研究すべきものがあらう。

筆者は前回の日米大會を見て居ない爲に當時の彼に比較する事は出来ないが、全體として今回は氣持のゆるみと練習不足とは、彼の術から見逃す事は出来なかつた。

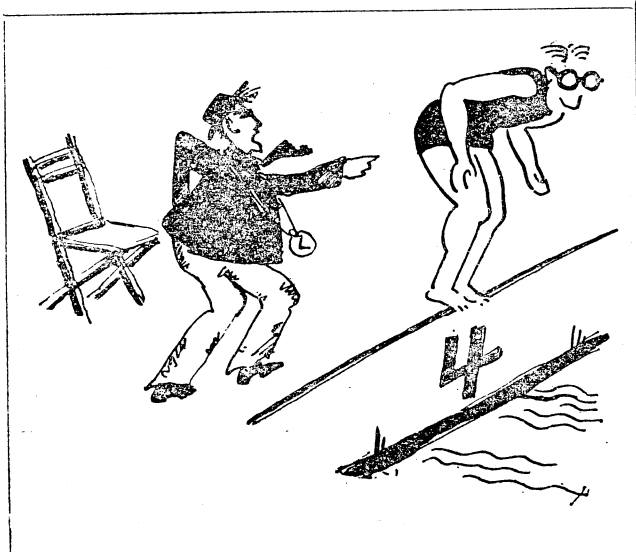
之等の幾分のハンデキャップはあつたにしろ、兎に角世界の標準を見て印象せられたもの、それは次回のオリンピックに於ける、吾國ダイヴァーの進出その可能性の高いパーセンテージへの希望でなくて何であらう。

それにしてもライレーは、いゝ時期に來て呉れたものである。

## 選手権大會餘談

安部輝太郎

一九三〇年選手権大會隨想、記録、論評等……誰が如何に冷靜に書いても絶對の客觀性を其中に求めることは、期待する方が無理である。少くとも認識論に迄逆れば、書く人々の顔振れを見ても、各々一家言を以て着色せずんば止まぬ面々だ。書く方も読む方も其の方が面白いに違ひない。と獨斷して筆禍



インターカレデの競技會百米決勝に於て慶應の野田君四コース線上に立つて審判長の笛を遅しと身がまえている様を、先輩時計員の山本君が何氣なしにみると邊の厚いロイド眼鏡を掛けたまゝ今にも飛び込もうとしている。山本君驚いたの何んのと半オクターブも高い叫び聲を上げて『眼鏡』！ 野田君もヤツト氣が付いて『オー眼鏡』

にかゝらぬ程度で勝手な熱を吹かして頂く。お交際合ひである。

物に例ふれば、あの夜の天の河を見上げた様な朗かな大會であつた。その成績の頼母しさは血の氣の多い水上聯盟幹部の頭に「オリンピック」といふ文字を焼き付けること、離陸の自信を得たブロムリーに於ける「太平洋横斷」の如きものがあつた。

今夏の大會にゾリラ、クラブが來られなかつたのは其の意味でも残念であつた。アメリカのA.A.Uの連中も許可すればよかつたと思つてゐるだらう。歐洲行を斷つたからやれぬ、とは藝がない。

やつてきた紅毛の輩についてスケッチを斷片的にお目に掛けやう。

ライリー。

あんなことが生れ付き上手な筈がない。

日本のダイヴァーよ奮起して思ひ上つたヤンキーの鼻を開けて呉れ給へ。而し彼、當りは社交的な若者だ。悪くgirlsを求めてゐたが如何したか？

カリリ兄。

兄弟共日本を一ナメにする氣で來たさうだ。極東に來たフィリピン人と同じく、同タイムでも着差のある事實を了解し兼ねる位の頭の持主。亡び行く民族の爲めにもう少し強くなれかしと思ふ。

カカリ弟。

兄と共に「アニキ」「オトート」と呼ばれて喜々として自任してゐた。泳ぎも人間も未完成、それ丈けに先があるだらふ。アニキより酒が好き。

バトラー。

アメリカのオツクスフォード、エールを思はせるものがあつた。ハワイに於ける明大選手を激賞してゐたが、逆にエールに對して同じ好感を吾々の間に残して行つた。來年北米代表選手も招待するから來ないかとの話に、エールはチームとして強いが花形選手がゐないから駄目だらうと云つてゐた。兎に角觀光に來る海上大學生とは異ふ學生もアメリカに居ることを知らして行つた。エールが理論拔きの猛練習によつて（但し監督が醫者で選手の保健には特段の注意を拂つてゐるとか）インターカレデの榮冠を得たといふ話もキザでない自慢だと思ふ。酒煙草を用ひす刀をもらつて大喜びで歸つた。

監督コンクリン。

名前からして愛嬌者、と云つて先年來たデレスキューの様に下卑ても居ない。田畑理事と大分意氣投合して、ライリーの飛込に嗅じ入る同氏に「貴君もあの位飛べれば因る程女の子が惚れますよ」といつた調子。ズイ分如才がない。デ氏は勇辯で大きなこと許り云つてゐたが、A.A.Uでは殊に最近非常に部分的存在でしかない由。コ氏は金錢に廉潔な處邊り一寸ハワイの親分と云つた風。大會後「あんなに泳がせては横山少年は大成しない。現在の快記録が目的なら兎に角、大成させやうには、自分等なら二三年蟻伏さず氣でユツクリ練習させます」と切に言つてゐた。「散々負けておいて何を言つてやがる！」と云つて了へばそれ迄だが、してみるとよくよく痛切に感じたものらしく、誰も承知の事乍ら、一面、吾々のやり方とアメリカのやり方とに差のある事實を物語るものとも云へやう。根氣のよい方の御一考を願ひしておく。了

## 第九回全國學生水上競技大會

### 決勝競技の経過

#### 松澤一鶴

年毎に盛になつて行く會ではあるが、今年も亦 Inter college は賑かに秋を飾つた。プログラムに盛られた競技回数が第一日だけで 72 回、第二日 20 回と云ふ多數に上る。此全部に就て経過を書くのは大變な事であるばかりで無く、興味も薄い事であるから、主として第一部、第二部の決勝に就て述べる事にする。

競技は九月二十、二十一の兩日に亘つて午前九時から明治神宮外苑プール(50m)に行はれ、第一日の如きは日没後夜間照明の下に行はざるを得ない様な事になつて居つた。兩日共に快晴に恵まれ、稍身のひきしまるを覚える秋冷の氣に、プールの水も殊に爽かに見えた、當日は野球、ボート、庭球等、多くの競技が東京では行はれたにも拘らず、兩日ともスタンドは殆ど満員の有様であつた。兩日の Condition は次の通りであつた。

20日 氣温19°0—24°0. 水温21°0—22°0.

21日 〃 20°0—24°5. 〃 21°0—22°5.

#### 第一部決勝競技経過

##### 50m自由型

水路は 2 コースより林(慶)、高橋(早)、杉野(明)宮本(早)、河石(慶)、熊野(早)の順序、Inter college の此の種目の審判だけは泣かされる。高橋と宮本は豫選準決勝で何れも 27 秒 0 で大會新記録を作つて居るどんな事になるかと、選手も、觀衆も、役員も緊張以上の緊張だつた。出發合圖員小林君と氣分も合つて、選手は一樣の、よいスタート。最初の半分は殆ど一線。——磯浪の碎ける様な白浪の一線。宮本、高橋が其間から抜けて來る。Goal 前 10m 高橋の Fast spurt が利いて宮本とも一身長之差、宮本から腕一つ遅れ、河石、杉野、林、が約一米位の間にバタバタとつき、一寸遅れて熊野が氣が抜けた様についた案外樂な着順で役員もほつと安心した。高橋の日本

記録 26.6、三度 Same Time で且大會新記録の宮本 27.0、河石が三着で 27.8 であつた。

##### 100m自由型

水路はやはり 2 コースより丹下(法)、佐田(明)、高橋(早)、野田(慶)、宮本(早)、河石(慶)、六人の決勝であつた。準決勝の Time を見ると佐田が 1 秒 4、宮本、1 秒 6、高橋、2 秒 4、野田、2 秒 2 と云ふよい Time で殊に午前中に於ける野田の 200m に於ける奮闘振りで其の元氣な事が證明されて居るし、佐田は病氣の後であるから或は疲れて居るかも知れないので、宮本、高橋を相手に此の一戦は期待された。結果は豫期通りの白熱戦で接戦振りは却つて 50 m 決勝以上であつた。

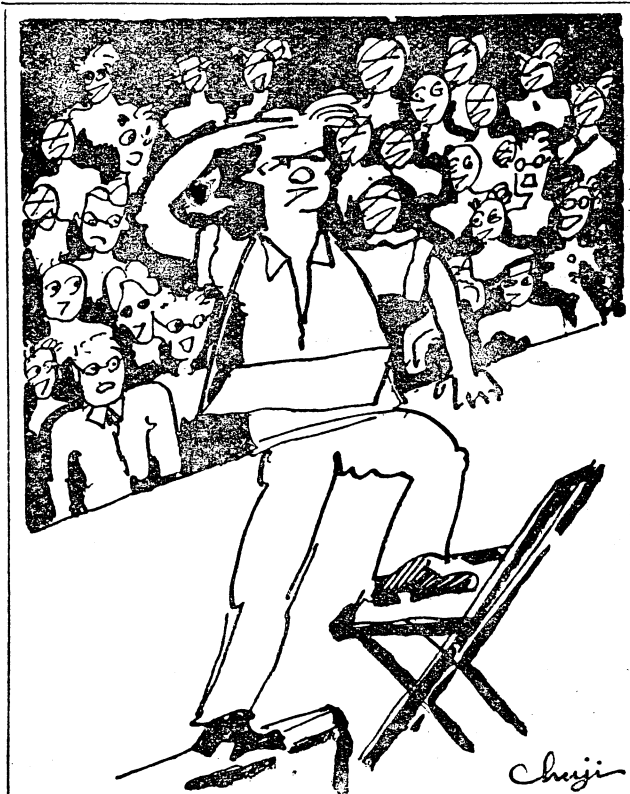
最初の 50m は流石に高橋早く約 1m を先んじて Turn した、續いて宮本、半米ばかり遅れて残りの四人が一齊に Turn した。此の時の佐田の Turn は美事で忽ちに先登に出て 75m では高橋を抜き始めた全く此の時の佐田の Turn が去年の高石との試合の時に出て居つたならばと嘆息した。又佐田は高橋の隣に居た事は實にコース運がよく、此の試合をものにした直接原因であつたかも知れぬ。ゴールでは佐田、高橋、宮本の順に One Stroke の差で雁行して入り、野田は僅かに Touch の差で四位、半米遅れて河石、續いて 1m 程遅れて丹下が法政の爲に貴重な個人得點をした。佐田、1=1—6、高橋、1=2—2 宮本、1=2—6、野田も恐らく 2 秒臺であらう。

宮本が準決勝より悪かつたのは、早大が其の前 30 0m Relay で宮本を起用して最後に佐田と競らした爲とも云はれて居るが、其の點は佐田も同じ譯である。まあ當然の結果であつたらう。野田は流石に老練の境を示した健闘振りで皆の賞讃を買つた。

##### 200m自由型

第二日決勝の Program 劈頭を飾る種目であつた。此種目は第一部は準決勝無しの豫選から直に決勝であつたので九人立ての賑かなレースであつた。明治は佐田(7)、武村(2)、大野(5)、の三人を入選せしめて全然早大を壓倒する策戦に出たものであらう早大は同じく竹林(4)、阪上(5)、五十嵐(9)を入選させた。慶大は野田(3)、山川(6)の二人が入り





神宮プールで始めて夜間競技會を開いた七月末の事監督の和久山君心配のあまり時々小手をかざして場内至る所の電灯やスタンドの設備を見廻すと其の度に不思議な顔をして此を眺めていた子供が「お父さんあの何をしているの」菊地寛の様な顔をしていたお父さん曰く「見物の男の人の女の人の數をしらべていらつしやるのだ」

此に立大の松浦(8)が加つて居る、〔( )内の數字はコース順〕

最初の50m を松浦は強氣に前日の100m に於ける失敗を取返さうと思つてか、佐田を Lead して第一に turn をする。續いては野田、竹林がつき、中央コースの大野、山川迄が最初より遅れた。百米ではまだ大混戦であつた。佐田、松浦、野田、が先頭部隊で、竹林、武村、阪上で並頭接戦同時に turn した。五十嵐、山川、大野が雁行の氣味でかへつて行く。

松浦の無理は100m までしかきかず、彼の Spied はこゝでおちて終つた。150m ではまだ佐田が、Lead して野田は此と接戦、最後の Iap で野田は佐田を見る事が出来たので勇躍して Spurt、僅かに勝つた。共に2=21—8、續いて約1.5m程の差で武村と竹林とが此の僅な差でころがりこむ、武村の Time 2=22—8、身體一つあけて阪上、五十嵐、松浦が1m 位づゝの差で肩を外した形の雁行で Goal-in して

松浦は惜しい所で等外に落ち、100、200 共に Chance を失つた。大野は松浦に 6m 置かれ、更に 3m 遅れて山川が殿を承つた。劈頭に明 9、早 6、慶 7 と點の山分けで、其日の Race の波瀾多かるべきを暗示せる様でもあつた。

#### 400m 自由型

7コース法政の市村棄権し、Race は全くの早明の争ひとなつた。而も明治は策戦上、中長距離に壓倒的に勝たねばならぬので惱は大きい。明治は安田(1)浦木(3)、武村(5)を残し、早大は清政(2)、阪上(4)、青山(6)、米山(8)と先づ人數で優勢を示す Course も一つ置きに宛ら對抗戦の感じである。

最初の 100m で浦木と安田が猛烈に飛び出して來た。其を苦もなく米山が左端の Course で追つて居る。外の人達は清政を殿に、米山と清政の間 1m ばかりの中でバタバタと着く。浦木、安田共に、元氣の程は感心するが、緊張した Race になると自分の Pace を忘れて氣持だけで頑張るのはどうかと思ふ或は此の Race でも此の爲に與へずともよい一、二點は早大に献じたかも知れぬと思ふ。此にまして武村の Pace は確實だつた。

150m の turn を過ぐる頃から混戦も少しとけて、米山、武村が約一身長之差で最前戦へ出て來た 200m の turn では米山、武村に續いて、青山が僅な差で武村に従ひ、阪上、浦木が接戦しつゝ一團となり半挺身之差、半米遅れて清政、安田が雁行して居る。稍差がついて來たとは云へ、殘の半分はどう變化するか分らない。

300m 武村ピツチをあげて米山と頭を並べるに至り、鐘聲を聞いてからは最後の 100m の間をジリジリと大接戦で満場總立となる。一挺身遅れ青山、浦木が第二位の早明の接戦、1m 遅れて阪上、安田の早明戦、何れも鐘聲を聞きつゝ turn して去つた清政は此頃から Race 圏外を去つた。

最後の 350m の Time を同時にやつた。米山と武村は、満場の應援の聲を浴びて競つたが、武村の急ピツチ奏功して 1m を先んじて GnoI 約 6m 下つて第二軍も大接戦、青山が粘りに粘つて三位を確保し、浦木は最初の無理が祟つたか、疲れて青山に引離された間に阪上が割り込み、青山、阪上、浦木、安田の順に約 1m 位宛の差で Goal-in した。清政は約 8m 引離されて等外に落ちた。武村 5=8—6、米山 5=9—6、青山 5=15—2。

武村の努力で選手権は得たものゝ、二三四等を取られ結局得点は早12、明10と逆になり、明大の苦戦愈々はげしくなつた。

#### 800m 自由型

今等は長距離競泳で感激させられた事が少くないが、此の決勝も其の一つに加へてよい。而も一等を三人で争ひ、戦況の展開の複雑な事は珍しいものであつた。而も九コース立てで眼まぐるしい程の賑かさであつた。水路は神宮プールの全コースを使つて1コースから、米山(早)、根來(慶)、市村(法)、藤田(早)、濱田(日)、五十嵐(早)、安田(明)、青山(早)、浦木(明)の順であつた。早明に配するに、直前に背泳をやつて更に此種目に頑張つた根來、400を棄權して此に全力を注いだ市村、日大の濱田である。

米山最初より好調で100mでは一人で一身長を挺いで、市村、藤田、五十嵐、安田、第一線、残りが第二線となつて何れも同時に Turm をした。末だ混沌たる有様で Race の本篇に入らない。次の100mをも亦米山は依然好調で端のコースを一挺身 Lead して居るが、第二線の様子は大分に變つて、青山、安田、五十嵐、浦木、の四人が米山とは反対の左端のコースで約1m位の間に雁行し、差1mで市村、藤田、がコースを隣合せて接戦、一挺身遅れて根來、更に同じだけ遅れて濱田が殿となつた。

300m 米山が悠然と泳いでる間に、青山、安田が早くも競り競ひを始めて米山との間を縮め、350mの折り返しでは三行並行となつて、愈々應援團活躍の舞臺となつた、300mでは浦木、五十嵐、市村、藤田及根來、濱田が何れも接戦をしながら、順々に1mから1.5m位の間隔で連行して居つた。

400m 審判員から400mの聲を聞いて戦線に再び動搖を來した。安田稍焦り氣味に青山を振り放さんと半米を先んじたが、離しきれず、依然青山、米山と共に一團となつて先頭、少し遅れて居た浦木が五十嵐を引き離して先頭を追い付いて頑張り始め、第一線に於ける早明戦は異常な活氣を呈した。不振と云はれた米山がやられるか、明治の全責任を帯びた安田が眷顧の思に酬ゆるか、非常な白熱戦となつて來た。後部の戦線では根來が、市村、藤田の組に追ひついて來た。これから濱田は戦線を離れて遅れる一方となつた。

米山、浦木が頑張つて、500mでは相變らず、安

田、青山、米山の接戦、浦木は而し一挺身残され、4米遅れて五十嵐、約三米遅れて根來、市村、藤田が雁行、根來が段々と調子を上げて疲れた人を順々に追ひ抜き始めた。

Race は接戦を経過してもやはり青山、安田、米山は接戦を續けて居た。700mとなると僅かな差ではあるが青山、安田、米山と約1m位の間に入つて來て鐘聲を聞き、最後のコースをピツチ上げて泳ぎ始めた。浦木遅れ、五十嵐の疲れに乘じ、根來第五位を確保した。以下五十嵐、市村、藤田、濱田の順位は殆ど決したが、先頭の方は分らない。

最後の Lap 米山の Spurt 奏功し、青山、安田の伸が止つた所をグングン抜いて Gool では應援團の歡聲の裡に約2mを Lead した。(10=55—4大會新記) 二着青山、(10=58—2大會新記) 三着安田、差4m (11=2—0) 四着浦木、差5m、五着根來差8m 六着五十嵐、差7m、市村は3mの差で惜しくも敗れて等外となつた。7着、藤田、差5m、8着濱田、差6m。遂に400、8000では明大は早大の米山、青山等の健闘に阻まれ、豫定の得点をなし得ずに終つた。800mの一戦は昨年よりも、遙かに激しい Race であつた。

#### 100m 背泳

早大の獨擅場である。準決勝なしの八人の決勝であつた。其の内四人を早大は入選せしめ、絶對多數を誇つて居る。即入江(4)、大島(6)、木村(7)、上野(9)の諸君、明大は井澤(3)と新人牧田(5)の二名で甚だ心細い、外に根來(慶、2)、大木(帝、8)であつた。

Start するや大島がよく出たが、25mも行くと流石に入江、が滑り出して來て大島に並ぶ、50mでも同様入江、大島が同時に折り返し、續いて木村、牧田が同時に、一掻き遅れて大木、井澤、根來が少しづゝの差でタツチ、上野は更に遅れた。

後半で入江もあまり滑らず、後から續く人達を心配して見て居るのではないかと思ふほどであつた。最後に入江は大島に1m先んじて Gool、木村、大木、何れも1m位の差で丁行して着き、少し離れて根來、井澤、上野一線にタツチ、牧田後半で振はず殿となる。

早大は一、二三等を獲得した。入江、1=14—2、大島、1=15—8、木村、1=16—4、大木は木村を Mark して確實に入賞する以外に望まない様だつた

頑張れば抜けさうにも見えたが流石稲門の主將たる貫録を示して、木村は三位を守つた。大木は帝大の爲に貴い個人得点を擧げた。

#### 200m 平泳

呼物のレースの一つであつて果して期待を裏切らなかつた。而してレースが面白かつただけ、結果も亦意想外となり、此方は大いに一般の豫想を裏切るものがあつた。Course の順は 2 Course から調子(早)、中村(立)、塚原(早)、馬渡(明)、松本(早)、大串(慶)の六人、何れも一癖ある諸君である。此が亂戦とならなければ、ならぬ方が嘘となつてもよい

始は全日本選手権に於て調子のよかつた大串が出て 50m では 1m Lead した。塚原、中村、調子、松本が 1m 位の間に揃つてターン、馬渡は少し落付すぎるかと思ふ程で、松本より 1m 遅れて Turn をした。100m では大串益々好調に次々と水をあげて 15m 位 Lead 今年は或は大串に名をなさしめるかとさへ思はれた。松本稍出て調子と並び、大串に續いて塚原、中村、松本、調子の順で雁行して前年を終つた依然馬渡最後尾 100m の Turn 後塚原が頑張り 125m では素晴らしい Speed で横目をつかひながら、大串と並んだので大串があはて出した。150m の最後の Turn では塚原、大串同着、1m と少し差をつけて、中村、松本同着、1m おいて馬渡、調子の順で、馬渡は猛烈な勢で最後の Turn を終ると同時に頑張り出した。

最後の Lap に於ける猛烈な競り合ひが今尙眼底にある様な気がする。ピッチを上げた松本が第一線に追ひ付く頃馬渡が松本に追ひつき、170m あたり殆ど又全部が一線になつたが、直に塚原が抜き始め松本、馬渡が隣り合つてせりながら皆を追ひ越して行つた。始めに無理をした中村は全く仲がせまり調子にさへ抜かれた。

Goal では塚原が 0.5 m 差で一着、3=0—4、競りあひながら松本、馬渡、大串、肩を外して雁行の形で入る。二着は 3=1—4、三着 3=2—0、疲れ切つて 4m の差を作られ、調子が五着、中村最後の努力でせりながら差一米で六着となる。

馬渡は全く最初の遅れ過ぎが取りもどせず、中村は 200m に於ける松浦と同様 Pace を忘れての頑張りが失敗の因であるし、大串は 3 分を切る力を持ちながらあはてさせられたに依るのであらう。何れも Race に強い早大軍は兜を抜がねばならなかつた。

#### 200m リレー

早慶明の Race は観物であつた。慶大の Top 河石が森、兒玉を制へて最初についたのに氣をよくした慶大は頑張り抜いて、遂にアンカーで高橋が、野田を抜きはしたが實によく奮闘した。明大は最初は一寸よかつたが二人目から三位に落ちた。立大が案外不振であつたが、松浦が最後を頑張つて遂に六位を獲得したのは偉かつた。

#### 800m リレー

第二日午前の最後に行はれた。可成の波瀾はあつたが、早明の争を述べれば事足りるであらう。始めの二人は早大が Lead して來たが、明大は三人目に武村の切札を置いて、阪上に對抗させた。武村は引繼くと直に猛烈に頑張つて最初の 50m で阪上を抜いて、佐田に引繼ぐ時には約 15m を Lead して居つた宮本は佐田をしきりに追つて殆ど差を大きくしないで、180m 程は頑張つたが、最後に疲れて 5m 位 Lead されて終つた。丁度リレーでは結果が今年の逆となつて 800 リレーを明大が勝つ事になつた。慶大は終始三位、立大が危く四位になつた。

## 第二部決勝競技経過

#### 50m 自由型

始めは殆ど一線であつたが、中程から早川(横高工)グングン抜き始め Last では 3m、斷然 Lead する Last で井戸川(大倉)が頑張つて本間(國大)にタッチの差で二着となる。鹽田(高師)、細田(青山)木村(横専)の着順は約 1m 置きの雁行となつた。

#### 100m 自由型

同じく早川(横高工)最初より斷然 Lead し、Goal では 5m 6 の大差で一着、50m では本間(國大)、梅田(高師)、佐久間(國大)、同時ターンをしたが後半猛烈なせり合いとなつて Goal では佐久間、梅田、頭は並んで居たが着き方の違で梅田が一掻き遅れて三着、2.5 m 遅れて本間、細田(青學)、此も競りながら、四五着となり、川原田(北大)は此より 1m 遅れて六位となる。

#### 200m 自由型

最初より國大の佐久間 Lead し、Goal では他より 6m 6 Lead して光つて居た。淵野は佐久間につられたが、始めよく出たが、遂に一番遅れた。第二位高師の梅田は植木(慈大)とせりながら又同じく熊

谷(北大)と生崎(高師)も三着から半米ばかりの差でせりつゝ Gool した。

#### 400m 自由型

中野(高師)、葛目(横商)は始めから相當の接戦に終始した。熊谷(北大)は始め四位であつたが後半では確實に三位となつた。澤田(北大)、高村(拓大)は終を争つて接戦して居たが、平岡(明薬)が遅れて來るのに追ひつき Gool 前では、三人大接戦となり審判員をあはてさせた。

#### 800m 自由型

少しは競り合ひもあつたが、前半で大勢きまつて Gool では一着中野(高師)は二着の葛目と32m、三着澤田は二着と40mの大差を生じた。澤田は始めは第六位であつたが、前半400mまでの間に段々と追ひこして三位となつた。三四着の差11m、四五の差8m六着は更に25m遅れた。MonotonousなRaceであつた。

#### 100m 背泳

北大の藤野獨で飛び出し50mで5mも抜いたが後半疲れて少し追ひこまれたはしたが、其でも3m餘の差で勝つ。所が残の五人の力量伯仲で始めは少しづつ、差があつたのが Gool 前で大混戦となり大騒ぎとなつた Gool の Touch の順は藤野の次は鹽田(高師)、植田(拓大)、木村(横専)、草間(明薬)となつて半米たらずの差でバラバラとついた。鳥居(横工)は少し離れて六位となる。

#### 200m 平泳

ここでも高師の前川が一人先つて居た。3m餘勝つ。大平(明薬)、井上(横商)、三橋(拓大)、大日方(高師)の間に前半接戦があつたが、後半は、井上、大平少し遅れて三橋、大日方のレースとなり Gool では井上約1.5mの差で大平に勝つて二着となり續いて2m大日方四着、同じ位の差で三橋が五着、川名(横工)は最初から相當追つては居たがいつも殿で遂に1m許の差で殿のまゝであつた。

#### 200m リレー

北大三人目までは Lead して居たが、高師の鹽田に抜かれ一等を譲る、慈大、拓大が三位を争つて接戦を續けて居ると最後に、横濱高工の早川に抜かれて三等を漁夫の利とされ、遂に四五等に落ちた。大倉は六位に終始した。

#### 800m リレー

高師が順調に抜いて行つた。北大が又一人一人第

二位を保つたが、横濱高工のアンカー早川の素晴らしい Speed で、一躍第五位から北大にせまり、遂に二位となつた。第四位 拓大、着差13m、五位慈大、差10m、六位青山學院 差40m、

終つて賞盃授與式があり。早大の校歌高く聞えて第九回大會も今年の水泳界の Season 棹尾を飾つて終了した。

## 大 會 總 評

### 松 澤 一 鶴

九月20、21の兩日に Inter-College の競泳戦が先づ連日の好天氣に恵れながら、例年の如く盛會裡に終始した事はお芽出度い。Inter-College と云ふと例年の様に前日までの怪しいお天氣がからりと晴れて、氣持のよい秋空の下に往年の天狗達のはれやかな顔をして審判臺に集る。去年も一昨年もさうであつた今年のうちすらすら寒い小雨の天氣を、ふき飛ばして、身にしまる冷氣を感じながら秋晴れの明治神宮外苑プールの澄んだ水に、Inter-College 氣分を漾はして、其の序幕を切つて落したのであつた。

神宮プールの第一回である事も特筆しなければなるまい。年毎に膨脹して行く Program に惱んで、去年は芝プールを玉川プールに移し、その不便を嘆いたのであつたが、今年早くも神宮プールで舉行する事が出来る様になつたのは嬉しい事である。今年の大會は第九回であるが、大震災の爲に一回休んで居るので、今年に Inter-College の第十週年なのである。願れば、あのおたまじやくしの居た生麥の三笠園の池で始められてから十年目に、年來望む所の神宮外苑に泳ぐ事が出来る様になつた事も何らかの因縁ではないだらうか。

大會としては一つの Tie 記録と、十個の大會新記録と、一つの日本新記録を得た。此の日本新記録は50m 自由型に於て早大の高橋が26秒6を出して、高石の26秒8を破つたのである。高石が最初に作つた大正14年からは六年目の事になる。自由型の日本記録は近年中長距離に於ては盛に新しいのが作られるが、短距離のは相變らず高石のが嚴然として残つて居る。高石の強さの證明には痛快な事であるが、一方から云へば、我短距離競泳界停滯と云ふ事以外の

何物でも無い。此の大會に於て50m一つだけでも短距離に於て記録を書き換へた事は如上の意味に於て大功績であると云はねばならない。祈る事は50m専門の小成に康ぜずして、100m 200mの本格的の種目への精進を望む。

大會の結果は別表の如く第一部は早大が五つの選手権と總得點95點を得て優勝盃を獲得し、昨年の雪辱をなし、第二部は高師、北大が夫に第一位、第二位を獲得して一部に編入され、一部の商大、及一高は下位者として二部に失望する事となつたが偶然に

第一部 得點表

順位	校名	二百自	二百平	五十自	八百自	四百自	八百背	二百自	合計	備考		
1	早大	6	14	13	5	9	12	16	13	7	95	優勝
2	明大	9	4	3	7	7	10	1	7	4	52	
3	慶大	7	3	6	4	5	0	2	2	5	34	
4	法大	0	0	0	2	1	0	0	0	3	6	
5	立大	0	1	0	3	0	1	0	0	1	6	5
6	帝大	0	0	0	0	0	0	3	0	2	5	
7	日大	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
8	商大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	二部
9	一高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

も兩校は無得點であつた。二部の商船學校も亦無得點の最下位であるが、此は學校の無理解から土曜日に學校を休む事が出来なかつた爲であるらしい。昨年も同様の事であつた。學校の無理解もさる事ながら、其の點も確めずに二年引續いて同様の結果に終らしめ、Program に無駄な登記をなし、競技會進行上にも面白からぬ影響を與へて居るのは、商船學校水泳部委員當事者にも其責任無しとしない。

早大の得點95は一校の得點としての今迄の最高記録である。戦前の豫想では明大が此程迄に惨敗しやうとは考へられなかつた。第一位争覇の明大と、早大と何れもに相當不利の條件が數へられたが、早大が此等の不利の條件を戦の當日に好轉せしめたのに對し、明大は一つ一つが利いた上に、第三位の慶大の奮闘が近年になく目覺しく、慶大其の他の得點が早大より點を裂く事とならずに、寧ろ明大の得點を蠶食する様な結果となつた事も、大きな原因のに數

へられやう。第四位以下の得點の貧弱さを見るにつけても今年位、點が Three Bigs に集中された事も少なからう。若し思想界、經濟界の Analogg が Sports 界にも適用されるものならば、此の得點表も又局面打開の一つの指標と見られるかも知れない

早大と明大の得失の分れる所を見るに、先第一は丁度昨年と正反對と云ふ事が出来やうかと思ふ。昨年の明大は中堅選手を以て、早大の第二線陣地に勇敢に突撃して勝因を作つたと云つてよいものであるが、今年はその諸君の不振が徹底的に響いて來たの

第二部 得點表

順位	校名	二百自	二百平	五十自	八百自	四百自	八百背	二百自	合計	備考		
1	高師	7	10	3	7	5	7	5	7	7	85	優勝一部
2	北大	3	0	0	4	1	7	7	4	5	31	
3	横工	0	1	7	5	7	0	1	1	4	26	
4	國大	7	0	4	0	7	0	0	0	0	18	
5	横商	0	5	0	0	0	5	0	5	0	15	
6		拓大	0	2	0	3	0	2	4	2	2	15
7	明薬	0	4	0	0	0	1	2	3	0	10	
8	慈大	4	0	0	2	0	0	0	0	3	9	
9	大倉	0	0	5	0	0	0	0	0	1	6	
10	青學	0	0	2	1	2	0	0	0	0	5	
11	横専	0	0	1	0	0	0	3	0	0	4	
12	東洋	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
13	商船	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

であつた。其の二は早大は自分の弱點種目たる平泳に新勢力を擴張する事が出来たのに、明大は其の種目も失ひたる上に背泳の勢力擴張が出来なかつた事も重大な難關の一つであらう。

此を具體的に戦績から云ふならば、明大は短距離に躊躇、藤野、小川等の不振から50m、100mを殆ど放棄せざるを得ない有様となつて居るのに、早大は高石無き後を高橋、宮本、熊野等を以て補充して居る、100m 200mで明大佐田が病後でありながら健闘したのは立派であつたが、病後の故を以て佐田を働かすを躊躇した明大は200mに武村をダブらし、首尾よく早大の人達を押へたのは豫定通りであつたが、野田(慶)の出来が素晴らしく、武村の得た所は結局三位となつたのは些か牛刀を用ひた嫌がある200mに於ける武村は大きな切札でありながら得點は案外に少なかつた。此の爲に800mがあいて、不振を傳へられて居た米山が意外に好調で、明治は安

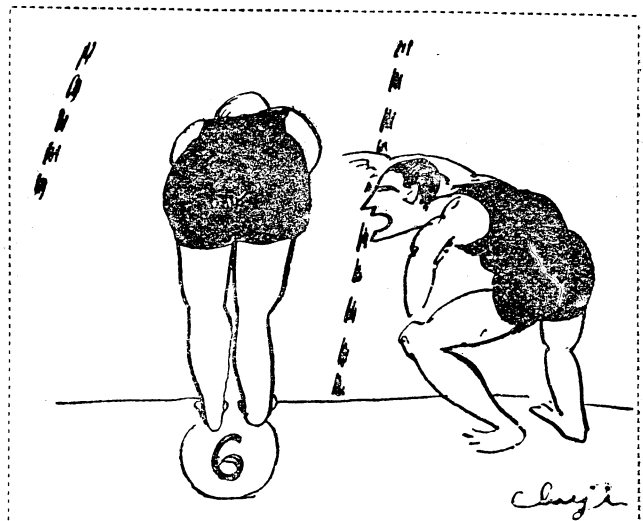
田で支へ切れず、長距離で大破綻を來した。又中距離、長距離共に明大の中堅の不振は、武村、佐田の健闘を保佐する事が出来ず、一等はとつても、二三四等を取られると云ふ有様だ、明大が至力を以て攻撃した種目も、早大第二陣の頑強な抵抗に阻止され、點數の差を生ぜず、而も前述した様に短距離、背泳平泳に完敗したので總計點は意外の開きを見せて明大の慘敗とはなつた。

慶大は早明の此の接戦の間に近頃ないよ策戦を見せ、野田の 200m に於ける選手權獲得、200m リレーに明大を破つて二位、その他各種目に平均に得點して、氣勢をあげたに反し、立大は松浦の不振で元氣消沈し、遂に法大の次位に甘んじなければならなかつた。松浦は 100m 豫選に於て Start で Slip して入選の機會を失ひ、200m では決勝で僅な差で七位に落ちて終つた。又中村が平泳で焦りすぎて六位となるなど立教は近來に珍しい不出來であつた。

商帝大、日大も得點はしたるものゝ氣息奄奄たる有様であつた。商大、一高の無得點も情ない次第であるが、無得點と云ふより無闘志と云つた方がよいのであらう。

昨年あれ程の元氣で一部に入つた法政も、リレーの得點で除けば、目下の 100m に於ける一點が唯一の得點であつただけだ。同じく一部となつた一高は無得點たる事前述の通り。更に今年の二部の成績を見るに其最優成績で一部の方へ來て問題となり得るのは、50m 100m に於ける横濱高工の早川位なものである。此とても 50 では決勝に入り得るが、100 では豫選を通過し得る位の程度である。輝かしい成績で一部に入つた、高師、北大の諸君の何れの成績も殆ど一部に於ては豫選すら Pass し得ないと云ふ事に氣がつくと、畢竟するに二校づゝの交代も結局は遊戯的のものになつて終ふのではないかと思はれる。二部から一部に入つたなら更に一層の努力をしないと、其はたゞに再び二部に蹴落される意味しかない事になる。深く考へれば、こゝらの事情も示局面打開の一要素となつて居る事を感じる。

二部で困る事は夥しい棄權者である。此を一部と比較する時は尙一層目についてくる。此は餘程眞面目に考へて見ぬと、觀る者も主催管理する者も甚しい不愉快を感じさせられ、引いては大會其の物の將來に悪い影響を與へるだらう。二部八百米の豫選の際に味はされた不愉快さは今でも思ひ出される。此



中等學校 東、西、對抗競技會の最後、八百米リレーに於て西部は開始前急に四人の順番を替へてラストの横山君を一番にした。それとは知らぬ東部の一番の寺田君(函館中學)、眼鏡をはづしてスタート臺に立つたが、ドウモ六コリスの人影が違ふので、近より横山君を足から腰腹胸と眼を細くして眺め、顔をつくづく見るに及んで「ヤー、イケネー横山さんだッ——」

の位なら初めから決勝をやる事も出来る。少くとも Intar-College と銘を打つて人前でやるゲームではなかつたと思ふ。Inter-College の名の爲に、もつともつと二部の選手諸君は考へなくてはならぬと思ふ。殊に一部は昨年比して殆ど進歩が無い。尤も二部は最優者が常に固定して居ない故かも知れぬが、成績も、技術も、乃至は氣分までも、一寸も進歩して居ない様に見える。進歩のない事は一番悲しむべき事だと思ふ。

最後に College-Swimmer に希望したい事がある。秋の此の一戦の爲にならば、母校の名の爲にならば此程の強い選手諸君が、どうして其の外の時、例へば夏の頃何故もつと強くないのだらうか。練習して居ないからだと云はれるならば、何故練習しないのだらうか、母校の爲にはあれだけやれるのに、自分の愛する Sports である水泳道の爲に平常から或る程度の Conditioning-Work は出来ぬものだらうか。

若しも Inter-College の選手が Inter-College の時にのみ強いと云ふ人種であるならば、將來の日本水泳界からはやがては斥けられる時がないでもあるまい緊張と Relaxation との使ひ分けは競技者として最大切な事の一つではあるが、現在の Season 外の Inter-College の諸君は Relaxation を通り越して無彈力の所まで下つて居るのではあるまいか。

来るべき Olympic の開期は決定された所によると1932年の夏七月である。豫選も恐らく今年の極東大會の如く、Inter-College にとつては Season 外の時に行はれる事と思ふ。従つて年中練習して、年中相當の Condition にあり得る人が最も入用な事になるであらう。とにかく Olympic に出場するかしないかは別としても、泳ぎの爲に年中注意深い攝生と、練習は、選手にとつての身嗜みである。重要なる競技會には二週間位の期間で完全によい Condition で出場出来ると云ふ位な用意はあつてもよいと思ふのである。一昔十年前に練習すべき所もなくして生麥あたりで秋の大會だけを唯一の會と心得て居た時は一時代變つたのである。どうか競技者としての Sports としての水泳を愛する競技者としての覺悟をきめて貰ひ度いと思ふ。(終)

## 『勝者の涙』

早大水泳部 深田忠彌

インターカレッジ！これほど僕等カレッジ、スイマースにとつて大きな感激と興奮を與へるものはない。

それだけに僕等はシーズン中に行はれるどのレースよりもインター、カレッジを重大視し、あらゆる熱と努力をこれに向つて傾中するのである。故にその勝敗は僕等にとつては、生死の問題である

特に僕等は、昨年明大のために一敗地に塗れた、僕等にとつて昨年玉川プールで、泣いたあのときの涙を忘れることはできない。來年こそは勝つてくれと泣いて、鼓舞激勵された、先輩高石君の言葉を忘れることはできない。

勝たん哉！との意氣と、熱望は我等が胸中に溢れあらゆる苦痛、あらゆる困難と戦はしめた。勝たんがためには、すべてのものを犠牲にしても惜しまなかつた。

千葉に於ける月餘の合宿練習生活！

それは、僕等にとつては長い苦しい時間であつた然し選手一同はよくチーム、ウォークを守つて一致團結した。合宿前木村主將が頭髮を切るや、一同一人残らず坊主頭になつて精進努力した。血の出るやうな猛練習が、日々くり返へされた。身體は綿の如く疲れても、来るべき戦ひの日を思ふと、我等の意氣は燃へるのである。

臥薪嘗炭一ケ年！遂に戦ひの日は來た。

僕は今ここに一つのエピソードを書いて、如何に我等が固い決心と、燃ゆる熱をもつて、インター、カレッジに臨んだかを物語らう。

丁度それは最後の二百米リレーの前のことである練習中は非常な元氣であつた、森君が試合ではあまり元氣がなかつた。それで僕等は相談の結果、リレーメンバーに森君の代りに竹林君を出すことに決定した。

ところが、森君には忘れることのできない苦い思ひ出がある。それは昨年二百米リレーで、明大に敗れたとき、三番を泳いだ森君が、コース、ロープに引つ掛つて敗因を作つたことである。だから森君としては、今年こそはどうしてもリレーメンバーとして、戦ひたかつたのである。雪辱をしたい。だが自分は不元氣だ。暫し彼は苦しめられた。

遂に彼は悲痛な決心をして、竹林君の前に出た。そして涙ながらに頼んだ。「自分は今調子が悪い、だが自分は今年の雪辱をしたいのだ、ベストを盡して泳いで、きつと勝つてみせるから自分を出してくれ」と。竹林君もその意氣に感激した。男子意氣に感ずとか、森君の意氣に感激した竹林君は、固く森君の手を握つて、自分の水着を差し出して言つた、「僕の水着を着て、僕の代りに泳いでくれ、そしてきつと勝つてくれ」と。友の友情に感激した森君は奮起した。

友の水着をきて彼はスタートについたのである。

僕等はその美しい光景をみせられて思はず感激の涙が流れた。その意氣と熱があつてこそ、僕等は勝てたんだ。

戦ひ終つて、我等一同プールの一角に集つて「都の西北」を聲高らかに絶叫せしとき、僕等は止め度もなく流れ落つる涙を拭ひもせず、絶叫する校歌は嗚咽と感激のためともすれば亂れ勝ちであつた。

戦は終り我等は勝つた。然し僕等は、勝利の涙のかけに、敗慘の涙に泛く友のことを忘れることは出來ない。

勝つ者あれば、敗るゝ者あり。勝利の涙、敗慘の涙、これは勝利の歡喜、敗慘の憂目を味ひしものゝみの知り得るところである。

僕等は昨年敗れた、それだけに僕等には今年武運拙なく敗れし、戦友の胸中が察せられる。

勝敗は時の運とか、僕等は幸にも今年は勝つこと

ができた、然し來年は敗れるかも知れない。かくして我等が、覇權を目指して臥薪嘗膽精進努力するところにインター、カレツヂエートの大きな意義があると思ふのである。(一九三〇、九、二二、)

## 我等の敗因

明大水泳部 村松正一

淡いあきらめから雲の如き己惚の自信と變りそして今頭から冷水をかけられた様な惨敗を契した。やと競技の興奮より逃れ出て、比較的冷靜に吾がチームの敗因を書き綴らうとして居る。頭の中をシキリに、敗軍の將兵を語らずとの古言が往來する。

競技の結果より見て、現在の早大に對して吾がチームが、たとへ全力を上げ最高の調子で戦かつたとしても、五分五分の戦ひを期待する事が、無理な様な氣がする。ただ一つ望み得る所は、早大が最悪の調子であり、反對に吾がチームが最高の時こそ此の期待が實現されるのではないか。

然るに、競技當日兩軍の状態は、早の最良に對し吾チームの普通以下と云ふ有様で、此の事實が九拾何點と云ふ、吾軍に取つて實にみじめな結果を持ち來つたのである。然らば此の早大の好調子、吾がチームの普通以下の調子と云ふ二つの重大なる事實が、如何にして出來たかと云ふ事を考へるに、私はそれが雨に原因するものであると思ふ。

戦前の評判を眞實に近いものとすれば、早大は比較的悪い調子であつた様に聞いて居たし、吾がチームはそれこそ全員好調子で、今年も何とか成りそうだと云ふ考へは、吾々十八名總べてが持つて居たものと確信する。この絶好の調子を持つて、玉川の合宿を引き上げ神宮プールへ移つた。

雨、雨、雨、競技前日の十九日まで丸三日間降り續いた。そして其の雨の結果として、吾が主戦闘員たる安田、浦木、鈴木は風邪の爲め發熱、そして他の泳手は雨による練習の變化が、同じ原因による精神的變化によつて、その調子は下り坂に向つて行つたのである。

事實は知らず、私の單なる考へとして、早大は三日間の雨によつて、千葉の猛練習によるハードワークより抜け切り、試合當日見られる通りの新鮮なる活躍をなされたものと思ふのである。昨年雨によつて勝つた明治が、同じく雨と云ふ原因によつて

惨敗を契した。思へば皮肉な因果である。

## 競技會所感

慶大水泳部 林 忠雄

今年のインタノカレツヂ大會の各レースは、稀に見る混戦であつた。大會前には勿論の事、第一の豫選を見物せられた人にも、翌日の決勝の結果を豫想する事は非常に困難であつたに違ひない。殊に百米二百米、二百米平泳に於ては、一等になる可能性も多いが、四、五等に落ちる不安も少なくないと云ふやうな、大混戦が行はれた。このやうに實力の全く伯仲したレースになると、選手はどうしても固くなる。まして母校の名譽と先輩の残した貴い歴史とにかけ、一年間精進して來た一戦である。選手の氣分は重苦しい責任感と濃厚な對校的氣分に包まれて、いやが上にも緊張してしまふ。かうなると選手はなかなか自己の調子で泳ぐ事が難かしくなる、それ故に各選手の氣分如何と云ふ事が、強く勝敗の上に働いてゐた。新しい選手が概して、充分實力を出し得ず古い場數を踏んだ選手が實力以上に善戦してゐる。

又チーム全體の旗色が良いか悪いかと云ふ事も、實力の差以上に、勝敗に影響してゐる。あのやうに對校的氣分の強いレースになると、ほんの一寸した事が、全チームの元氣を奮ひ立たせ、或は消沈せしめる。

豫選に於けるチームメートの成績なども、随分敏感に全チームの氣分に影響して、一度調子付くと、そのチームの選手は氣分の上で、樂にレース出来るやうになり、従て益々好調になる。この反對になると、どうにもしやうがなくなつて、全選手の調子が狂つてしまふ。

今年の大會には實力極めて、接近してゐるレースが多かつただけ、實力の差以上に、微妙な氣分の問題が、勝負を左右してゐた事を痛感した。

## 審判しながら

本 井 功

第九回全國學生水上競技大會の愚感二三を書くことにした。何分筆不精の書いたものだからまともでないことは御承知願ひたい。又書いたことが多少違つても怒らずに笑つて讀んでもらいたい。河童の屁



位に思つて讀めば氣が樂だ、泳法又は戦法批評は他の審判した人々から何か書くことゝ思ふからよすことにした。先づ早大の壓倒的優勝に祝意を表す。前回明大に破れた早大臥薪嘗膽の意氣物凄く木村主將を初めとして米山青山、竹林、松本の宿將に入江、塚原、宮本、高橋、調子、五十嵐、坂上の新進を配して難攻不落の堅陣實に見事の大勝だ特に米山の元氣な中々堅實味のある泳ぎ振りは敬服に價す。

悠々せまらず一步一步進む體度はスポーツマンの權化なり。平泳に塚原、松本、調子の三君の健闘も立派。當分これでは早大の堅陣は破るに難しの感を抱かしむ。

明大軍は前回優勝の王座に位した許りに終始防禦の位置におかれたことは誠に同情の念やまざる次第なり。大手口より早大の巨砲に遇ひ搦手より虎視眈々たる慶大の攻撃を受けたるは孤城落月の感なきにあらずや。中に明大佐田副將、村松主將五十米に破るゝを見て奮起。病苦をおして武村、馬渡、浦木、鈴木、安田等の面々を引いての獅子奮迅の戦振りは不動明王の怒るかと思へたり。百米、八百米、リレーの泳ぎ振りは實に立派立派立派如斯き巧妙さと堅實味は當日の野田、米山の二君を加へて個人優勝の三幅對とすべしだ。若い選手諸君は多いに人の經驗と精進振りを参考にすべきだ。

昔の三人の練習振りを思ひ出して練習の時の精進の尊きを眼前に見せられて臉のあつくなるのを感じた。次に慶大軍の第三位は豫定通りだ。

三十四點の得點に早大、明大は多少氣味悪さを感じたと思ふ。これも合宿中の選手の嚴選と一致團結の精神の賜と思ふ。殊に堅田、河石、根來は體度及泳法は大學選手として立派だ。堅田の二百米の優勝振りは往年の全盛時代の勇氣を偲ばせた。堅田老ひずの聲各所より起る。これ又濱名以來の彼の不撓不屈の精神のもたらす所と思ふ。好漢益々自重よく慶大軍をして優勝の彼岸に一日も早く達せむべく精進すべしだ。

立教の殘敗は如何、松浦新主將初め中村を副將として根上、上野、關口の新進を擁してあの敗は往年の立教の歴史を思へば涙なしに語るに忍びず、一大決心を以て練習に精進再舉を計らん事を切望してやまず。法政、帝大、一高、商大の健闘に敬意を表すと共に益々水泳界の爲め練習に一意精進運動精神の向上に努力せられん事をお願いして筆を擱く次第です。

## 全日本選手權 京都地方豫選 深山 杲

昨年日本最初の夜間水上競技大會を催し、その大會に於て鶴田君の二百米平泳世界記録を始め幾多の日本新記録を續出してた、京都體協主催、水上競技選手權大會兼全日本大會京都豫選の第三回は、本年も昨年通りに七月二十八、九兩日に亘り、恪北八瀬プール(25米)に於て午後六時より舉行された。

本年は偶然にも男子部に於て全關西學院チームと明大留守軍に早大軍の一部が合して、宛然三ツ巴戦をなし、其上に地元の京都武徳チームや、さては諸處の猛者が打亂れて著しき激戦を演じ、加ふるに女子部に於ける京都武徳會女子チームの猛泳と相摩して意氣大いに昂り、數多の大會並びに日本新記録を作り得て、今回も亦大成功裡に、夜間水上競技大會を終始するを得たる事は、眞に欣快とする。次第である。

次に本年初めて行はれたる夜間水上競技に於ては出場の關西學院チームと茨木水泳團チームとは稀に見る大接戦を演じ、遂に水球戦として珍らしき補回戦をも開くに至つたが結局過勞の爲め選手一名を失つた茨木團は惜くも關學軍に補回戦後半に於て二點をリードされ六對四にて關學軍の勝利となつた。

### 競泳決勝記録

第一日 曇天 氣温30°C 水温 23°C

#### 1500米自由型

1着西條(青年)20分52秒6(日本新記録25米プール)

2着葛目(横濱高商)23分0秒8 3着水谷(明大)23分5秒2

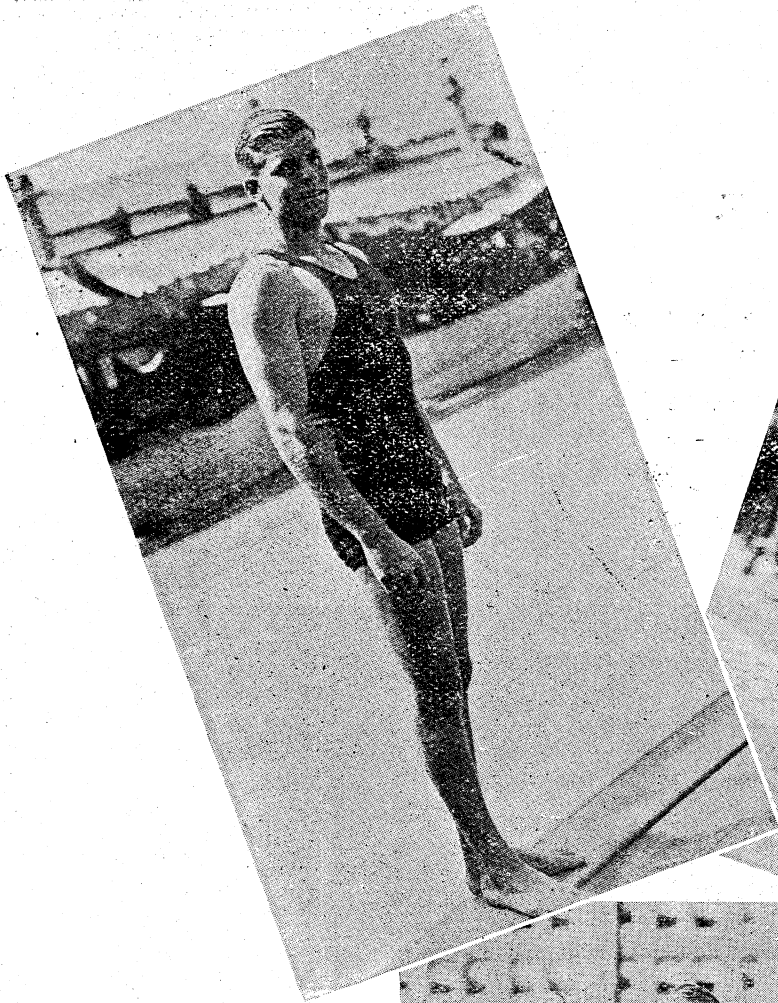
西條君は全く一本調子にスラスラと泳いで然かも、此の好記録を出したのであるが今少しく折返しに於ける時間的損失を少くして欲しいと思はれた。葛目君は1300米に於ては水谷君に10米も置かれてゐたが其れよりスピードを出して、1450米では兩君は同時にターンし、結局葛目君は水谷君を米リードレゴールに入つた。尚西條君のラップタイムは百米1分15秒 二百米2分37秒 四百米5分23秒3 八百米11分2秒5 千米13分51秒3であつた。

#### 200米背泳

1着伊澤(明大)2分56秒4 2着増田(關學)3分10秒2

3着奥村(明大)3分10秒6

## 米水泳界の花形

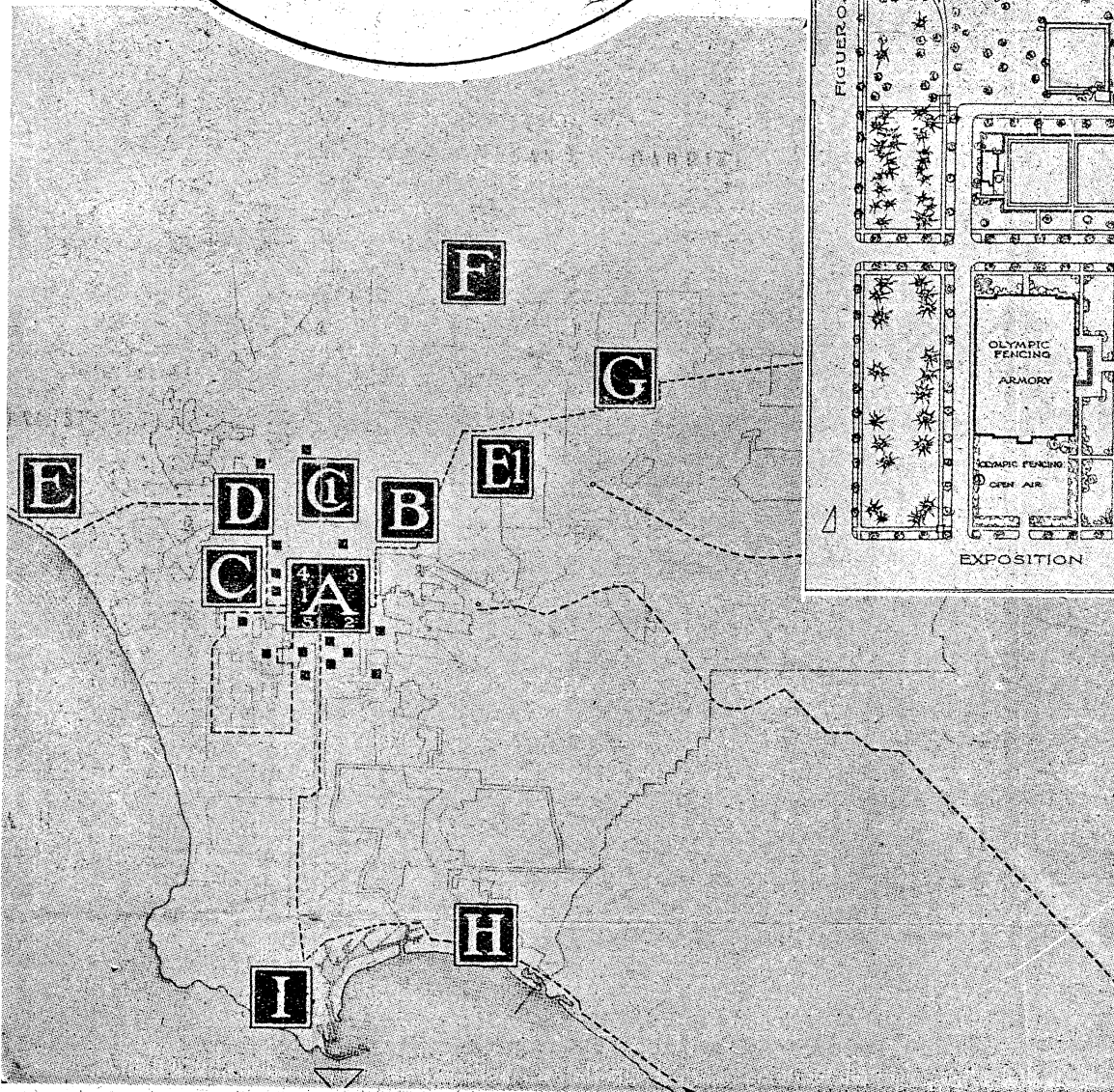
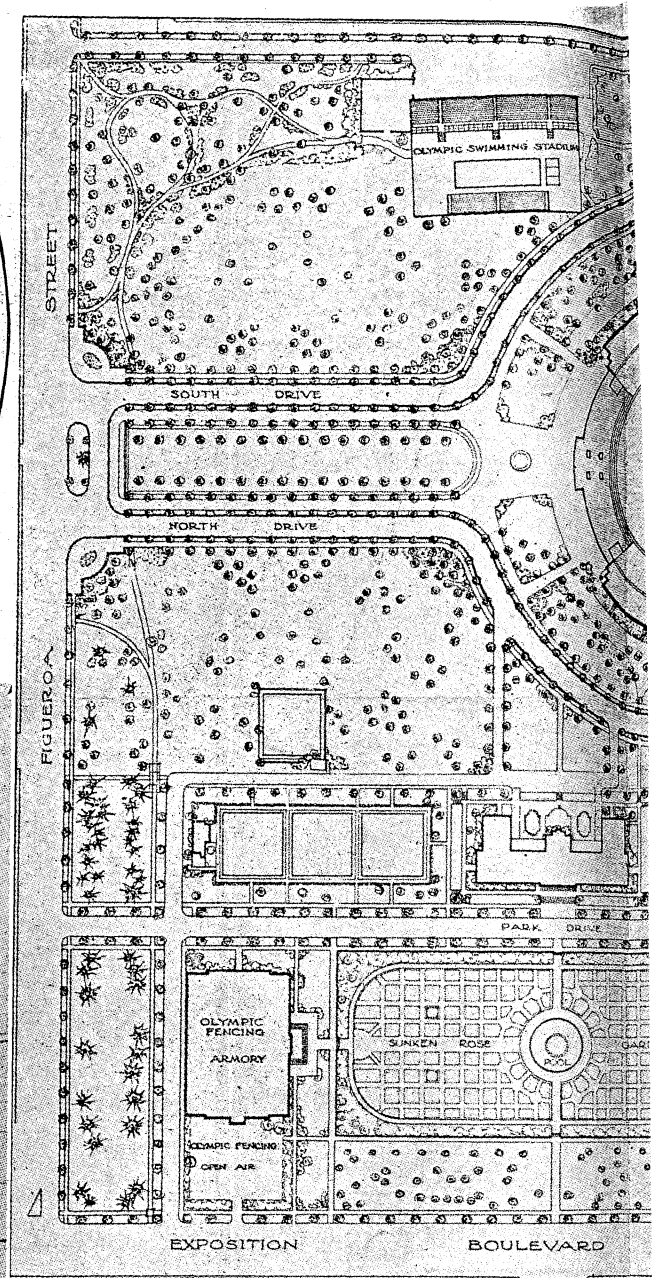


込界第一人者である。オリンピックではスプリングボード、逆高飛  
 (下圖前より)デョルジア・コールマン嬢——ミニ退いた後の飛  
 の世界記録を殆ど破つてしまった。満十七年の素破らしい選手。  
 デソン嬢。昨年あたりより俄然現れて百米から千五百米十哩まで  
 破つて世界記録を作つた牧野横山の大敵である。(右上)ヘレン・マ  
 (従来はボルグ BIRGE)八百米でもワイスマニューラーの10:22.2を  
 着、本年度全米大會では一哩で世界記録 21:57.0 を作つて一着、  
 は米國中長距離界の第一人者で、オリンピックでは千五百米で三  
 (左上)シー・クラブ。日本へ二度も來朝したお馴染の選手。今で

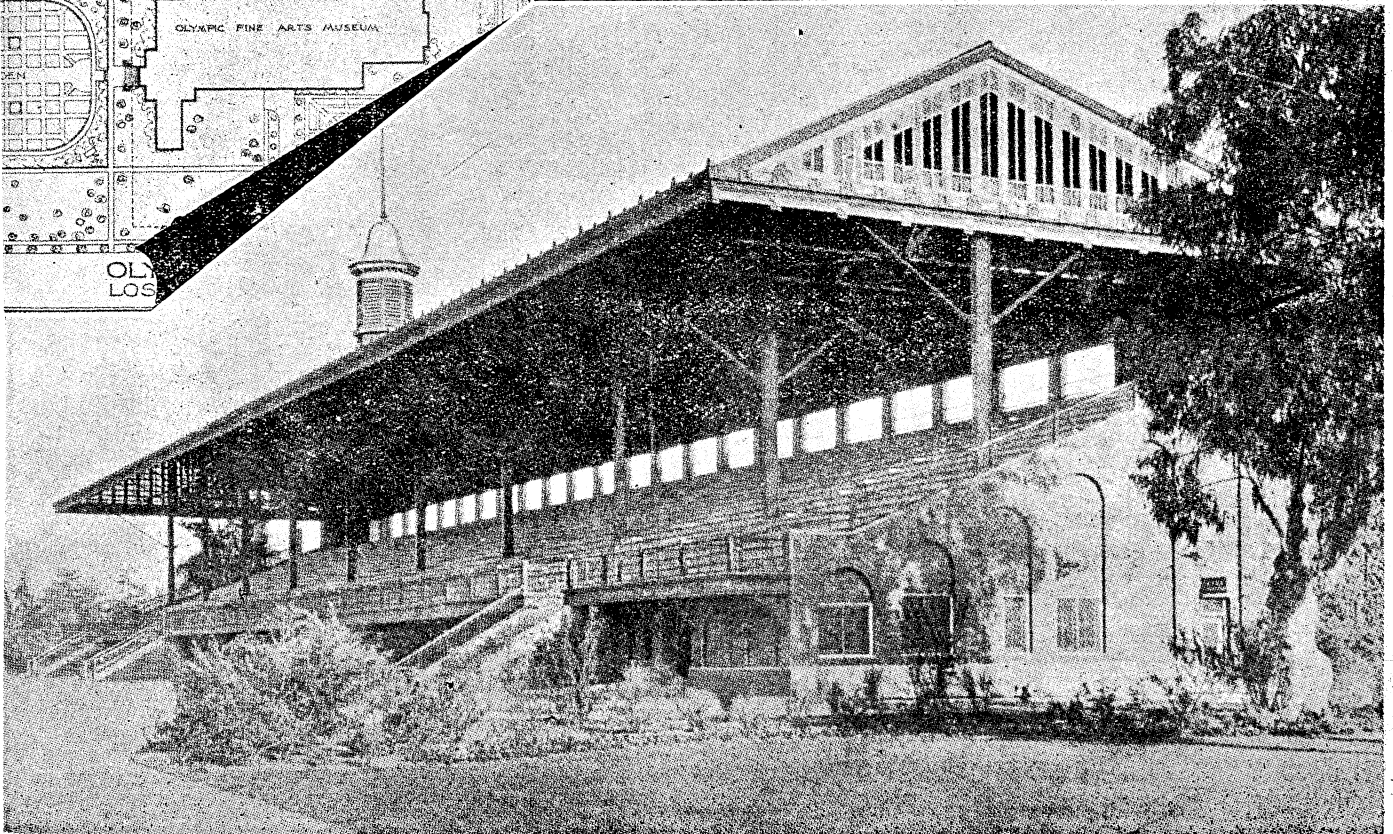
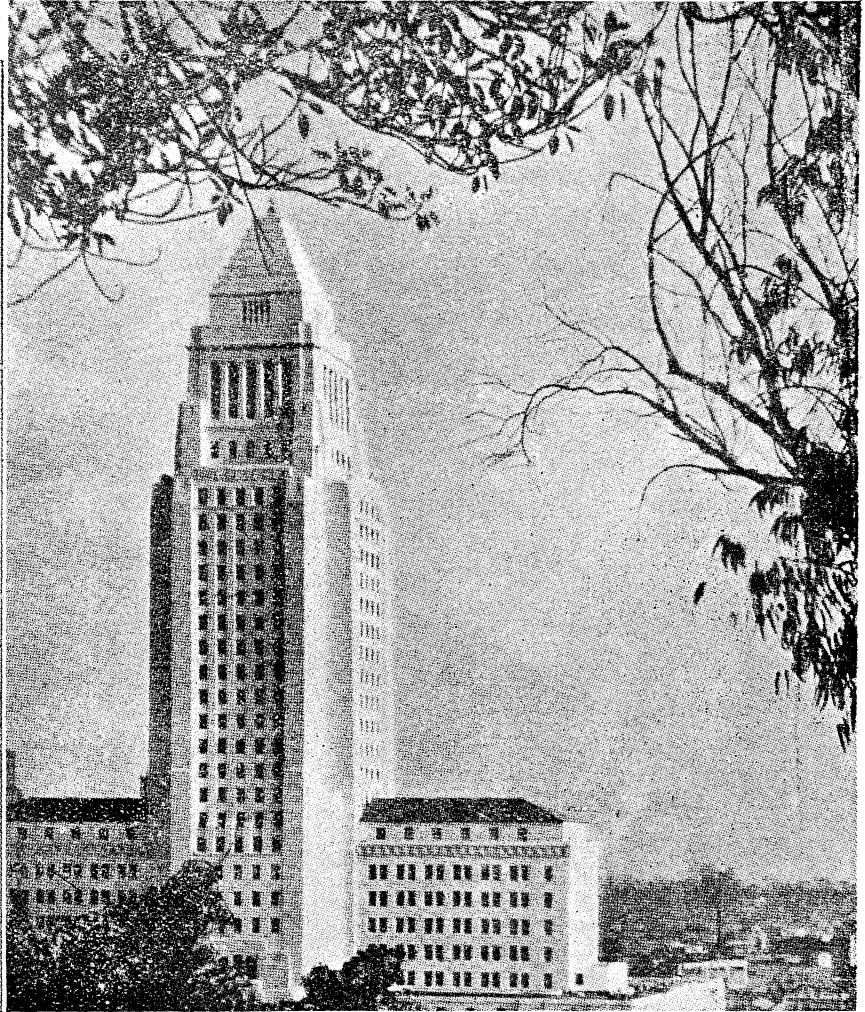
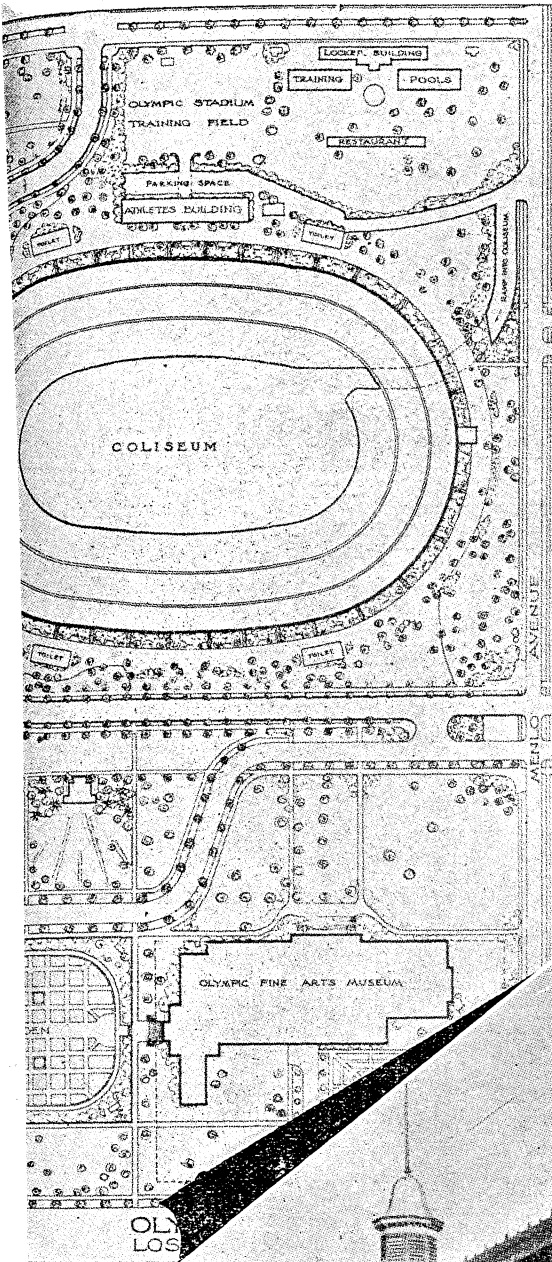
き飛込界では世界第一と稱されて居る。  
 グボードで一等、高飛込混合で二等であつた。デスチャイデンな  
 クではスプリングで四等をとつたが、本年度全米大會ではスプリ  
 グボードで二等になつた。(最後)ハロルド・スミス。オリンピッ  
 合で三等をとつた。本年度全米大會ではスミスに負けてスプリ  
 ンを辭はせた選手、オリンピックではスプリングで二等、高飛混  
 つた。(中央)ライリー(本名ガリツエン)今夏再び來朝して吾ア  
 で二等、本年度全米選手権ではスプリング高飛混合共に一等であ

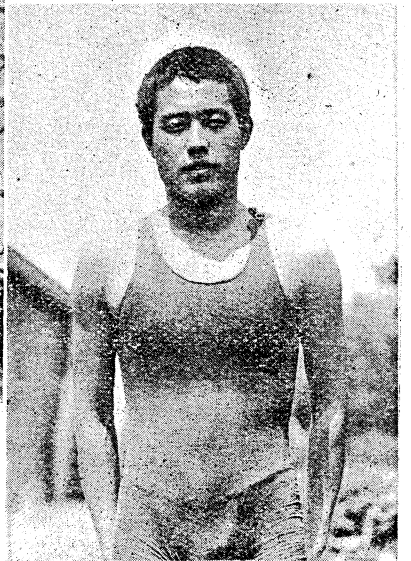
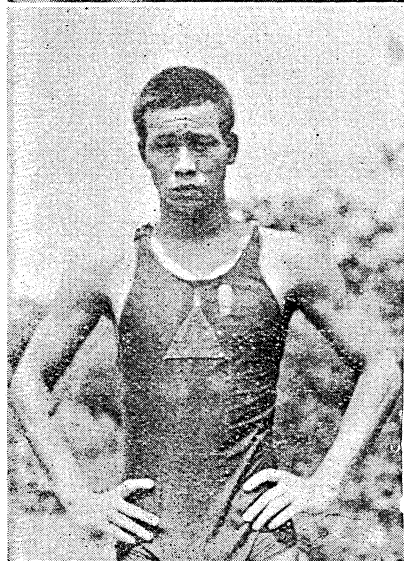
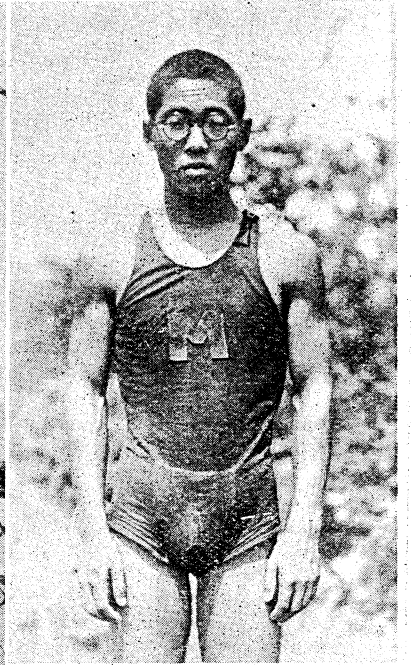
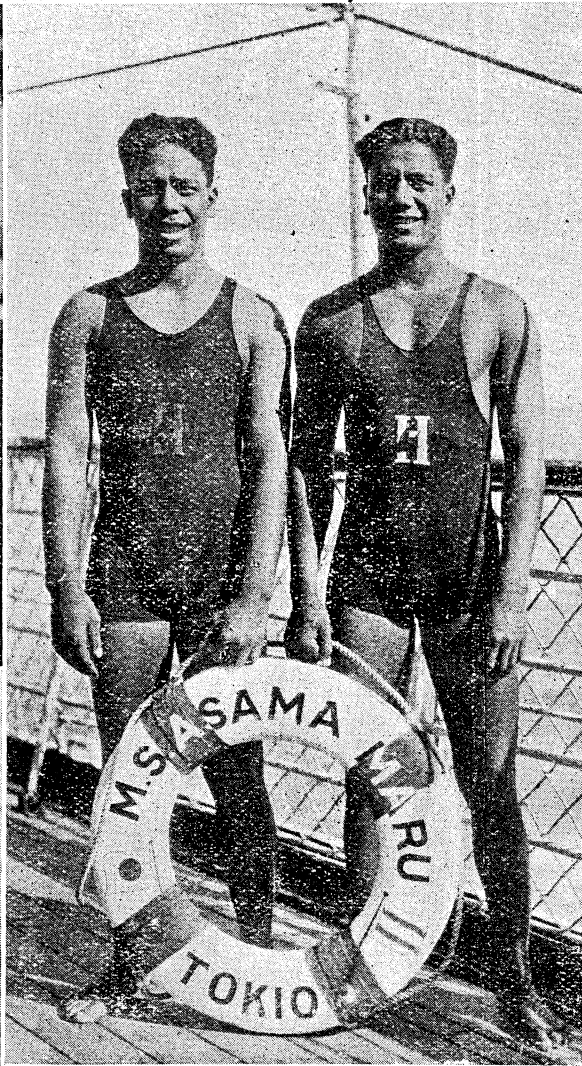
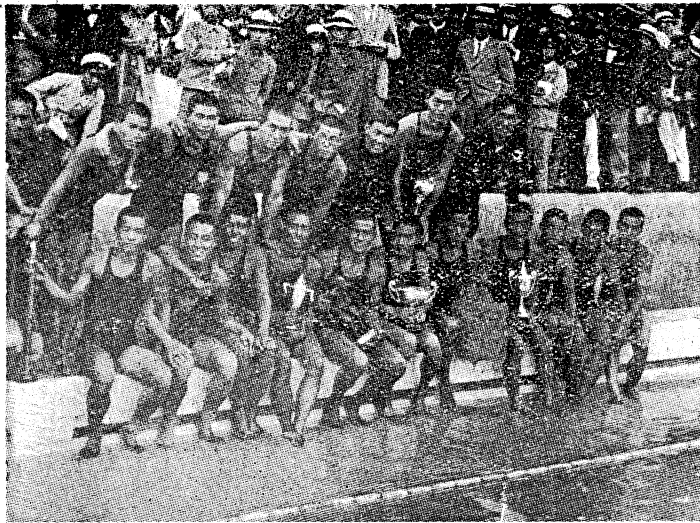
## 目指す ローサンゼルス

(中圖)は主たる競技が一齊に行はれる「オリンピック・パーク」である。上部中央より稍左の所にプールが構築される。各國の水の猛者が飛沫を飛ばして戦ふのは即ち此處である。(右上)はローサンゼルス市中心の市廳舎。白亜天に沖してゐる。(同下)スタンドの前には大プールが堀られる。



(左圖)はローサンゼルス及び近郊全圖で、(A)オリンピック・パーク (B)集會場、(C)オリンピック村、(D)役員宿舎、(E)テニスコート、(E)ボロ競技場、(E1)司上第二競技場、(F)第二蹴球場、(G)野外競技場、(H)潛艇路、(I)ヨット漕路等を示したもの。





(左上)から雪辱なつて再び覇権を握つた早大軍。  
 女子自由型界の二雄(左)市口房子(右)永井峯子。  
 百米自由型及び背泳の雄、濱松一中片山兼吉君。  
 (右上)から全国學生競技大會で八百米リレーに優  
 勝した明大リレーメンバー(右より佐田、武村、

安田、浦木)千五百米自由型でオリンピック記録を斷然破つた牧野少年。四百米自由型で牧野と同タイムでセツた横山少年。(中央)全日本大會に二百米自由型の選手權を得たハワイのカリリ。(向つて左)と百米背泳選手權を得た同カリリ兄。

最初の内は増田君優勢であつたが、100米よりは伊澤君少しくリードし始めラストでは、3.5米の差を作り、第二、三位は100米頃よりせり合つたままゴールに入った。

**女子 200米背泳(獨泳)**

1着久原(京武)3分36秒2

掻き手が深過ぎる故かあまりピッチの上らないのは惜しい事であるが兎に角相當に好い記録ではある。

**50米自由型**

1着高橋(早大)27秒3 2着吉瀬(關學)29秒

3着武田(明大)29秒1

ゲームは瞬間のものではあつたが夫れでも強豪高橋君が二着の吉瀬君を一身長抜いてゐた事は特に眼に就いた。小川君(明大)がタッチの差で第四位となつたのは氣の毒な事である。

**女子 400米自由型(獨泳)**

1着鈴木(京武)6分43秒(新記録)特筆すべき事なし。

**女子50米自由型**

1着宮城(京武)36秒8 2着水谷(京武)41秒6

最初から宮城嬢はリードして 4.5米の水を開けた。

**50米背泳**

1着木村(早大)34秒8(日本新記録) 2着吉瀬(關學)35秒(日本タイ記録) 3着増田(關學)36秒2

木村君斷然頑張つて遂に日本新記録を作り續く吉瀬君も0.5米後れたものも日本タイ記録を出した。更らに 1米後れて大野君(明大)と増田君とが争つてゐたけれど結局僅かの差で増田君が入選した。

**800米リレー**

1着關學(安藤、野村、伊藤、松本)9分57秒2

2着明大(水谷、柳田、大野、伊澤)10分26秒2

兩軍の差は段々と開くばかりで興味が少なかつた。

**200米リレー(第二日 晴天 氣温卅度 水温 廿三度一分)**

1着京都武德會(益田、樋口、横田、竹村)1分53秒8(新記録)

2着明大(武田、柳田、小川、伊澤)1分55秒2

京武の作つた新記録は日本記録に對して96%の肉薄振りを示した。

**女子100米自由型(獨泳)**

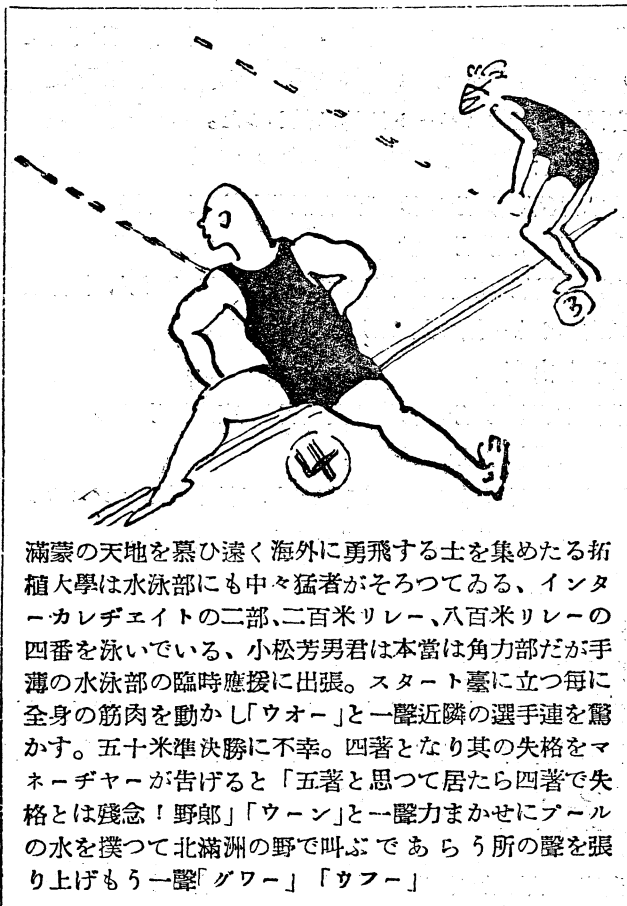
1着宮城(京武)1分26秒4

**100米平泳**

1着中村(立教)1分21秒2 2着寺石(京武)1分28秒2

3着辻本(京武)1分32秒8

中村君初めよりリードしてゐたが他は50米まで並泳の状態であつた。けれど結局1—2着7米2—3着5米の差となつた。尙このレースに於て木村君(早大)が事實上第二位であつたけれど泳法違反でオミットされた。



滿蒙の天地を慕ひ遠く海外に勇飛する士を集めたる折植大學は水泳部にも中々猛者がそろつてゐる、インターカレッジの二部、二百米リレー、八百米リレーの四番を泳いでゐる、小松芳男君は本當は角力部だが手薄の水泳部の臨時應援に出張。スタート臺に立つ毎に全身の筋肉を動かし「ウォー」と一聲近隣の選手連を驚かす。五十米準決勝に不幸。四著となり其の失格をマネージャーが告げると「五著と思つて居たら四著で失格とは残念!野郎」「ウーン」と一聲力まかせにプールの水を撲つて北滿洲の野で叫ぶであらう所の聲を張り上げもう一聲「グワー」「ウフー」

**女子200米自由型(獨泳)**

1着鈴木(京武)3分1秒4(日本新記録)

手をもつと有効に掻けば益々早くなる事と思ふ。併し世界記録に對し92%まで接近してゐる事は眞に同嬢の爲め前途を囑望してやまない。

**800米自由型**

1着西條(青年)11分1秒2 2着安藤(關學)11分50秒6

3着水谷(明大)平凡なレースであつた。

**200米自由型**

1着松浦(立教)2分23秒2(新記録) 2着樋口(京武)2分26秒6

3着伊藤(關學)2分28秒2

相當に猛烈な激戦となり柳田君(明大)も最初は成績が良かったけれど結局上記の如く實力の差運を示すに至つた。

**女子100米背泳(獨泳)**

1着久原(京武)1分40秒8

**200米平泳**

1着中村(立教)3分2秒2 2着塚原(早大)3分7秒4

3着磯野(明大)3分9秒4

最初50米までは中村、塚原、磯野三君は相當に力泳してゐたが小山君(神商大)が後れたので入選確實となつた爲め力を落して好い記録にはならなかつた。

**女子200米リレー(獨泳)**

1着京武女子チーム(横田、水谷、宮城、安藤)2分35秒6(新記録)

宮城嬢の距離スパートは特に長かつた。

### 100米背泳

1着木村(早大)1分18秒 2着吉瀬(關學)1分19秒4

3着伊澤(明大)1分20秒

吉瀬君猛然と老将木村君に迫つたが遂に及ばず、伊澤君は又惜しくも一掃の差で第三着となつた。

### 400米自由型

1着松本(關學)5分26秒2 2着葛目(横高商)5分38秒

3着柴田(關學)5分38秒8

葛目君甚だ優勢に泳いでみたけれど松本君のコンスタントの力泳は遂に断然14米をリードして仕舞つた。

### 400米平泳

1着塚原(早大)6分27秒3 2着磯野(明大)

3着小山(神商大)

塚原君は日本新記録を作るべく獨り舞臺で大いに泳いだが體の疲勞致し方なく僅かの處を破り得なかつたのは遺憾であつた。

### 100米自由型

1着高橋(早大)1分3秒 2着松浦(立教)1分3秒4

3着樋口(京武)1分4秒2

高橋君初めより幾分リードしてみたが50米頃に松浦、樋口、小川(明大)君等猛烈に追襲を試みたけれど功ならず高橋君一掃の差で第一着を獲得した。

### 300米メドレーリレー(獨泳)

1着早大(木村、塚原、高橋)3分50秒2

顔觸れは立派な面々の揃ひ故、好敵現はわたならばもつと立派な記録が出来たかも知れないが兎に角淋しい獨泳であつた。

### 水球決勝

關西學院	茨木水泳團	松本 R,F	赤松
渡邊	G,K	入谷 吉岡 H,B	上田
柴田	L,F	阪上 安藤 L,B	田中
野村	F,C	岸本 川野 R,B	井上

前半 茨木軍の阪上君バスボールを巧みにシュートして易々と二點を占めた。

後半 關學軍盛んにチャンスを狙ひ漸くにして松本君(關學)一點を占め尙も茨木軍のゴールを脅す内、守備中の上田君(茨木)が味方のゴールキーパーにバスせんとした球が過つてゴールに入り豫期せざる一點を敵に與へて同點となりタイムアップ。

補 匡前半 此時茨木軍の井上君過勞にて入水不能となり茨木は六名にて戦つたが作戦功を奏して阪上君容易に二點を獲得せば關學軍又その裏に出でて吉岡君二點

を奪回してホームタイムとなる。

補回後半 漸くにして寡人數の茨木軍は關學軍に實力の壓迫を受け始め、善戦して之に應じたが遂に吉岡、野村兩君(關學)にシュートされ關學軍は六對四にて優勝した。

飛込競技決勝 七月廿三日京二中プール 晴天 氣温 26°C 水温 22°C

1	西尾(茨中)	97.46 點
2	野田(茨中)	83.24 點
3	尾上(實業)	77.44 點
4	江馬(京武)	73.54 尾

西尾君の規定飛びは中々上出来であつたが眞擇飛びに今少しの努力を望しく思はれた。野田君は體重が軽いだけに飛び難くかつたらうと察せられたが概してさしたる缺點もなく結構であつた。尾上、江馬君は練習不足の故であらうが今一步の研究を切望してやまない。

## 女子水泳を見て 江島歌子

秋晴の九月の第三日曜日、自分はインターカレッジの水泳競技を見物に来て居ました、雨天こそ多く續きましたが、今年の秋は極めて平穩で、神宮外苑の緑は愈々濃く空はあくまで澄み渡つて、すがすがしい、氣分に満ちて居りました。プールでは早慶明等の猛者が、白熱戦を演じて居ります。物凄い程闘志に満ちて、居る人々を見、そして精魂を盡して、互に競ひ泳ぐのを見て居りますと、全く水泳競技は氣の弱い者には出来るものでは無いと思つたりして居ました。

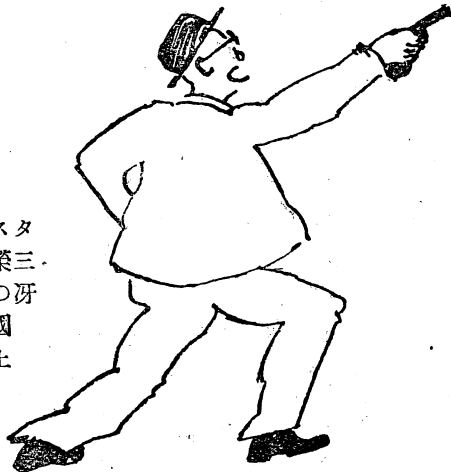
全く意氣と熱で行く若人のレースは母校の名譽、自己の面目をかけての戦であり、勝てるも負けるも感慨深いものがあるであります。あくまで、眞面目に行くところに、スポーツの神聖さがあり、人の心を打つものがあるものであらうと、今更ながら考へたりもして居りました。

扱て、私はこの日本誌の編輯の方から、先月の末に東京郊外の豊島園で行はれました女子の水上競技會に就いて、何にか書けとの御依頼であり、折角のこと故、二、三の感想を述べる積りなのですが、この大會は女子水泳選手の先輩が、役員を致することになつて居りまして、自分は時計員でありました爲に、充分にレースを見る事が出来ませんで、或は

こうした文章を書くのは全く不適任であるかもしれません。

又私は先輩などと云ふ言葉を自分に使ひましたが、私共女子水泳の第一期生が、各自女學生時代を中心の、三、四年の選手生活を送りましたのは、つい昨年か、一昨年前迄なのでして、こうした連中が所謂女子の先輩なのでから、我が女子水泳界の發達は極めて最近であり、その前途は或ひは、未知數に屬するかも知れません。が、

日本一の名スター  
小林榮三君、益々腕の牙えを見せ、國際的に名を上げて居



ますが、其の構を見るに堀の深さを計る丸橋忠彌よりやゝ腰が低く、東山三十六峰靜かにねむる京洛の夜に「寄らば切るぞ」と叫んだ總本家近藤勇宜數くの構へ。選手一度フライングをすれば即ち體を右に開いてダゲツドツと警砲二發をはなつて止む。吾人は早く萬國オリンピック大會のスタートを彼に打たせてみたくてならない。

平泳の前畑、自由型の永井、神谷、松澤、鈴木、市口、荒田等の進出、背泳の加藤、高野の名古屋淑徳高女の新進によつて、格段に進歩しましたこととこれらの選手の在學する學校の先生方が、極めて熱心に指導されて居るのを見聞すること、又こうした學校には、必ずプールの設備のあることを考慮に入れますと、女子水泳の今後の發達は期して、待つべきものとするのも必ずしも早計ではないと思ひます。我々の夢がだんだんと實現されて、行くやうに感ぜられて、愉快的気分にもなりました。

大體百餘人の参加者が殆んど棄權せず、日本新記録を出すこと、十四に及び、リレー等の團體競技が極めて重要視されました如く、對抗競技の色彩までが濃厚に織り込まれて、未熟な、或は不運の競技者は、第一豫選の通過すら困難でしたことは、全く最近の進歩を物語るものでありますが、水泳選手の進

歩は競技に参加して、一シーズン、或は二シーズンで面目を改める例にしばしば接するのですから、本大會を門出として、不幸恵まれなかつた方も、次の機會を待たれて、御自愛御研究を祈る次第です。

## 關西學生水上競技 大會概評 T S 生

關西學生水上競技聯盟主催第八回關西學生水上競技大會は、九月廿四日午前十時から、大阪市立水上競技場で舉行。此の日水温廿三度、絶好のレース日和りであつた、参加校は大阪學生聯盟加盟校の關大以下八校不参加のため京都からは、同志社、京大、三高、立命館大、神戸、廣島地方よりは關西學院、神戸商大、廣島文理大の七校の間に昭和五年度の爭覇戦が開始された(記録別項)

本大會も八ヶ年の古き歴史を有し、關西學生選手の最高の憧れの殿堂たるべき大會であらねばならないのに、記録の上から見ても餘り好結果を得られなかつた事は、關東と對抗して行かなければならない關西競泳界に取つて、眞に遺憾である。

極東オリンピック大會に、我がチームの第一線に立つて、新進の名をほしいまゝにした伊藤君を始め、關西の猛者松本、小杉、關島横田君等の激戦を見られず、豫選に於ても一人として飛び出して、日本記録、最高記録を窺ふものもなかつた。關學チーム等参加校も少なく、既に勝敗を決して居るのであるから、作戦の上からでも、もつと選手を生かし、自由に餘裕ある試合が出来たなら、記録の上からでも、チームとしても、關東に於ける早、明と對抗し得る事が出来ただらうと思ふ。

近來、餘りに競技會が多くなつたため、大會に對する調子を研究しなくなつた。旬日前に東西兩帝大戰に善戦した帝大チーム等も、調子悪く振はなかつたのはそれである。或は本大會を最高の目的として、精進、努力しなかつたためであらうか。

兎に角本大會も組織を一變し、役員選手共に眞劍覇氣ある大會として、關西選手に對する唯一の試金石たらしめなければならない。



昭和  
五年 水上競技戦績表

### 全日本選手権競技大會

主催 日本水上競技聯盟  
於明治神宮水泳場  
八月二十二、二十三、二十四日(夜間)

#### 男子ノ部

##### 百米自由型豫選

A組	1 高石勝男 (早大)	1.00.4
	2 宮本武夫 (早大)	1.02.0
	3 バトラ (米)	1.02.6
	4 宮崎康二 (濱名灣)	
	浦本義夫	
B組	1 カリリ(弟) (米)	1.00.8
	2 樋口榮一 (京武)	1.02.6
	3 片山兼吉 (濱名灣)	1.03.0
	4 志村義久 (小牧中)	
	熊野佐一	

##### 百米自由型決勝

1 高石勝男 (早大O.B.)	1.00.6
2 カリリ(弟) (米)	1.00.6
3 宮本武夫 (早大)	1.02.2
4 バトフ (米)	
樋口榮一 (京武)	
片山兼吉 (濱名灣)	
宮崎康二 (濱名灣)	
志村義久 (小牧中)	

##### 百米自由型豫選

A組	1 カリリ(弟) (米)	2.18.0
	2 寺田享太郎 (中士)	2.24.8
	3 浦木義夫 (明大)	2.29.0
	4 宮崎康二 (濱名灣)	
	島大作 (濱名灣)	
	熊野佐一 (早大)	
B組	1 松浦武夫 (立大)	2.23.2
	2 樋口榮一 (京武)	2.24.4
	3 宮崎正二 (濱名灣)	2.24.8
	4 小森正己 (函中)	
	米山弘	

##### 二百米自由型決勝

1 カリリ(弟) (米)	2.17.8
--------------	--------

2 松浦武夫 (立大)	2.23.4
3 樋口榮一 (京武)	2.23.6
4 宮崎正二	
5 寺田京太郎	
宮崎康二	
浦木義夫	
小森正己	

##### 四百米自由型豫選

A組	1 牧野正義 (濱名灣)	5.17.0
	2 鳥居一夫 (濱名灣)	5.18.6
	3 寺田享太郎 (函中)	5.21.4
	4 島大作 (濱名灣)	
B組	1 横山隆志 (高知中)	5.05.2
	2 カリリ(兄) (米)	5.05.8
	3 武村寅雄 (市二中)	5.24.6
	4 宮崎正二 (濱名灣)	
	藤田明 (早大)	

##### 四百米自由型決勝

1 牧野正義 (濱名灣)	4.56.6
2 横山隆志 (高知商)	4.56.6
3 カリリ(兄) (米)	5.11.6
4 寺田享太郎 (函中)	
鳥居一夫	
島大作	
宮崎正二	

##### 千五百米自由型豫選

A組	1 牧野正義 (濱名灣)	20.04.6
	2 田中一夫 (銚子商)	20.34.4
	3 カリリ(兄) (米)	21.22.8
B組	1 横山隆志 (高知商)	20.22.2
	2 武村寅雄 (市二中)	20.41.0
	3 カリリ(弟) (米)	21.25.6
	4 近藤勇三 (桑名中)	

##### 千五百米自由型決勝

1 牧野正義 (濱名灣)	19.35.2
2 横山隆志 (高知商)	20.10.0
3 武村寅雄 (市二中)	20.23.6
4 田中一夫 (銚子商)	
カリリ(兄) (米)	

##### 五十米背泳豫選

A組 1 入江稔夫 (早大)	33.2
----------------	------

2 大島正夫 (早大) 34.0

3 カリリ(兄) (米) 34.8

4 市橋溝之助 (慶大)

角田賢三 (北陸)

B組 1 清川正二 (名高商) 34.0

2 鈴木正雄 (濱名) 34.0

3 木村象雷 (早大) 34.6

**五十米背泳決勝**

1 鈴木正雄 (濱名灣) 33.4

2 入江稔夫 (早大) 33.8

3 清川正二 (名高商) 33.8

カリリ(兄) (米)

大島正夫 (早大)

木村象雷 (早大)

市橋溝之助 (慶大)

**百米背泳豫選**

A組 1 入江稔夫 (早大) 1.14.0

2 清川正二 (名高商) 1.15.0

3 鈴木正雄 (濱名灣) 1.16.0

4 若山隴美 (廣島中)

伊澤嘉之助 (明大)

B組 1 カリリ(兄) (米) 1.14.4

2 片山兼吉 (濱名灣) 1.15.6

3 大島正夫 (早大) 1.17.2

4 木村象雷 (早大)

角田賢三 (北陸)

市橋溝之助 (慶大)

上野克巳 (早大)

**百米背泳決勝**

1 カリリ(兄) (米) 1.13.2

2 入江稔夫 (早大) 1.14.2

3 清川正二 (名高商) 1.15.2

鈴木正雄 (濱名灣)

片山兼吉 (濱名灣)

大島正夫 (早大)

木村象雷 (早大)

若山隴美 (廣島中)

**百米背泳豫選**

A組 1 鶴田義行 (明大) 1.19.2

2 大串泰造 (慶大) 1.20.6

3 藤本頼廣 (臺南中) 1.22.4

4 松本隆重 (早大)

筒井五郎 (函中)

B組 1 中村秀吉 (立大) 1.21.0

2 勝田忠彌 (早大) 1.25.0

3 秋山武男 (明大) 1.29.2

**百米平泳決勝**

1 鶴田義行 (明大) 1.17.4

2 大串泰造 (慶大) 1.20.8

3 中村秀吉 (立大) 1.21.2

藤本頼廣 (臺南中)

松本隆重 (早大)

勝田忠彌 (早大)

秋山武男 (明大)

**二百米平泳豫選**

A組 1 大串泰造 (慶大) 3.02.0

2 塚原茂巳 (早大) 3.03.0

3 小池禮三 (沼津商) 3.03.4

B組 1 鶴田義行 (明大) 2.57.6

2 藤本頼廣 (臺南中) 3.02.2

3 松本重隆 (早大) 3.04.4

4 中村秀吉 (立大)

秋山武男 (明大)

**二百米平泳決勝**

1 鶴田義行 (明大) 2.55.6

2 大串泰造 (慶大) 2.58.0

3 塚原茂巳 (早大) 3.00.4

小池禮三 (沼津商)

藤本頼廣 (臺南中)

中村秀吉 (立大)

**三百米メドレ、リレー**

1 早大A(入江、松本、宮本) 3.49.6

**八百米リレー決勝**

1 灣名灣 (宮崎、鳥居、片山、牧野) 9.31.0

2 明大 (浦木、鈴木、安田、武村) 9.54.0

**三百米リレー番外**

2 (米) (カリリ弟、パドラー、カリリ兄)

3.08.2

1 (日) (宮本、横山、高石)

3.03.4

**女子ノ部**

1 神谷春子 (愛知一女) 1.20.0

2 永井峰子 (關東) 1.22.4

3 宮崎百合恵 (文華高女) 1.24.6

宮城清子 (京武)

社本田歌子 (椋山第二)

守岡初子 (大阪吹田)

**百米自由型決勝**

1 鈴木里子 (京武) 3.03.6

2 市口房子 (女子商) 3.07.2

3 宮崎百合恵 (文華高女) 3.08.8

宮城清子 (京武)

**四百米自由型決勝**

1	永井峰子 (關東)	6.27.8
2	鈴木里子 (京武)	6.28.6
3	市口房子 (女子商)	6.34.4
	宇佐美花子 (椛山第二)	

**百米背泳豫選**

1	加藤好子 (愛淑徳)	1.34.4
2	高野菊枝 (愛淑徳)	1.36.4
3	守岡初子 (大阪吹田)	1.39.0
	久原寛子 (京武)	
	中川チエ子 (東京女俱)	
	社本田歌子 (椛山二女)	
	高野溝江 (ヤシマクラブ)	

**二百米平泳決勝**

1	前畑秀子 (横山二女)	3.12.4
2	田畑百子 (京武)	3.42.2

**飛込競込**

**女子スプリングボード**

	點	得點總計	順位
小塚栽子	5	45.94	1
黒田不二子	10	39.72	2

**女子高逆飛**

	點	得點總計	順位
石渡桂子 (T D C)	5	24.00	1

**男子スプリングボード**

	點	得點總計	順位
ミツキー、ライレー、(米國)	5	168.68	1
水谷泰夫 (F D C)	11	120.72	2
原 酉 三 (慶 大)	14	114.70	3
鈴木康友 (F D C)	21	102.72	4
西尾太一 (茨木中學)	25	95.32	5
野田卓夫 (茨木中學)	29	89.42	6

**高飛込混合競技**

	點	得點總計	順位
ミツキー、ライレー (米國)	5	88.88	1
永松武 (F D C)	12	64.86	2
石田英勝 (日本飛行)	16	62.68	3
末次保 (福 岡)	20	61.90	
奥平俊二 (慶 大)	23	61.14	
水谷泰夫 (F D C)	33	54.74	
齊田季夫 (北 陸)	33 1/2	54.12	
内山次郎 (北 陸)	37 1/2	52.30	

**水球準決勝**

審判 杉田 記録員 川口、山崎、計時員 吉本

**三田俱樂部**

**慶應義塾**

藤野	L	F	澤海
山本	C	F	木村
有吉	R	F	清水
野田	H	B	坂倉
山川	L	B	大原
山本	R	B	平岡
市橋	G	K	井出

$$0 \left( \begin{array}{ccc} 0 & & 3 \\ 0 & G & 5 \end{array} \right) 8$$

23 F T 11

1 G T 6

0 C T 0

0 P T 0

1 L W 0

**水球決勝**

審判 吉本 記録員 杉田、時住 計時員 山崎

**K R D A C**

**慶 大**

エンゲルス	L	F	澤海
ジェームス	C	F	木村
レイルトン	R	F	坂倉
ドレッサー	H	B	清水
シルマー	L	B	大原
ブライアン	R	B	平岡
レメヂオス	G	K	井出

$$3 \left( \begin{array}{ccc} 2 & & 0 \\ 1 & G & 1 \end{array} \right) 1$$

10 F T 1

6 G T 2

2 C T 1

0 P T 0

**第九回全國學生競技大會**

主催 全國學生水上競技聯盟

場所 明治神宮プール

期日 九月二十一日(土)二十二日(日)

第一日氣温 19°水温 21° 第二日氣温 20°水温 21°

**第二部**

**五十米自由型豫選**

A組	1	井戸川英明 (大倉)	29.4
	2	本間三樹雄 (國大)	29.6
	3	本間誠三 (慈大)	
		坪崎信一 (横商専)	
		清水 染 (高師)	
		金澤政雄 (北大)	

B組	1	淺野 虎夫 (拓大)	
	2	塩田 芳久 (高師)	29.8
	3	林 康雄 (國大)	31.2
	4	榎田 和之 (大倉)	33.2
C組	1	山田 博 (横專)	
	2	山田 直幸 (高師)	31.0
	3	植田 美與志 (拓大)	31.4
	4	岩上 光 (横專)	(31.8)
D組	1	原田 仁 (横工)	
	2	槍田 喜一 (青學)	
	3	赤崎 憲二 (大倉)	
	4	木場 藤吉郎 (慈大)	
E組	1	早川 貞正 (横工)	27.6
	2	森川 十郎 (慈大)	31.2
	3	岩尾 靜乏 (東洋)	(31.4)
	4	藤野 良雄 (北大)	
E組	1	中澤 令一 (青學)	
	2	竹下 貞俊 (東洋)	31.2
	3	細田 時雄 (青學)	31.2
	4	木村 紀三 (横專)	31.6
4	田尻 稻穂 (横專)		

五十米準決勝

A組	1	井戸川 (大倉)	29.4
	2	本間 (國學)	29.6
	3	細田 (青山)	30.6
		岩神 (横專)	
		山田 (高師)	
		岩毛 (東洋)	
B組	1	上田 (拓大)	
	2	森川 (慈大)	
	3	早川 (横工)	27.4
	4	鹽田 (高師)	29.6
	5	木村 (横專)	31.0
	6	牧田 (大倉)	
	本間 (慈大)		
	林 (國學)		
	竹下 (東洋)		

五十米自由型決勝

1	早川 (横工)	27.4
2	井戸川 (大倉)	29.2
3	本間 (國學)	30.0
4	鹽田 (高師)	
5	細田 (青山)	
6	木村 (横專)	

百米自由型豫選

A組	1	山田 直幸 (高師)	1.13.2
----	---	------------	--------

B組	2	森田 好造 (横專)	1.11.2
	3	小松 芳男 (拓大)	1.13.2
	4	井戸川 英明 (大倉)	
	5	槍田 喜一 (青山)	
	1	本間 三樹雄 (國大)	1.10.4
C組	2	村上 恒雄 (北大)	1.13.2
	3	細田 時雄 (青學)	1.13.2
	4	野村 武夫 (慈大)	
	1	早川 貞正 (横工)	1.05.0
D組	2	淵野 清 (東洋)	1.14.2
	3	本間 誠三 (慈大)	1.14.8
	4	淺野 虎夫 (拓大)	
	1	佐久間 次彦 (國大)	1.08.0
	2	生崎 利雄 (高師)	1.12.0
E組	3	川原 博 (北大)	1.12.2
	4	室内 治男 (大倉)	
	5	岡田 勝美 (拓大)	
E組	1	梅田 利兵 (高師)	1.15.4
	2	坂本 新 (拓大)	1.19.2

百米自由型準決勝

A組	1	早川 (横工)	1.05.2
	2	梅田 (高師)	1.09.2
	3	本間 (國學)	1.11.0
	4	村上 (北大)	
	5	山田 (高師)	
	6	森田 (横專)	
B組	1	佐久間 (國學)	1.08.2
	2	川原 (北大)	1.11.4
	3	細田 (青山)	1.12.0
	4	生崎 (高師)	
	5	小松 (拓大)	
	6	本間 (慈大)	

百米自由型決勝

1	早川 (横工)	1.05.0
2	梅田 (高師)	1.08.4
3	佐久間 (國學)	1.08.8
4	本間 (國學)	
5	細田 (青山)	
6	川原田 (北大)	

二百米自由型豫選

A組	1	佐久間 次彦 (國大)	2.41.0
	2	生崎 利雄 (高師)	2.52.4
	3	小松 芳男 (拓大)	2.55.0
		棄田 口留治 (東洋)	
B組	1	川原田 博 (北大)	2.59.2
	2	島井 四郎 (横工)	3.01.6

	3	森川十郎	(慈大)	3.04.6
C組	1	植木良雄	(慈大)	2.56.6
	2	南邦明	(青山)	3.22.2
D組	1	淵野清	(東洋)	2.52.4
	2	本田元夫	(拓大)	2.56.6
	3	松倉健造	(大倉)	2.57.8
	4	町田昌彌	(慈大)	
	5	村上恒雄	(北大)	
	6	福島貞一	(高師)	
	7	是谷川高之	(横工)	
	8	安濃康次	(横商專)	
E組	1	梅田利兵衛	(高師)	2.45.4
	2	熊谷時男	(北大)	2.54.4
	3	山本吉郎	(横專)	3.05.2
	4	野村武夫	(慈大)	
	5	幸田松平	(青山)	
	6	群司公平	(拓大)	

二百米自由型準決勝

A組	1	梅田	(高師)	2.45.0
	2	熊谷	(北大)	2.49.2
	3	淵野	(東洋)	
	4	山本	(横專)	
B組	1	佐久間	(國學)	2.42.6
	2	植木	(慈大)	2.48.6
	3	生崎	(高師)	2.51.8
	4	小松	(拓大)	
	5	川原田	(北大)	
	6	森川	(慈大)	

二百米自由型決勝

	1	佐久間	(國學)	2.43.4
	2	梅田	(高師)	2.47.2
	3	植木	(慈大)	2.47.6
	4	熊谷	(北大)	
	5	生崎	(高師)	
	6	淵野	(東洋)	

四百米自由型豫選

A組	1	葛目成武	(横專)	6.02.2
	2	高村繁枝	(拓大)	6.27.0
	3	町田昌彌	(慈大)	6.46.8
	4	安藤美彦	(横專)	
	5	戸澤辰助	(東洋)	
	6	松倉健造	(大倉)	
	7	高井晋一	(商船)	
	8	田邊謙輔	(大倉)	
	9	竹下休藏	(高師)	
B組	1	熊谷時男	(北大)	6.18.2

	2	平岡康國	(明薬)	6.22.4
	3	福島貞一	(高師)	6.42.6
	4	幸田松平	(青山)	
C組	1	中野八十二	(高師)	5.53.0
	2	澤田克己	(北大)	6.26.4
	3	石川唯廣	(拓大)	6.57.6
	4	宮本靜夫	(東洋)	
D組	1	田村重郎	(横工)	6.43.6
	2	安濃康次	(横專)	7.22.4
	3	群司公平	(拓大)	
	4	松本康藏	(高師)	

四百米自由型準決勝

A組	1	中野	(高師)	5.51.6
	2	平岡	(明薬)	6.14.2
	3	澤田	(北大)	6.19.8
	4	群司	(拓大)	
	5	石川	(拓大)	
B組	1	葛目	(横專)	5.51.8
	2	高村	(拓大)	6.13.2
	3	熊谷	(北大)	6.18.0
	4	福島	(高師)	
	5	田村	(横工)	

四百米自由型決勝

	1	中野	(高師)	5.43.6
	2	葛目	(横專)	5.45.8
	3	熊谷	(北大)	6.08.4
	4	澤田	(北大)	
	5	高村	(拓大)	
	6	平岡	(明薬)	

八百米自由型豫選

A組	1	澤田克己	(北大)	13.27.0
	2	平岡康國	(明薬)	13.28.4
B組	1	中野八十二	(高師)	12.08.3
	2	葛目成武	(横專)	12.11.2
	3	田村重郎	(横工)	14.11.8
		棄石川唯廣	(拓大)	
C組	1	高村繁枝	(拓大)	13.18.4

八百米自由型決勝

	1	中野	(高師)	12.05.8
	2	葛目	(横專)	12.35.6
	3	澤田	(北大)	13.12.0
	4	平岡	(明薬)	
	5	田村	(横工)	
	6	高村	(拓大)	

百米背泳豫選

A組	1	藤野良雄	(北大)	1.23.8
----	---	------	------	--------

	2	鹽田芳久	(北大)	1.27.0
	3	本田元夫	(拓大)	1.32.0
	4	中村資提	(明薬)	
	5	野間眞榮	(東洋)	
<b>B組</b>	1	清水 染	(高師)	1.29.4
	2	木村 紀三	(横専)	1.30.8
	3	奥山 義夫	(拓大)	
	4	鈴木 弘	(北大)	
	5	村上禮次郎	(慈大)	
<b>C組</b>	1	鳥居 四郎	(横工)	1.28.6
	2	井平 宗和	(國大)	1.29.0
	3	草間幸太郎	(明薬)	
	4	尾崎 信	(大倉)	
	5	植木 良雄	(慈大)	
<b>D組</b>	1	渡邊 好美	(横専)	1.30.0
	2	植田美與志	(拓大)	1.31.6
	3	福井 忠俊	(北大)	1.34.0

**百米背泳準決勝**

<b>A組</b>	1	植田	(拓大)	1.29.4
	2	鹽田	(高師)	1.29.4
	3	木村	(横専)	1.31.4
	4	井手	(國大)	
	5	奥山	(拓大)	
	6	福井	(北大)	
<b>B組</b>	1	藤野	(北大)	1.24.6
	2	草間	(明薬)	1.27.2
	3	鳥居	(横工)	1.28.2
	4	清水	(高師)	
	5	本田	(拓大)	
	6	渡邊	(横専)	

**百米背泳決勝**

	1	藤野	(北大)	1.24.0
	2	鹽田	(高師)	1.26.8
	3	植田	(拓大)	1.29.0
	4	木村	(横専)	
	5	草間	(明薬)	
	6	鳥居	(横工)	

**二百米平泳豫選**

<b>A組</b>	1	前川 澄	(高師)	3.14.2
	2	井上 俊男	(横専)	3.17.6
	3	三橋 克己	(拓大)	3.25.6
<b>B組</b>	1	大平 良一	(明薬)	3.23.4
	2	大日方 秋男	(高師)	3.25.0
	3	遠山 哲夫	(慈大)	3.31.4
	4	西川 精一郎	(東洋)	
<b>C組</b>	1	萱園 昭雄	(高師)	3.50.4

	2	田邊 善吉	(大倉)	4.15.2
<b>D組</b>	1	川名 清	(横工)	3.31.2
	2	村松 二郎	(横専)	3.37.8
	3	島村 英雄	(東洋)	4.10.2

**二百米平泳準決勝**

<b>A組</b>	1	前川	(高師)	3.15.0
	2	三橋	(拓大)	3.22.6
	3	川名	(横工)	3.29.0
	4	遠山	(慈大)	
	5	村松	(横専)	
<b>B組</b>	1	井上	(横専)	3.18.2
	2	大平	(明薬)	3.23.8
	3	大日方	(高師)	3.24.4
	4	萱園	(高師)	

**二百米平泳決勝**

	1	前川	(高師)	3.14.6
	2	井上	(横専)	3.18.0
	3	大平	(明薬)	3.20.6
	4	大日方	(高師)	
	5	三橋	(拓大)	
	6	川名	(横工)	

**二百米リレー豫選**

<b>A組</b>	1	東京高師	2.01.6
	2	慈惠醫大	2.05.6
	3	横濱高商	2.05.6
	4	横濱専門	
	5	青山學院	
	6	横濱商専	
<b>B組</b>	1	北海道帝大	2.06.2
	2	大倉高商	2.06.8
	3	拓殖大學	2.06.8
	4	明治薬専	
	5	國學院大學	
	6	東洋大學	

**二百米リレー決勝**

	1	高等師範	2.01.4
	2	北海道帝大	2.02.4
	3	横濱高工	2.03.0
	4	慈惠大學	
	5	拓殖大學	
	6	大倉高商	

**八百米リレー豫選**

<b>A組</b>	1	東京高師	11.11.6
	2	拓殖大學	11.57.6
	3	青山學院	12.37.6
	4	横濱商専	

B組	1	横濱高工	11.46.8
	2	北海道帝大	11.55.4
	3	慈恵醫大	12.03.4

八百米リレー決勝

	1	高等師範	11.12.6
	2	横濱高工	11.35.4
	3	北海道帝大	11.37.0
	4	拓殖大學	
	5	慈恵醫大	
	6	青山學院	

五千米自由型豫選

A組	1	熊野佐一 (早大)	28.6
	2	藤野長節 (明大)	29.2
	3	財部四郎 (慶應)	29.4
	4	竹内瑞穂 (法政)	
	5	淵上鶴龜 (日大)	
	6	上野理七郎 (立大)	
B組	1	高橋成夫 (早大)	27.0
	2	兒玉博 (明大)	28.2
	3	藤野半十 (慶應)	29.4
	4	殿井次郎 (立教)	
	5	遠野勳男 (法政)	
	6	戸田豊 (一高)	
	7	國分健男 (商大)	
C組	1	宮本武夫 (早大)	27.0
	2	杉野常雄 (明大)	28.4
	3	林忠雄 (慶應)	29.2
	4	丹下良一 (法政)	
	5	關口良三郎 (立大)	
	6	田中徳二 (東大)	
D組	1	河石達吾 (慶應)	27.6
	2	益田左武郎 (法政)	28.2
	3	森好男 (早大)	28.6
	4	村松正一 (明大)	
	5	山田英男 (東大)	
	6	片岡忠 (日大)	

五十米自由型準決勝

A組	1	高橋 (早大)	27.0
	2	林 (慶應)	28.0
	3	杉野 (明治)	(28.0)
	4	益田 (法政)	
	5	森 (早大)	
	6	財部 (慶應)	
B組	1	宮本 (早大)	27.0
	2	河石 (慶應)	27.8
	3	熊野 (早大)	28.4

	4	兒玉 (明大)	
	5	藤野 (明大)	
	6	藤野 (慶應)	

五十米自由型決勝

	1	高橋 (早大)	26.8 (日本新記録)
	2	宮本 (早大)	27.0
	3	河石 (慶應)	27.8
	4	杉野 (明治)	
	5	林 (慶應)	
	4	熊野 (早大)	

百米自由型豫選

A組	1	佐田徳平 (明大)	1.01.4
	2	丹下良一 (法大)	1.04.6
	3	熊野佐一 (早大)	1.04.8
	4	松浦武雄 (立大)	
	5	山本晴雄 (慶大)	
	6	光廣榮次 (商大)	
B組	1	宮本武夫 (早大)	1.02.4
	2	山川金之助 (慶大)	1.05.8
	3	關口正三郎 (立大)	1.06.6
	4	兒玉博 (明大)	
	5	益田佐武郎 (法大)	
	6	新里清一郎 (商大)	
C組	1	野田一雄 (慶大)	1.02.2
	2	高橋成夫 (早大)	1.04.4
	3	大木直正 (帝大)	1.06.6
	4	加藤嘉清 (日大)	
	5	上野理七郎 (立大)	
	6	竹内瑞穂 (法大)	
D組	1	河石達吾 (慶大)	1.03.0
	2	森好男 (早大)	1.05.0
	3	松下昌澄 (日大)	1.06.2
	4	鈴木秀男 (法大)	
	5	小川薫 (明大)	
	6	佐原幸一郎 (商大)	

百米自由型準決勝

A組	1	佐田 (明大)	1.01.4
	2	高橋 (早大)	1.02.4
	3	河石 (慶大)	1.03.4
	4	森 (早大)	
	5	山川 (慶大)	
	6	大木 (帝大)	
B組	1	宮本 (早大)	1.01.6
	2	野田 (慶大)	1.02.2
	3	丹下 (法大)	1.05.0
	4	熊野 (早大)	(殆同着)

- 5 關口 (立大)
- 6 松下 (日大)

**百米自由型決勝**

- 1 佐田 (明大) 1.01.6
- 2 高橋 (早大) 1.02.2
- 3 宮本 (早大) 1.02.6
- 4 野田 (慶大) (殆同着)
- 5 河石 (慶大)
- 6 丹下 (法大) 1.04.4

**二百米自由型豫選**

- A組**
  - 1 武村清 (明大) 2.21.6
  - 2 野田一雄 (慶大) 2.21.8
  - 3 坂上安太郎 (早大) 2.25.0
  - 4 清政武夫 (早大)
  - 5 山本晴武 (慶大)
- B組**
  - 1 竹林隆二 (早大) 2.26.4
  - 2 大野元美 (明大) 2.27.8
  - 3 山川金之助 (慶大) 2.30.8
  - 4 鈴木秀男 (法政)
  - 5 村松栞 (日大)
  - 6 水谷新一郎 (明大)
- C組**
  - 1 佐田德平 (明大) 2.29.8
  - 2 五十嵐力英 (早大) 2.31.8
  - 3 松浦武夫 (立教) 2.32.6
  - 4 松下昌澄 (日大)
  - 5 山本操 (慶大)
  - 6 佐原幸一郎 (商大)

**二百米自由型決勝**

- 1 野田 (慶大) 2.21.8
- 2 佐田 (横大) 2.21.8
- 3 武村 (横大) 2.22.8
- 4 竹林 (早大)
- 5 坂上 (早大)
- 6 五十嵐 (早大)
- 7 松浦 (立教)
- 8 大野 (明大)
- 9 山川 (慶大)

**四百米自由型豫選**

- A組**
  - 1 武村清 (明大) 5.07.8
  - 2 青山茂 (早大) 5.14.8
  - 3 浦本義夫 (明大) 5.16.8
  - 4 清政武夫 (早大)
  - 5 濱田道男 (日大)
  - 6 落合芳政 (法大)
  - 7 根上博 (慶大)
- B組**
  - 1 米山弘 (早大) 5.13.6

- 2 安田來吉 (明大) 5.15.0
- 3 坂上安太郎 (早大) 5.20.8
- 4 市村定幸 (法大)
- 5 谷口猛政 (慶大)
- 6 山本操 (慶大)
- 7 鈴木重孝 (明大)

**四百米自由型決勝**

- 1 武村 (明大) 5.08.6
- 2 米山 (早大) 5.09.6
- 3 青山 (早大) 5.15.2
- 4 坂上 (早大) 5.15.4
- 5 浦木 (明大) (差 1/2 m)
- 6 安田 (明大) (差 1/2 m)
- 7 清政 (早大) (差 8m)

**八百米自由型豫選**

- A組**
  - 1 米山弘 (早大) 11.05.4
  - 2 根來幸成 (慶大) 11.15.8
  - 3 市村定幸 (法大) 11.18.0
  - 4 鈴木重孝 (明大)
  - 5 根上博 (早大)
- B組**
  - 1 藤田明 (立大) 11.19.8
  - 2 濱田道男 (日大) 11.20.4
  - 3 五十嵐力英 (早大) 11.23.0
  - 4 大野元美 (明大)
  - 5 落合芳政 (法大)
  - 6 大澤泰雄 (慶大)
- C組**
  - 1 青山茂 (早大) 10.51.4
  - 2 安田來吉 (明大) 10.57.2
  - 3 浦木義夫 (明大) 11.09.0
  - 4 谷口猛政 (慶大)

**八百米自由型決勝**

- 1 米山 (早大) 10.55.4
- 2 青山 (早大) 10.58.2
- 3 安田 (明大) 11.02.0
- 4 浦木 (明大)
- 5 根來 (慶大)
- 6 五十嵐 (早大)
- 7 市村 (法大)
- 8 藤田 (早大)
- 9 濱田 (日大)

**百米背泳豫選**

- A組**
  - 1 大島正夫 (早大) 1.16.0
  - 2 木村象雷 (早大) 1.17.0
  - 3 大木直正 (帝大) 1.17.8
  - 4 牧田武夫 (明大)
  - 5 市橋溝之助 (慶大)



B組	6	松下喜市	(商大)	
	7	中野勇	(帝大)	
	1	入江稔夫	(早大)	1.15.2
	2	根來幸成	(慶大)	1.19.0
	3	伊澤嘉之助	(明大)	1.19.8
	4	上野克巳	(早大)	
	5	船越榮	(日大)	
	6	長谷川隆巳	(法大)	
7	加藤嘉清	(日大)		
8	森茂	(立大)		

百米背泳決勝

1	入江	(早大)	1.14.2
2	大島	(早大)	1.15.8
3	木村	(早大)	1.16.4
4	大木	(帝大)	1.17.0
5	根來	(慶大)	
6	伊澤	(明大)	
7	上野	(早大)	
8	牧田	(明大)	

二百米平泳落選

A組	1	大串泰造	(慶大)	3.02.4
	2	松本隆重	(早大)	3.06.2
	3	栗田春三郎	(明大)	3.10.0
	4	大井忠紀	(商大)	
	5	不破正秀	(法大)	
B組	1	調子光二	(早大)	3.07.2
	2	秋山武雄	(明大)	3.09.2
	3	栗井義男	(日大)	3.11.8
	4	光成桂一	(立大)	
	5	林正之	(帝大)	
	6	中上幸一	(商大)	
C組	1	馬渡勇喜	(明大)	3.01.2
	2	塚原茂樹	(早大)	3.04.0
	3	中村秀吉	(立大)	3.05.4
D組	1	磯野百雄	(明大)	3.11.4
	2	勝田忠彌	(早大)	3.18.8
	3	河上繼男	(法大)	3.22.8

二百米平泳決勝

A組	1	馬渡	(明大)	3.00.4
	2	中村	(立大)	3.04.6
	3	調子	(早大)	3.05.6
	4	磯野	(明大)	
	5	勝田	(早大)	差 1/4 米
	6	栗井	(日大)	
B組	1	塚原	(早大)	3.00.8
	2	松本	(早大)	3.01.2

3	大串	(慶大)	3.01.4
4	栗田	(明大)	
5	秋山	(明大)	
6	川上	(法大)	

二百米平泳決勝

1	塚原	(早大)	3.00.4
2	松本	(早大)	3.01.4
3	馬渡	(明大)	3.02.0
4	大串	(慶大)	
5	調子	(早大)	
6	中村	(立大)	

二百米リレー決勝

1	早大	大	1.49.0
2	慶大	大	1.51.2
3	明大	大	1.52.8
4	法政	大	
5	帝大	大	
6	立大	大	
7	日大	大	
8	一高	大	
9	商大	大	

八百米リレー決勝

1	明大	(安田、浦木、武村、佐田)	9.37.4
2	早大	(竹林、清政、坂上、宮本)	9.42.2
3	慶大	(河石、谷口、山本、野田)	9.58.4
4	立大	(關口、松浦、上野、根上)	タツチの差
5	法政	(市村、落合、丹下、鈴木)	
6	日大	(加藤、濱田、村松、松下)	
7	帝大	(山田、小林、中野、大木)	
8	商大	(松下、佐原、水谷、國分)	

關西學生競技大會

主催 關西學生水上競技聯盟  
九月廿四日於大阪市立築港プール

三百米メドレーリレー

1	同志社	(土井、岡島、藤田)	3.48.8
2	關學	(吉瀬、野田、伊藤)	
3	帝大		

八百米自由型

1	安藤	(關學)	11.32.2
2	小杉	(同志社)	11.49.6
3	柴田	(關學)	12.17.4
4	矢庫	(關學)	

百米自由型

## 西部中等學校競技大會

主催 關西學生水上競技聯盟

後援 大阪毎日新聞社

八月九日・十日

於大阪市立運動場プール(50米)

### 百米自由型選

A組	1 荒川真一郎 (高知商)	1,07.2
	2 森岡政久 (三次中)	1,09.2
	3 松井爲三郎 (岐阜商)	1,10.4
B組	1 平岡清 (修道中)	1,08.4
	2 虎野正二 (岸中)	1,10.2
	3 舟木公弘 (佐賀中)	1,11.4
C組	1 新田福夫 (修道中)	1,08.6
	2 村上孝雄 (高知中)	1,09.0
	3 上山宗男 (耐久中)	1,09.2
D組	1 土居正明 (修道中)	1,05.6
	2 西崎行雄 (山口師)	1,08.8
	3 森誠一 (岡口師)	
E組	1 志村義久 (小牧中)	1,06.0
	2 上田敏雄 (尾道商)	1,09.0
	3 中野六弘 (五條中)	1,10.2
F組	1 加治木次雄 (福山中)	1,07.8
	2 杉山堅三 (岐阜商)	1,08.2
	3 森崎勇 (城東商)	1,09.4
G組	1 小野深 (高知師)	1,04.4
	2 竹村公良 (京一中)	1,08.0
	3 後藤好良 (姫師)	1,11.4
H組	1 小西小一 (天師)	1,05.2
	2 西田正弘 (三次中)	1,06.6
	3 田畑昇 (京三中)	1,07.2

### 百米自由型準決勝

A組	1 小野深 (高知師)	1,04.8
	2 田畑昇 (京三中)	1,07.2
	3 平岡清 (修道中)	1,07.8
B組	1 志村 (小牧中)	1,05.6
	2 加治木 (福山中)	1,06.4
	3 森岡 (三次中)	1,06.8
C組	1 小西 (天師)	1,06.2
	2 竹村 (京一中)	1,07.0
	3 荒川 (高知商)	1,07.2

### 百米自由型決勝

1 志村 (小牧中)	1,05.4
2 小西 (天師)	1,05.4
3 小野 (高知師)	1,05.8

1 伊藤 (關學)	1,04.2
2 横田 (〃)	
3 野村 (關學)	
4 入同 (〃)	

### 二百米平泳

1 小山 (神戸商大)	3,10.4
2 鍵本 (神商)	
3 有本 (京大)	
4 岡島 (〃)	

### 二百米リレー

1 關學 (松本、野村、伊藤、吉瀬)	1,52.8
2 同志社	
3 京大	
4 廣島文理	

### 二百米自由型

1 伊藤 (關學)	2,23
2 松本 (關學)	2,82.2
3 奥野 (廣島)	
4 前田 (〃)	

### 百米背泳

1 吉瀬 (關學)	1,17.8
2 上田 (京大)	
3 益田 (關學)	
4 土井 (〃)	

### 四百米自由型

1 松本 (關學)	5,26.4
2 安藤 (〃)	5,27.4
3 小杉 (同大)	5,27.6
4 奥野 (廣島)	

### 五十米自由型

1 横田 (關學)	28.4
2 吉瀬 (〃)	
3 野村 (關學)	
4 入谷 (同大)	

### 八百米リレー

1 關學 (松本、伊藤、野村、安藤)	10,6.6
2 同大	10,32
3 京大	
4 廣島	

### 各校總得點

1、關學 104點	2、同志社 74點	3、京大 33點
4、神戸商大 25點	5、廣島文理大 23點	

- 4 加 治 木 (福山中)
- 5 森 岡 (三次中)
- 6 柿 内 (高知商)

**二百米自由型豫選**

- A組 1 志 村 義 久 (小牧中) 2.31.0
- 2 遊 佐 正 憲 (多度津中) 2.33.2
- 3 北 川 正 水 (高知師) 2.37.4
- B組 1 小 野 深 (高知師) 2.28.0
- 2 田 畑 昇 (京三中) 2.34.0
- 3 澤 田 寅 太 郎 (米子中) 2.34.6
- C組 1 加 治 木 次 雄 (福山中) 2.33.0
- 2 森 岡 政 之 (三次中) 2.36.8
- 3 村 田 榮 之 助 (京三中) 2.38.0
- D組 1 横 山 隆 志 (高知商) 2.19.8
- 2 今 井 清 (山口師) 2.34.0
- 3 渡 瀬 豊 (岡山工) 2.34.6
- E組 1 田 中 光 雄 (栗田農) 2.33.4
- 2 竹 村 公 良 (京一中) 2.34.0
- 3 奥 西 眞 人 (神二中) 2.40.8
- F組 1 森 崎 勇 (城東商) 2.34.8
- 2 村 山 孝 雄 (高知師) 2.35.4
- 3 田 部 峯 義 (觀音商) 2.40.6
- G組 1 濱 口 澄 (城東商) 2.42.6
- 2 杉 本 敏 男 (松山中) 2.42.8
- 3 荒 川 眞 一 郎 (高知商) 2.53.4
- H組 1 大 横 田 勉 (修道中) 2.31.6
- 2 横 村 紀 久 夫 (臺北一中) 2.32.0
- 3 杉 山 堅 三 (岐阜商) 2.33.0

**二百米自由型決勝**

- 1 横 山 (高知商) 2.21.2
- 2 小 野 (高知師) 2.27.0
- 3 志 村 (小牧中) 2.27.8
- 4 加 治 木 (福山中) 2.30.0
- 5 横 林 (臺北一中)
- 6 杉 山 (岐阜商)

**四百米自由型豫選**

- A組 1 副 島 良 司 (佐賀中) 5.18.2
- 2 堀 尾 利 一 (栗田農) 5.56.4
- 3 春 木 正 二 郎 (城東商) 5.48.4
- B組 1 片 岡 寅 次 郎 (城東商) 5.18.3
- 2 今 井 清 (山口商) 5.33.0
- 3 平 賀 忠 雄 (廣一中) 5.35.0
- C組 1 饒 村 吉 久 (瀧川中) 5.23.6
- 2 三 上 博 (二次中) 5.33.6
- 3 長 尾 三 郎 (高知商) 5.52.4
- D組 1 村 田 榮 之 助 (京二中) 5.48.0

- 2 濱 田 幸 二 郎 (高知工) 5.50.2
- 3 田 部 峯 義 (觀音寺商) 5.52.0
- E組 1 横 山 隆 志 (高知商) 5.36.8
- 2 近 藤 新 (洲本中) 5.40.8
- 3 筒 井 五 郎 (栗田農) 5.42.6
- F組 1 杉 本 盛 (高知工) 5.25.2
- 2 横 林 紀 久 夫 (臺北一中) 5.28.4
- 3 田 中 光 雄 (栗田農) 5.28.6
- G組 1 石 原 田 愿 (福山中) 5.28.2
- 2 國 江 喜 芳 (岐阜商) 5.32.6
- 3 北 村 久 壽 雄 (高知商) 5.35.0

**四百米自由型決勝**

- 1 横 山 (高知商) 5.08.0
- 2 石 原 田 (福山中) 5.20.0
- 3 副 島 (佐賀中) 5.20.8
- 4 國 江 (岐阜商)
- 5 饒 村 (瀧川中)
- 6 北 村 (高知商)

**八百米自由型決勝**

- A組 1 杉 本 盛 (高知工) 11.23.2
- 2 石 原 田 愿 (福山中) 11.54.6
- 3 筒 井 五 郎 (栗田農) 12.05.0
- B組 1 堀 尾 利 一 (栗田農) 11.21.6
- 2 片 岡 寅 次 郎 (城東商)
- 3 川 上 博 (三次中) 11.52.4
- C組 1 副 島 良 司 (佐賀中) 11.13.4
- 2 篠 田 衛 (山口師) 11.38.6
- 3 平 賀 忠 雄 (廣一中) 11.38.6
- D組 1 國 江 喜 芳 (岐阜商) 11.43.4
- 2 杉 江 利 兵 衛 (栗 農) 11.45.2
- 3 春 木 正 二 郎 (城東商) 12.15.6
- E組 1 饒 村 吉 久 (瀧川中) 11.50.0
- 2 深 川 健 吉 (佐賀中) 12.23.6
- 3 久 原 光 輝 (京二中) 12.24.2
- F組 1 北 村 久 壽 雄 (高知商) 11.50.0
- 2 山 尾 大 吉 (桃山中) 11.50.0
- 3 伊 村 健 一 (和 商) 12.32.0

**八百米自由型準決勝**

- A組 1 副 島 (佐賀中) 11.10.2
- 2 國 枝 (岐阜商) 11.23.8
- 3 饒 村 (瀧川中) 11.32.0
- B組 1 石 原 田 (福山中) 11.02.2
- 2 片 岡 (城東商) 11.04.6
- 3 篠 田 (山口師) 11.40.6
- C組 1 北 村 (高知商) 11.17.6
- 2 杉 本 (高知工) 11.18.2

3	堀尾	(栗田農)	11.24.4
<b>八百米自由型決勝</b>			
1	石原田	(福山中)	10.56.8
2	副島	(佐賀中)	11.56.8
3	國江	(岐阜商)	11.10.4
4	北村	(高知商)	
5	杉本	(高知工)	
6	片岡	(城東商)	

**五十米背泳豫選**

A組	1	河津憲太郎	(修道中)	33.8
	2	廣瀬深	(臺北一中)	33.2
	3	吉川彦一	(岐阜商)	
B組	1	清政俊員	(三次中)	35.4
	2	柿内久壽馬	(高知商)	36.2
	3	岸本芳郎	(茨木中)	37.2
C組	1	土居正明	(修道中)	35.8
	2	安岡正博	(高知工)	36.2
	3	横口寅太郎	(高知商)	37.1
D組	1	小西小一	(天師)	35.2
	2	加藤久	(津中)	37.6
	3	川口健二	(松山中)	38.0
E組	1	若山龍美	(廣一中)	36.2
	2	早瀬彌太郎	(栗田農)	36.8
	3	上窪善一	(福山中)	36.8

**五十米背泳準決勝**

A組	1	土居	(修道中)	35.2
	2	小西	(天師)	
	3	若山	(廣一中)	
B組	1	河津	(修道中)	33.4
	2	清政	(三次中)	35.0
	3	柿内	(高知商)	36.0

**五十米背泳決勝**

1	河津	(修道中)	33.2
2	小西	(天師)	34.0
3	若山	(廣一中)	35.4
4	土居	(修道中)	
5	清政	(三次中)	
6	安岡	(高知工)	

**百米背泳豫選**

A組	1	清政俊員	(三次中)	1.20.2
	2	稻耕信男	(栗田農)	1.21.2
	3	若山龍美	(廣一中)	1.21.4
B組	1	眞鍋貢	(山口師)	1.21.0
	2	岸本芳郎	(茨木中)	1.22.8
	3	川口健二	(茨木中)	1.25.0
C組	1	柿内久壽馬	(高知商)	1.20.4

2	早瀬彌太郎	(栗田農)	1.21.4	
3	吉川彦一	(岐阜商)	1.22.0	
D組	1	横山寅太郎	(高知商)	1.22.6
	2	廣瀬清	(臺北一中)	1.23.6
	3	上窪善一	(福山中)	1.24.4
E組	1	河津憲太郎	(修道中)	1.15.6
	2	安岡正博	(高知工)	1.20.4
	3	合田賀八郎	(觀音寺商)	1.22.8

**百米背泳決勝**

1	河津	(修道中)	1.15.8
2	若山	(廣一中)	1.19.6
3	清政	(三次中)	1.19.6
4	眞鍋	(山口師)	1.20.6
5	安岡	(高知工)	
6	柿内	(高知商)	

**百米平泳豫選**

A組	1	有地安雄	(尾道商)	1.28.8
	2	團剛中	(廣二中)	1.30.2
	3	白谷保助	(松三二中)	1.31.4
B組	1	關禮次郎	(米子中)	1.22.6
	2	加藤清	(和中)	1.27.2
	3	山田弘	(廣一中)	1.27.2
C組	1	山崎勝美	(高知師)	1.23.8
	2	藤本頼廣	(臺南二中)	1.25.4
	3	中村重雄	(廣一中)	1.30.8
D組	1	藏尾敏	(山口師)	1.23.6
	2	岩倉利市	(和師)	1.26.2
	3	藤井正之	(廣一中)	1.27.2
E組	1	奥藤修	(明石中)	1.28.8
	2	西谷重憲	(茨木中)	1.32.4
	3	那須宗一	(尾道商)	

**百米平泳準決勝**

A組	1	關	(米子中)	1.24.0
	2	藤本	(臺南二中)	1.25.0
	3	藤井	(廣一中)	1.27.2
B組	1	倉尾	(山口師)	1.23.6
	2	山峰	(高知師)	1.23.6
	3	山田	(廣一中)	

**百米平泳決勝**

1	藤本	(臺南二中)	1.23.4
2	山崎	(高知師)	1.23.8
3	關	(米子中)	1.24.0
4	藏尾	(山口師)	1.24.2
5	藤井	(廣一中)	
6	岩倉	(和歌師)	

**二百米平泳豫選**

A組	1	關 禮 次 郎 (米子中)	3.04.0
	2	有 地 安 雄 (尾道中)	3.17.0
	3	眞 柄 健 生 (津 中)	3.18.4
B組	1	藤 本 廣 潤 (臺南二中)	3.07.8
	2	久 保 隆 久 (高知工)	3.17.0
	3	團 剛 中 (廣二中)	3.17.6
C組	1	山 崎 勝 美 高 (高知師)	3.10.0
	2	加 藤 清 (和 中)	3.12.0
	3	中 村 重 雄 (廣一中)	3.22.0
D組	1	藏 尾 敏 (山口師)	3.04.4
	2	藤 井 正 之 (山一中)	3.17.0
	3	河 合 啓 三 (岸 中)	3.19.0
E組	1	田 崎 彦 郎 (佐賀中)	3.14.0
	2	秋 村 豊 (山口師)	3.17.5
	3	山 田 弘 (廣一中)	3.17.8

**二百平泳決勝**

1	關	(米子中)	3.02.0
		(中等學校大會新記録)	
2	藏 尾	(山口師)	3.03.8
3	藤 本	(臺南二中)	3.06.4
4	山 崎	(高知師)	3.11.4
5	田 崎	(佐賀中)	
6	加 藤	(和 中)	

**二百米リレー準決勝**

A組	1	岐 阜 商(長村、國江、松井、杉山)	2.03.4
	2	茨 木 中(岸本、井上、地主、中村 入谷、山口)	2.03.6
	3	岡 一 中(松笠、小橋、延原、尾崎 水野)	2.04.8
B組	1	高 知 商(長尾、横山、下村、永山 荒川、横山)	1.58.2
	2	三 次 中(西田、地戸、森岡、三上 中野)	2.00.6
	3	山 口 師(井上、秋村、今井、西崎 篠田、眞鍋)	2.02.0
C組	1	修 道 中(大横田、平岡、新田、土 居、谷花、河野)	1.56.8
	2	高 知 師(小野、北川、山崎、村山 河野)	2.00.6
	3	福 山 中(木山、市來、石原田、加 治木、石原田)	2.00.6

**二百米リレー決勝**

1	修道中學(大横田、河野、平岡、土居)	1.56.6
2	高知商業 (大會新記録)	
3	三次中學	1.57.4
4	山口師範	1.59.8

- 5 福山中學
- 6 茨木中學

**八百米リレー準決勝**

A組	1	岐 阜 商(長村、松井、杉山、國江)	10.30.0
	2	福 山 中(石原田、市來、石原田 加治木、二宮)	10.32.4
	3	成 東 商(森崎、渡田、濱口、片岡 春木)	10.35.6
B組	1	高 知 商(吉田、久保、荒川、北村 長尾、横山)	10.21.8
	2	山 口 師(井上、今井、篠田、西崎 眞鍋、泉)	10.44.0
	3	廣 一 中(若山、小川、大内、坪井 平賀)	11.03.6
C組	1	粟 田 農(堀尾、筒井、杉江、田中)	10.30.6
	2	三 次 中(西田、中野、岡森、三上 春田)	10.39.6
	3	高 知 工(田所、濱田、有尾、杉本 平井、安岡)	10.49.6

**八百米リレー決勝**

1	高知商業(北村、長尾、荒川、横山)	10.14.0
2	福山中學	10.30.4
3	岐阜商業	10.30.6
4	粟田農學	
5	山口師範	
6	城東商業	

**第二回 全日本女子競技大會**

主催 日本女子水上競技聯盟

八月卅日卅一日

於豊島園プール(五十米)

**五十米自由型第一豫選**

A組	1	荒 田 雪 江 (京都二條)	38.0
	2	横 田 操 (京都同志社)	
	3	濱 田 安 代 (横須賀)	
	4	羽 村 京 子	
	5	川 田 泰 代 (東女俱)	
	6	松 島 情 子 (梶山第二)	
B組	1	川 崎 ヲ シ 子 (横 濱)	38.0
	2	森 田 幸 子 (京 武)	
	3	原 田 千 萬 子 (山口高女)	
	4	田 畑 花 子 (京都第二)	
C組	1	宮 城 清 子 (京第二)	35.8
	2	戸 張 ハ ッ (愛知淑徳)	

	3 乾 芳 子 (京二條)	
	4 丸橋美枝子 (京 武)	
	5 栗 村 徳 子 (東女俱)	
	6 伊 藤 銀 (梶山第二)	
D組	1 安 藤 操 (京 武)	38.8
	2 谷 口 鏡 子 (京同志)	
	3 大 木 恒 子 (山口高女)	
	4 加 藤 澄 子 (梶山第二)	
	5 安 場 美 代 子 (東女俱)	

## 五十米自由型第二豫選

A組	1 宮 城 清 子 (京第二)	36.6
	2 荒 田 雪 江 (京二條)	
	3 安 藤 操 (京 武)	
	4 横 田 操 (京同志)	
	5 濱 田 安 代 (横須賀)	
	6 大 木 恒 子 (山口高女)	
B組	1 乾 芳 子 (京二條)	37.8
	2 山 崎 ヨ シ 子 (横 濱)	
	3 戸 張 ハ ッ 子 (愛 知)	
	4 谷 口 銛 子 (京同志)	
	5 森 田 幸 子 (京 武)	
	6 原 田 千 萬 子 (京 口)	

## 五十米自由型決勝

	1 宮 城 清 子 (京第二)	36.0
	2 乾 芳 子 (京二條)	(大會新記録)
	3 安 藤 操 (京 武)	
	4 戸 張 は つ 子 (愛 淑)	
	5 山 崎 よ し 子 (横 濱)	
A組	1 宮 城 清 子 (京第二)	1.27.4
	2 山 崎 ヨ シ 子 (横 濱)	
	3 山 岡 好 江 (長 崎)	
	4 丸 橋 美 枝 子 (京 武)	
	5 助 川 敏 子 (八王子)	
	6 藤 倉 萬 里 子 (東女俱)	
B組	1 社 本 田 歌 子 (梶山第二)	1.24.4
	2 荒 田 雪 江 (京二條)	
	3 栗 本 好 子 (京第二)	
	4 川 田 泰 代 (東女俱)	
	5 清 水 コ ト 子 (山口高女)	
G組	1 横 井 き め 子 (京二條)	1.29.4
	2 安 藤 操 (京 武)	
	3 田 畑 花 子 (京第二)	
	4 松 島 信 子 (梶山第二)	
	5 矢 崎 節 子 (八王子)	
	6 石 川 國 子 (山口高女)	
D組	1 戸 張 ハ ッ 子 (愛 淑)	1.30.0

	2 金 子 末 (京第二)	
	3 谷 口 鏡 子 (京同志)	
	4 原 田 千 萬 子 (山口高女)	
	5 水 野 スズ 子 (梶山第二)	

## 百米自由型第二豫選

A組	1 社 本 田 歌 子 (梶山第二)	1.24.6
	2 横 井 き め 子 (京二條)	(大會新記録)
	3 戸 張 ハ ッ 子 (愛淑徳)	
	4 栗 村 好 子 (京第二)	
	5 松 岡 好 江 (長 崎)	
	6 金 子 末 (京第二)	
B組	1 宮 城 清 子 (京第二)	1.27.8
	2 荒 田 雪 江 (京二條)	
	3 山 崎 ヨ シ 子 (横 濱)	

## 百米自由型決勝

	1 社 本 田 歌 子 (梶山第二)	1.24.4
	2 横 井 き め 子 (京二條)	(大會新記録)
	3 戸 張 ハ ッ 子 (愛淑徳)	
	4 宮 城 清 子 (京第二)	
	5 荒 田 雪 江 (京二條)	

## 二百米自由型第一豫選

A組	1 市 口 房 子 (女子高商)	3.07.8
	2 栗 本 好 子 (京第二)	(大會新記録)
	3 水 野 スズ 子 (梶山第二)	
	4 濱 田 安 代 (横須賀)	
	5 武 田 菊 子 (東女俱)	
B組	1 横 江 照 子 (愛淑徳)	3.15.6
	2 水 谷 起 美 子 (京 武)	(日本新記録)
	3 宇 佐 美 範 子 (梶山第二)	
	4 金 子 末 (京第二)	
	5 清 水 コ ト 子 (山口高女)	
G組	1 永 井 峰 子 (豊島クラブ)	3.00.2
	2 鈴 木 里 子 (京第二)	(日本新記録)
	3 隠 岐 美 根 子 (京二條)	
	4 森 田 幸 子 (京 武)	
	5 藤 倉 萬 里 子 (東女俱)	
	6 今 川 貞 子 (梶山第二)	

## 二百米自由型第二豫選

A組	1 永 井 峰 子 (豊島クラブ)	3.02.2
	2 市 口 房 子 (女子高商)	(日本新記録)
	3 隠 岐 美 根 子 (京二條)	
	4 水 野 スズ エ (梶山第二)	
	5 栗 本 幸 子 (京第二)	
B組	1 鈴 木 里 子 (京第二)	3.03.4
	2 横 江 照 子 (愛淑徳)	(日本新記録)
	3 水 谷 起 美 子 (京 武)	

4 宇佐美 範子 (椛山第二)

**二百米自由型決勝**

- 1 永井 峰子 (豊島クラブ) 2.56.2  
 2 鈴木 里子 (京第二) (日本新記録)  
 3 市口 房子 (女子高商)  
 4 隠岐 美根子 (京二條)  
 5 横江 照子 (愛淑徳)  
 6 水谷 起美子 (京武)

**四百米自由型豫選**

A組 1 市口 房子 (女子高商) 6.30.4

2 鈴木 里子 (京第二)  
 3 宇佐美 範子 (椛山第二)

B組 1 永井 峰子 (豊島クラブ) 6.25.8

- 2 横江 照子 (愛淑徳) (日本新記録)  
 3 隠岐 美根子 (京二條)  
 4 水谷 起美子 (京武徳)  
 5 今川 貞子 (椛山第二)

**四百米自由型決勝**

- 1 永井 峰子 (豊島クラブ) 6.20.8  
 2 市口 房子 (女子高商) (日本新記録)  
 3 鈴木 里子 (京第二)  
 4 横江 照子 (愛淑徳)

**百米平泳豫選**

A組 1 久原 菊子 (京同志) 1.44.2

2 田畑 百子 (京武)  
 3 吉富 エイ子 (山口高女)  
 4 戸澤 郁子 (椛山第二)  
 5 寺田 勝子 (京都第二)  
 6 高木 多美子 (京第二條)  
 7 渡邊 常子 (横須賀)

B組 1 前畑 秀子 (椛山第二) 1.29.0

- 2 池田 龜代 (京同志) (日本新記録)  
 3 森 千枝子 (京第二)  
 4 瀬川 八重子 (東女俱)  
 5 渡邊 やす子 (伊東水俱)

**百米平泳決勝**

- 1 前畑 秀子 (椛山第二) 1.29.8  
 2 池田 龜代 (京同志) (日本新記録)  
 3 久原 菊子 (京同志)  
 4 田畑 百子 (京武)

**二百米平泳豫選**

A組 1 前畑 秀子 (椛山第二) 3.20.2

- 2 久原 菊子 (京志) (大會新記録)  
 3 吉富 エイ子 (山口高女)  
 4 高木 多美子 (京都二條)  
 5 渡邊 常子 (横須賀)

6 寺田 動子 (京都第二)

B組 1 池田 龜代 (京同志) 3.39.0

- 2 田畑 百子 (京武) (大會新記録)  
 3 森 千枝子 (京第二)  
 4 瀬川 八重子 (東女俱)  
 5 渡邊 やす子 (伊東水俱)  
 6 戸澤 郁子 (名古屋椛山第二)

**二百米平泳決勝**

1 前畑 秀子 (椛山第二) 3.17.2

- 2 久原 菊子 (京同志) (日本新記録)  
 3 池田 龜代 (京同志)  
 4 田畑 百子 (京武徳)  
 5 吉富 エイ子 (山口高女)  
 6 森 千枝子 (京第二)

**百米背泳豫選**

A組 1 高野 菊枝 (愛淑徳) 1.38.2

2 永井 チェ子 (豊島クラブ)  
 3 安場 時子 (東女)  
 4 古川 國子 (山口高女)  
 5 林 三稔子 (横須賀)  
 6 川田 和枝 (東女俱)  
 7 田畑 美澄 (京都第二)

B組 1 加藤 好子 (愛淑徳) 1.34.2

- 2 中川 チェ子 (東女俱) (日本新記録)  
 3 伊藤 秀子 (山口高女)  
 4 門脇 マサ (京第二)

C組 1 久原 寛子 (京武) 1.39.8

2 松井 菊子 (京第二)  
 3 社本田 歌子 (椛山第二)  
 4 久保村 美恵子 (山口高女)  
 5 上野 百合子 (關東)

**百米背泳準決勝**

A組 1 加藤 好子 (愛淑徳) 1.33.0

- 2 久原 寛子 (京武) (日本新記録)  
 3 社本田 歌子 (椛山第二)  
 4 中川 チェ子 (東女俱)  
 5 安場 時子 (東女俱)

B組 1 高野 菊江 (愛淑徳) 1.39.4

2 松井 菊子 (京第二)  
 3 永井 チェ子 (豊島クラブ)  
 4 伊藤 秀子 (山口高女)  
 5 古川 國子 (山口高女)  
 6 久保村 美恵子 (山口高女)

**百米背泳決勝**

1 加藤 好子 (愛淑徳) 1.33.2

2 高野 菊枝 (愛淑徳) (日本新記録)

- 3 松井菊子 (京第二)
- 4 久原寛子 (京武徳)
- 5 社本田歌子 (梶山第二)
- 6 永井チヅ子 (豊島クラブ)

**二百米背泳豫選**

- A組**
- 1 久原寛子 (京武) 3.32.2
  - 2 高野菊枝 (愛淑徳)
  - 3 永井チヅ子 (豊島クラブ)
  - 4 伊藤秀子 (山口高女)

- B組**
- 1 加藤好子 (愛淑徳) 3.20.6 (日本新記録)
  - 2 松井菊子 (京第二)
  - 3 中川チエ子 (東女俱)
  - 4 宇和野宗子 (京志)

**二百米背泳決勝**

- 1 加藤好子 (愛淑徳) 3.22.2 (日本新記録)
- 2 高野菊江 (愛淑徳)
- 3 久原寛子 (京武)
- 4 松井菊子 (京第二)
- 5 中川千枝子 (東女俱)
- 6 永井チヅ子 (豊島俱)

**二百米リレー豫選**

- A組**
- 1 京二條(隠岐、乾、横井、荒田) 2.34.2
  - 2 愛淑徳(横江、高野、加藤、戸張)
  - 3 山口高女(原田、吉富、大木、古川)
  - 4 武徳會(森田、丸橋、水谷、安藤)
  - 5 東女俱(栗村、中川、藤倉、川田)

- B組**
- 1 京第二(田畑、栗本、宮城、鈴木) 2.32.0
  - 2 京同志(横田、伊達、池田、谷口)
  - 3 梶山第二(水野、加藤、伊藤、社本)

**二百米リレー決勝**

- 1 京第二(田畑、栗本、鈴木、宮城) 2.31.8
- 2 京二條(乾、荒田、横田、隠岐)
- 3 梶山第二(社本、加藤、伊藤、前畑)
- 4 山口高女(大木、吉富、古川、原田)
- 5 愛淑徳(横江、高野、加藤、戸張)
- 6 京同志(横田、伊達、池田、谷口)

**三百米メドレー豫選**

- A組**
- 1 愛淑徳(加藤、戸張、高野) 4.53.4 (大會新記録)
  - 2 京第二(松井、森、鈴木)
  - 3 京武(久原、田畑、安藤)
  - 4 豊島(永井、柳澤、永井峰)
  - 5 東女俱(中川、瀬川、栗村)

- B組**
- 1 山口高女(伊藤、吉富、原田)
  - 2 京同志(宇和野、久原、横田)横須賀、福島失格

**三百米メドレー決勝**

- 1 愛淑徳(加藤、高野、戸張) 4.50.0

- 2 京武(久原、田畑、安藤) (日本新記録)
- 3 京第二(松井、宮城、森)
- 4 京同志(宇和野、横田、久原)
- 5 山口高女(伊藤、吉富、原田)

**全日本女子東西對抗競技**

九月一日午後一時、於名古屋市外清洲プール(五十米)水温二十三度 気温三十度

**五十米自由型**

- 1 宮城清子 (關西) 35.8
- 2 荒田雪江 ( ) (女子聯盟タイ)
- 3 戸張ハツ (關西)
- 4 乾芳子 (關西)
- 5 伊藤ギン (關西)
- 6 加藤澄子 ( )

**百米背泳**

- 1 加藤好子 (關西) 1.32.6
- 2 高野菊枝 ( ) (日本新記録)
- 3 久原寛子 (關西)
- 4 松井菊子 ( )
- 5 鈴木里子 (關西)
- 6 中川チエ子 (關西)

**二百米自由型**

- 1 永井峯子 (關西) 2.59.0 (日本新記録)
- 2 鈴木里子 (關西)
- 3 市口房子 (關西)
- 4 横江照子 ( )
- 5 隠岐美根子 (關西)
- 6 水谷起美子 ( )

**百米平泳**

- 1 前畑秀子 (關西) 1.30.0
- 2 久原菊子 (關西)
- 3 池田龜代 ( ) (日本新記録)
- 4 戸澤郁子 (關東)
- 5 宮城清子 (關西)
- 6 高野菊枝 (關西)

**高飛込** 石渡桂子 各型試技

**二百米リレー**

- 1 關西(本田、戸張、市口、永井) 2.29.0
- 2 關西(宮城、乾、荒田、鈴木) (日本新記録)

**五十米背泳**

- 1 加藤好子 (關西) 4. (日本新記録)



- 2 松井 菊子 (關西)
- 3 高野 菊枝 (關東)
- 4 久原 寛子 (關西)
- 5 中川 チエ子 (關東)
- 6 池田 龜代 (關西)

**百米自由型**

- 1 永井 峯子 (關東) 1.22.4
- 2 社本田 歌子 (關東)(女子聯盟新記録)
- 3 鈴木 里子 (關西)
- 4 市口 房子 (關東)
- 5 横井 キヌ子 (關西)
- 6 宮城 清子 (ノ)

**二百米平泳**

- 1 前畑 秀子 (關東) 3.21.0
- 2 久原 菊子 (關西)
- 3 池田 龜代 (ノ)
- 4 戸澤 郁子 (關東)
- 5 横江 照子 (ノ)
- 6 宮城 清子 (關西) 棄權

**三百米メドレー**

- 1 關東(加藤、前畑、永井) 4.27.6
- 2 關西(久原、久原菊、鈴木) (日本新記録)

—— 得 點 表 ——

種 目	關 東	關 西
五十米	7	14
百米背	12	9
二百米	13	8
百米平	10	11
二百リレー	10	5
五十米背	12	9
百 米	14	7
二百米平	11	9
三百リレー	10	5
合 計	99	77

(備考 得點は一着以上六點、五點、四點、三點、二リレー一着十點、二着五點とす)

**第五回全國飛込競技大會**

主催 F、D、C、國民新聞社、七月廿七日午前  
十時より玉川プールに於て舉行

**男子A組スプリングボード飛込**

(規定飛四種、選擇飛四種、出場者十三名)

順位	氏 名	所 屬	順位點	總得點
1	原 秀夫	慶 大	7	92.80

- 2 生江哲太郎 明 大 8 90.60
- 3 中島 研造 日 大 16 68.34
- 4 牧野 康成 無 23 1/2 62.48
- 5 門倉 孝司 慶 大 26 61.60
- 6 柴田 隆司 遠州學友 27 60.22

**女子スプリングボード飛込**

(規定飛三種、選擇飛二種、出場者二名)

- 1 小塚 栽子 無 5 52.44
- 2 黒田不二子 無 10 40.80

**男子高逆飛込(出場者二十名)**

- 1 内山 次郎 柏崎水協 6 1/2 29.4
- 2 栗野 喜一 無 11 1/2 27.8
- 3 杉原 雪夫 慶 普 17 5/6 26.8
- 4 齊田 季夫 T、D、C 20 1/2 26.2
- 5 大橋 俊朗 明 大 21 1/3 26.2
- 6 高橋 清 小松川 32 1/2 24.8

**男子B組スプリングボード飛込**

(規定飛五種、選擇飛六種、出場者八名)

- 1 佐藤 初男 T、D、C 5 119.62
- 2 黒澤利太郎 日 大 10 110.00
- 3 井上 一郎 日 大 18 101.88
- 4 石川 猛雄 Y、S、C 21 96.10
- 5 前島 綾夫 井之頭 22 96.98
- 6 杉原 雪子 慶 普 33 88.48

**高飛込混合競技**

(規定飛四種、選擇飛三種、出場者九名)

- 1 井上 一郎 日 大 7 60.74
- 2 末次 保 無 10 59.30
- 3 齊田 季夫 T、D、C 13 1/2 57.92
- 4 原 秀夫 慶 大 20 1/2 55.68
- 5 高橋 清 小松川 26 51.64
- 6 内山 次郎 柏崎水協 28 52.28

**全日本飛込關東豫選**

男子スプリング、ボード飛込

順位	氏 名	所 屬	審判員 順位點	計 總得點
			島崎飯田石本松尾新美	
1	原 西三	慶 大	2 1 1 2 1	7 117.90
2	水谷 泰夫	F、D、C	1 2 2 1 2	8 116.06
3	鈴木 康友	F、D、C	3 3 5 4 3	18 105.40
4	山内 辰雄	F、D、C	4 4 3 5 6	22 102.54
5	永松 武	F、D、C	7 6 6 3 5	27 98.88
6	岩切 盛行	明 大	5 5 4 7 7	28 98.60
7	佐藤 初男	F、D、C	6 7 7 6 4	30 96.42

8	杉原 雪夫	慶 普	9 8 9 8 8	42	87.60
9	井上 一郎	日 大	8 10 8 10 10	46	84.92
10	黒澤利太郎	日 大	10 9 10 9 9	47	84.46
11	大橋 俊朗	明 大	11 11 11 11 11	55	66.36

女子スプリングボード飛込

1	小塚 栽子	( )	1 1 1 1 1	5	40.34
2	黒田不二子	( )	2 2 2 2 2	10	34.40

混合高飛込

順位	氏名	所 属	審判員 順位点	計	總得点
伊澤飯田石本松尾新美					
1	奥平 俊二	慶 大	2 2 1 1 1	7	62.84
2	永松 武	F、D、C	4 1 5 2 2	14	58.22
3	石田 英勝	日本飛行	1 3 4 5 3	16	55.80
4	井上 一郎	日 大	3 4 2 3 6	18	54.68
5	原 秀夫	慶 大	5 5 6 7 4	27	51.82
6	岩切 盛行	明 大	6 6 3 6 7	28	50.54
7	柴田 隆司	早 大	7 7 7 4 5	30	50.60

女子高逆飛

1	石渡 桂子	T、D、C	1 1 1 1 1	5	24.0
---	-------	-------	-----------	---	------

全日本選手権飛込競技大會

女子スプリングボード飛込

順位	氏名	所 属	審判員 順位点	計	總得点
島崎新美松崎松尾伊澤					
1	小塚 栽子	( )	1 1 1 1 1 1	5	45.94
2	黒田不二子	( )	2 2 2 2 2 2	10	39.72

男子スプリングボード飛込

順位	氏名	所 属	審判員 順位点	計	總得点
島崎新美松崎山内伊澤					
1	ライレー	米 國	1 1 1 1 1	5	168.68
2	水谷 泰夫	F、D、C	2 2 2 3 2	11	120.72
3	原 西三	慶 大	3 3 3 2 3	14	114.70
4	鈴木 康友	F、D、C	4 4 4 4 5	21	102.72
5	西尾 太一	茨 木 中	5 5 5 6 4	25	95.32
6	野田 卓夫	茨 木 中	6 6 6 5 6	29	89.42

混合高飛込

順位	氏名	所 属	審判員 順位点	計	總得点
松尾松崎山内伊澤新美					
1	ライレー	米 國	1 1 1 1 1	5	88.88
2	永松 武	F、D、C	2 2 2 4 2	12	64.86
3	石田 英勝	日本飛行	4 3 4 2 3	16	62.68
4	末次 保	福 岡	3 4 5 3 5	20	61.90
5	奥平 俊二	慶 大	5 6 3 5 4	23	61.14
6	水谷 泰夫	F、D、C	7 5 8 7 6	33	54.74

7	齊田 季夫	北 陸	6 7 7 6 7 1/2	33 1/2	54.12
8	内山 次郎	北 陸	8 8 6 8 7 1/2	37 1/2	52.30

女子高飛込

1	石渡 桂子	T、D、C	1 1 1 1 1	5	24.00
---	-------	-------	-----------	---	-------

全國學生飛込競技大會

九月二十八日、無風快晴 於神宮プール

高 逆 飛

順位	氏名	所 属	審判員 順位点	計	總得点
水谷内山松崎横堀伊澤					
1	原 西三	慶應	1 1 1/2 1 1 1	5 1/2	27.6
2	奥平 俊二	慶應	3 1 1/2 4 2 1/2 3	14	23.0
3	黒澤利太郎	日大	3 4 3 6 5	21	22.0
4	柴田 隆司	早大	3 8 2 2 1/2 7 1/2	23	22.0
5	中島 研造	日大	11 1/2 5 1/2 5 1/2 4 2	28 1/2	21.0
6	石川 金繼	明大	6 1/2 3 8 6 7 1/2	31	20.0

得点 慶應10点 日大6点 早大3点 明大1点

スプリングボード飛込

順位	氏名	所 属	審判員 順位点	計	總得点
水谷内山松崎安東伊澤					
1	原 西三	慶 應	2 1 1 1 1	6	115.08
2	岩切 盛行	明 大	1 2 2 2 2	9	105.96
3	黒澤利太郎	日 大	3 4 4 3 3	17	84.02
4	原 秀夫	慶 應	4 3 6 5 4	22	87.72
5	井上 一郎	日 大	5 6 3 4 5	23	86.44
6	中島 研造	日 大	6 5 5 6 7	29	81.48

得点 慶應10点 日大6点 明大3点 明大1点

混合高飛込

順位	氏名	所 属	審判員 順位点	計	總得点
水谷内山松崎島崎伊澤					
1	奥平 俊二	慶 應	1 1 2 3 1	8	64.58
2	岩切 盛行	明 大	2 2 3 1 2	10	62.38
3	井上 一郎	日 大	3 3 1 2 3	12	64.52
4	原 秀夫	慶 應	4 4 6 4 4	22	56.46
5	柴田 隆司	早 大	5 5 5 5 5	25	54.92
6	根本喜三郎	日 大	6 6 4 6 6	28	51.48

得点 慶應10点 明大5点 日大5点 早大2点

各學總得点 1慶應32点 2日大18点 3明大17点

4早大5点

# 東部中等學校競技大會

主催、日本水上競技聯盟

於明治神宮水泳場

## 百米自由型

### 豫選 A組

- |   |       |       |        |
|---|-------|-------|--------|
| 1 | 水野秀藏  | (中泉農) | 1.07.8 |
| 2 | 關根愛次郎 | (東商)  | 1.08.0 |
| 3 | 伊藤廣吉  | (銚子商) | 1.08.8 |
|   | 泉秀雄   |       |        |
|   | 笹川秀三郎 |       |        |
|   | 小林五十雄 |       |        |
|   | 福田惠治  |       |        |

### B組

- |   |      |       |        |
|---|------|-------|--------|
| 1 | 宮崎康二 | (濱中)  | 1.03.0 |
| 2 | 丸山一  | (新潟商) | 1.03.0 |
| 3 | 松村四郎 | (見付中) | 1.09.0 |
|   | 内野忠三 |       |        |
|   | 岡村良作 |       |        |
|   | 藤島文司 |       |        |
|   | 若林正雄 |       |        |
|   | 吉岡正  |       |        |

### C組

- |   |       |       |        |
|---|-------|-------|--------|
| 1 | 高木茂雄  | (靜中)  | 1.06.2 |
| 2 | 鬼俊夫   | (湘南中) | 1.06.6 |
| 3 | 加瀬武   | (銚子商) | 1.08.6 |
|   | 山口一雄  |       |        |
|   | 細井信一  |       |        |
|   | 松本千代三 |       |        |
|   | 中村時太郎 |       |        |

### D組

- |   |      |       |        |
|---|------|-------|--------|
| 1 | 小森正巳 | (函中)  | 1.05.8 |
| 2 | 飯村正彦 | (東北學) | 1.08.0 |
| 3 | 鈴木副司 | (見付中) | 1.09.6 |
|   | 今敷初男 |       |        |
|   | 中山泰輔 |       |        |
|   | 布施十二 |       |        |
|   | 推原   |       |        |
|   | 宮本秀夫 |       |        |

### 準決勝 A組

- |   |       |       |        |
|---|-------|-------|--------|
| 1 | 高木茂雄  | (靜岡中) | 1.06.4 |
| 2 | 小森正巳  | (函中)  | 1.06.6 |
| 3 | 丸山一   | (新中)  | 1.08.2 |
|   | 關根愛次郎 |       |        |
|   | 村松四郎  |       |        |
|   | 加瀬武   |       |        |

### B組

- |   |      |       |        |
|---|------|-------|--------|
| 1 | 宮崎康二 | (濱中)  | 1.04.0 |
| 2 | 飯村正彦 | (東北學) | 1.06.2 |
| 3 | 水野秀藏 | (中泉農) | 1.07.2 |
|   | 鈴木副司 |       |        |
|   | 鬼俊夫  |       |        |
|   | 伊藤廣吉 |       |        |

### 決勝

- |   |      |       |        |
|---|------|-------|--------|
| 1 | 宮崎康二 | (濱中)  | 1.04.6 |
| 2 | 飯村正彦 | (東北學) | 1.06.4 |
| 3 | 水野秀藏 | (中泉農) | 1.06.6 |
|   | 高木茂雄 | (靜中)  |        |
|   | 小森正巳 | (函中)  |        |
|   | 丸山一  | (新商)  |        |

## 二百米自由型

### 第一豫選 A組

- |   |       |       |        |
|---|-------|-------|--------|
| 1 | 寺田享太郎 | (函中)  | 2.26.6 |
| 2 | 伊藤廣吉  | (銚子商) | 2.42.8 |
| 3 | 川島達男  | (沼津商) | 2.46.8 |
|   | 中元竹雄  |       |        |
|   | 根岸與五吉 |       |        |

### B組

- |   |       |       |        |
|---|-------|-------|--------|
| 1 | 太田武雄  | (濱中)  | 2.31.6 |
| 2 | 水野秀藏  | (中泉農) | 2.32.6 |
| 3 | 小林五十男 | (函中)  | 2.38.8 |
|   | 笹川岩三郎 |       |        |
|   | 細井信一  |       |        |
|   | 加瀬武   |       |        |
|   | 堀江照二郎 |       |        |
|   | 堀井鏡平  |       |        |

### C組

- |   |      |       |        |
|---|------|-------|--------|
| 1 | 小森正巳 | (函中)  | 2.32.6 |
| 2 | 村松四郎 | (見付中) | 2.33.8 |
| 3 | 加瀬秀治 | (銚子商) | 2.37.6 |
|   | 淺岡英一 |       |        |
|   | 根岸弘  |       |        |
|   | 藤島文司 |       |        |

### D組

- |   |      |       |        |
|---|------|-------|--------|
| 1 | 宮崎康二 | (濱中)  | 2.26.4 |
| 2 | 須崎秀夫 | (湘南中) | 2.35.0 |
| 3 | 兼子敏雄 | (中泉農) | 2.36.8 |
|   | 川森   |       |        |
|   | 若林正雄 |       |        |
|   | 赤嶺泰士 |       |        |
|   | 川名武  |       |        |
|   | 竹下清一 |       |        |

第二豫選 A 組

- 1 宮崎康二 (濱中) 2.23.0
- 2 小森正巳 (函中) 2.30.4
- 3 水野秀藏 (中泉農) 2.32.8
- 須崎秀夫
- 加瀬秀治
- 小林五十男

B 組

- 1 寺田享太郎 (函中) 2.26.4
- 2 太田武雄 (濱中) 2.33.0
- 3 村松四郎 (見付中) 2.35.0
- 兼子敏雄
- 伊藤廣吉
- 川島達男

決勝

- 1 宮崎康二 (濱中) 2.24.6
- 2 寺田享太郎 (函中) 2.27.4
- 3 小林正巳 (函中) 2.23.6
- 水野秀藏
- 太田武雄
- 村松四郎

四百米自由型

第一豫選 A 組

- 1 鳥居一夫 (中泉) 5.16.6
- 2 寺田享太郎 (函中) 5.20.6
- 3 久保田庄平 (濱商) 5.48.6
- 淺岡榮一
- 橋本賢二
- 松原
- 根岸子之吉

B 組

- 1 永見達明 (早實) 5.24.8
- 2 刑部弘 (中泉) 5.34.0
- 3 加藤秀治 (銚子商) 5.39.0
- 甘粕芳一
- 赤嶺泰士
- 岩科茂男

C 組

- 1 牧野正藏 (見付中) 5.04.6
- 2 田中滋二 (銚商) 5.41.8
- 3 須崎秀夫 (湘南中) 5.44.2
- 根岸弘
- 井上贊次郎
- 中島晃
- 長倉吾郎

D 組

- 1 武村寅雄 (東市二中) 5.12.4
- 2 中島重助 (見付中) 5.12.4
- 3 鈴木亮造 (商工實) 6.16.4
- 勝田正之
- 井上喜十
- 上野勘吉

第二豫選 A 組

- 1 武村寅雄 (市二中) 5.29.2
- 2 永見達明 (早實) 5.30.2
- 3 田中滋二 (銚商) 5.35.8
- 中島重助
- 刑部弘
- 須崎秀夫

B 組

- 1 牧野正藏 (見付中) 5.18.4
- 2 鳥居一夫 (中泉) 5.20.6
- 3 寺田こ太郎 (函中) 5.27.8
- 鈴木亮造
- 加瀬秀治
- 久保田庄平

決勝

- 1 牧野正藏 (見付中) 5.03.8
- 2 武村寅雄 (市二中) 5.11.4
- 3 鳥井一夫 (中泉) 5.18.6
- 永見達明
- 寺田享太郎
- 田中滋二

八百米自由型

豫選 A 組

- 1 田中一夫 (銚商) 11.03.6
- 2 永見達明 (早實) 11.15.2
- 3 鳥居一夫 (中泉) 11.20.8
- 大場浦次
- 鹿江忠
- 勝田正之
- 上野甚吉
- 川島達男

B 組

- 1 武村寅雄 (市二中) 11.16.6
- 2 刑部弘 (中泉) 11.56.0
- 3 石井光次郎 (濱中) 12.42.4
- 長倉吾郎
- 鈴木二郎

B 組

- 1 牧野正藏 (見付) 10.50.8
- 2 太田武雄 (濱中) 11.20.4

- 3 新間 六 炳 (靜 中) 11.22.8
- 田 中 滋 二
- 新 谷 孝 雄
- 久 保 田 庄 平
- 岩 科 茂 男

決 勝

- 1 牧 野 庄 藏 (見 付) 10.32.6
- 2 武 村 寅 雄 (市二中) 10.37.8
- 3 田 中 一 夫 (銚 商) 10.56.8
- 永 見 達 明
- 鳥 井 一 夫
- 新 間 六 炳
- 太 田 武 雄

五 十 米 背 泳

第一豫選 A 組

- 1 田 中 一 夫 (銚 商) 35.6
- 2 松 下 信 一 (中 泉) 37.2
- 3 菅 沼 加 雄 (濱 中) 37.8
- 渡 邊 直 吾
- 吉 田 重 雄
- 小 牧 茶 市 郎
- 泰 常 造

B 組

- 1 片 山 兼 吉 (濱 中) 33.2
- 2 田 野 耕 清 (市二中) 39.0
- 3 坪 信 承 (商工實) 39.6
- 杉 本 彌 之 助
- 寺 田 嘉 郎

C 組

- 1 鈴 木 政 雄 (中 泉) 34.8
- 2 佐 野 古 一 郎 (安房中) 37.8
- 3 關 根 愛 次 郎 (東 商) 3.88
- 林 新 太 郎
- 萩 山 榮 一

D 組

- 1 齋 藤 武 雄 (濱 商) 36.6
- 2 齋 藤 純 良 (靜 中) 37.8
- 3 五 味 俊 雄 (商工實)

準決勝 A 組

- 1 鈴 木 正 雄 (中 泉) 33.6
- 2 田 中 一 夫 (銚 商) 35.2
- 3 菅 沼 加 雄 (濱 中) 37.2
- 五 味 俊 雄
- 齋 藤 純 良
- 田 野 耕 清

B 組

- 1 片 山 兼 吉 (濱 中) 33.6
- 2 齋 藤 武 雄 (濱 商) 36.8
- 3 松 下 信 一 (中 泉) 38.0
- 關 根 愛 次 郎
- 坪 信 承
- 佐 野 五 一 郎

決 勝

- 1 片 山 兼 吉 (濱 中) 32.6
- 2 鈴 木 正 雄 (中 泉) 33.4
- 3 田 中 一 夫 (銚 商) 35.2
- 齋 藤 武 雄
- 松 下 信 一
- 菅 沼 加 雄

百 米 背 泳

第一豫選 A 組

- 1 片 山 兼 吉 (濱 中) 1.15.6
- 2 齋 藤 純 良 (靜 中) 1.25.8
- 3 佐 野 古 一 郎 (安房中) 1.26.6
- 松 本 彌 之 助
- 田 野 耕 清

B 組

- 1 鈴 木 正 雄 (中 泉) 1.18.0
- 2 中 島 (沼 中) 1.28.2
- 3 小 松 卓 (安房中) 1.29.2
- 安 藤 瑞 次
- 甘 粕 芳 一
- 泰 常 造

C 組

- 1 松 下 信 一 (中 泉) 1.24.4
- 2 寺 田 嘉 郎 (見 付) 1.26.8
- 3 鬼 俊 郎 (湘南中) 1.27.0
- 萩 山 榮 一
- 堀 輝 次 郎

D 組

- 1 飯 村 正 彦 (東北學) 1.22.8
- 2 齋 藤 武 雄 (濱 商) 1.24.8
- 3 菅 沼 加 雄 (濱 中) 1.27.0
- 坪 信 承
- 渡 邊 眞 吾

第二豫選 A 組

- 1 片 山 兼 吉 (濱 中) 1.18.6
- 2 齋 藤 武 雄 (濱 商) 1.22.6
- 3 松 下 信 一 (中 泉) 1.22.8
- 佐 野 右 一 郎
- 中 島
- 鬼 俊 郎

B 組

- 1 鈴木正雄 (中泉) 1.22.0
- 2 飯村正彦 (東北學) 1.32.4
- 3 齋藤純良 (靜中) 1.24.0
- 菅沼加雄
- 寺田喜郎
- 小松卓

決勝

- 1 片山兼吉 (濱中) 1.14.6
- 2 鈴木正雄 (中泉) 1.10.2
- 3 松下信一 (中泉) 1.22.4
- 齋藤武雄
- 齋藤純良

百米平泳

豫選 A 組

- 1 小池禮三 (沼商) 1.24.6
- 2 金子 (沼中) 1.25.4
- 3 安藤眉男 (市二中) 1.29.4

星川孝太郎  
齋藤明  
木村定雄  
中村仙喜知  
梶浦一出  
神代承郎

B 組

- 1 倉田庄一 (中泉) 1.27.2
- 2 式守正 (濱中) 1.29.4
- 3 大山正一 (湘中) 1.36.2

高橋三郎  
本間正喜  
山口三郎  
中川信成  
石田正一  
林新太郎

C 組

- 1 筒井五郎 (函中) 1.27.2
- 2 横山 (沼中) 1.30.4
- 3 田邊茂 (商工實) 1.32.8

長谷川銛次  
山崎勇  
須田重信  
根本進

D 組

- 1 刑部安四郎 (濱商) 1.28.2
- 2 山下正果 (濱中) 1.26.0
- 3 稻垣武一 (中泉) 1.26.2

田原裕

大石松夫  
長井素一  
青木末雄  
糸居二郎

準決勝 A 組

- 1 小池禮三 (沼商) 1.25.6
- 2 倉田庄一 (中泉) 1.25.6
- 3 山下正果 (濱中) 1.30.0

大山正一  
横山  
安藤眉男

B 組

- 1 金子 (沼中) 1.27.4
- 2 筒井五郎 (函中) 1.27.8
- 3 稻垣武一 (中泉) 1.28.0

刑部安四郎  
式守正

決勝

- 1 小池禮三 (沼商) 1.24.4
- 2 筒井五郎 (函中) 1.35.6
- 3 金子 (沼中) 1.26.2

倉田正一  
山下正果  
稻垣武一

二百米平泳

豫選 A 組

- 1 刑部安四郎 (濱商) 3.19.4
- 2 安藤眉男 (市二中) 3.20.8
- 3 中村仙喜知 (中泉) 3.23.2

坂本垣  
大山正一  
山口三郎

B 組

- 1 金子 (沼中) 3.12.0
- 2 山下正果 (濱中) 3.13.2
- 3 倉田正一 (中泉) 3.16.6

今泉順吉  
中野龍太  
齋藤明  
大間正嘉

C 組

- 1 小池禮三 (沼商) 3.06.4
- 2 式守正 (濱中) 3.11.8
- 3 筒井五郎 (函中) 3.13.4

田邊茂

中川俊郎  
青木末雄  
須田重信

D 組

- |   |           |        |
|---|-----------|--------|
| 1 | 大石松夫 (見付) | 3.15.4 |
| 2 | 稻垣武一 (中泉) | 3.16.2 |
| 3 | 横山 (沼中)   | 3.17.0 |
|   | 中川信成      |        |
|   | 梶浦一之      |        |
|   | 山崎勇       |        |
|   | 根本進       |        |
|   | 糸居二郎      |        |

準決勝 A 組

- |   |           |        |
|---|-----------|--------|
| 1 | 小池禮三 (沼商) | 3.06.8 |
| 2 | 稻垣武一 (中泉) | 3.10.4 |
| 3 | 筒井五郎 (函中) | 3.11.4 |
|   | 山下正果      |        |
|   | 中村仙喜知     |        |
|   | 横山        |        |

B 組

- |   |            |        |
|---|------------|--------|
| 1 | 金子 (沼中)    | 3.09.2 |
| 2 | 式守正 (濱中)   | 3.12.2 |
| 2 | 刑部安四郎 (濱中) | 3.15.2 |
|   | 倉田庄一       |        |
|   | 安藤眉男       |        |
|   | 大石松男       |        |

決勝

- |   |           |        |
|---|-----------|--------|
| 1 | 小池禮三 (沼商) | 3.01.0 |
| 2 | 金子 (沼中)   | 3.07.8 |
| 3 | 稻垣武二 (中泉) | 3.09.4 |
|   | 式守正       |        |
|   | 筒井五郎      |        |
|   | 刑部安四郎     |        |

二百米レリー

豫選 A 組

- |   |                    |        |
|---|--------------------|--------|
| 1 | 濱松中學 (宮崎、太田、宮本、片山) | 1.55.8 |
| 2 | 銚子商業 (神代、伊藤、加瀬、田中) | 1.57.8 |
| 3 | 見付中學 (松本、牧野、鈴木、村松) | 1.59.2 |
|   | 松濱商業               |        |
|   | 沼津中學               |        |
|   | 青山學院               |        |

B 組

- |   |                    |        |
|---|--------------------|--------|
| 1 | 静岡中學 (森、堀井、新聞、高木)  | 1.55.8 |
| 2 | 中泉農學 (今敷、鳥居、鈴木、永野) | 1.59.2 |
| 3 | 函館中學 (小森、中村、永野、寺田) | 2.00.4 |
|   | 沼田中學               |        |

湘南中學  
埼玉中學  
濱松商業  
東洋商業

決勝

- |   |                    |        |
|---|--------------------|--------|
| 1 | 濱松中學 (宮崎、太田、宮本、片山) | 1.55.6 |
| 2 | 静岡中學 (森、新聞、堀井、高木)  | 1.57.2 |
| 3 | 中泉農學 (今敷、鳥居、鈴木、水野) | 1.58.8 |
|   | 銚子商業               |        |
|   | 見付中學               |        |
|   | 函館中學               |        |

八百米レリー

豫選 A 組

- |   |                     |         |
|---|---------------------|---------|
| 1 | 中泉農學 (鳥井、刑部、兼子、水野)  | 10.13.4 |
| 2 | 銚子商業 (加世、田中、加瀬、田中)  | 10.31.6 |
| 3 | 濱松商業 (久保田、細井、服部、齋藤) | 10.53.4 |
|   | 第二市立中               |         |
|   | 沼津中學                |         |
|   | 東洋商業                |         |

B 組

- |   |                    |         |
|---|--------------------|---------|
| 1 | 濱松中學 (宮崎、太田、石井、片山) | 10.10.8 |
| 2 | 見付中學 (中島、竹下、村松、牧野) | 10.12.4 |
| 3 | 函館中學 (小森、小林、中村、寺田) | 10.30.4 |
|   | 静岡中學               |         |
|   | 湘南中學               |         |

決勝

- |   |                    |         |
|---|--------------------|---------|
| 1 | 濱松中學 (宮崎、太田、石井、片山) | 10.10.8 |
| 2 | 見付中學 (中島、竹下、村松、牧野) | 10.12.4 |
| 3 | 中泉農學 (鳥井、刑部、兼子、水野) | 10.21.0 |
|   | 銚子商業               |         |
|   | 濱松商業               |         |
|   | 函館中學               |         |

各校總得點

順位	校名	得點
1	濱松中學	50
2	中泉農學	45
3	函館中學	23
4	見付中學	22
5	銚子商業	15
6	沼津商業	14
7	静岡中學	11
8	市立二中	10
9	沼津中學	9
10	濱松商業	8
11	東北學院	6

12	早	實	5
13	新	瀧	1
	商	業	

## 東西中等學校對抗戦

主催 日本水上競技聯盟  
於明治神宮プール

### 二百米リレー

1	横山隆志 (西部)	1.52.6
	小西小一	
	志村義久	
	若山淹美	
2	片山兼吉 (東部)	1.52.6
	宮崎康二	
	田中一男	
	飯村正彦	

### 四百米自由型

1	横山隆志 (西)	4.57.6
2	牧野正藏 (東)	4.58.6
3	武村寅雄 (東)	5.04.8
4	石原田愿 (西)	
5	副島良司 (西)	
6	田中一男 (東)	

### 五十米背泳

1	片山兼吉 (東)	33.0
2	鈴木正雄 (東)	33.0
3	河津憲太郎 (西)	33.8
4	小西小一 (西)	
5	清政俊員 (西)	
6	飯村正彦 (東)	

### 百米自由型

1	横山隆志 (西)	1.01.0
2	片山兼吉 (東)	1.02.4
3	宮崎康二 (東)	1.04.0
4	志村義久 (西)	
5	小森正巳 (東)	
6	小野深 (西)	

### 二百米平泳

1	小池禮三 (東)	3.01.2
2	藤本頼廣 (西)	3.03.6
3	關禮治郎 (西)	3.03.6
4	藏屋敏 (西)	
5	稻垣武二 (東)	
6	金子藤剛 (東)	

### 八百米自由型

1	牧野正藏 (東)	10.38.8
2	武村寅雄 (東)	10.47.8

3	田中一男 (東)	10.51.2
4	副島良司 (西)	
5	片岡寅次郎 (西)	
6	國江喜芳 (西)	

### 二百米自由型

1	横山隆志 (西)	2.17.6
2	牧野正藏 (東)	2.21.6
3	寺田亨太郎 (東)	2.23.0
4	鳥井一夫 (東)	
5	志村義久 (西)	
6	石原田愿 (西)	

### 百米背泳

1	鈴木正雄 (東)	1.14.4
2	片山兼吉 (東)	1.15.2
3	河津憲太郎 (西)	1.15.2
4	若山淹美 (西)	
5	松下信一 (東)	
6	清政俊員 (西)	

### 百米平泳

1	藤本頼廣 (西)	1.21.6
2	小池禮三 (東)	1.22.4
3	關禮治郎 (西)	1.22.4
4	山崎勝美 (西)	
5	筒井五郎 (東)	
6	稻垣武二 (東)	

### 八百米リレー

1	東部	9.33.4
	牧野正藏	
	寺田亨太郎	
	田中一男	
	武村寅雄	
2	西部	9.36.6
	横山隆志	
	志村義久	
	小野深	
	石原田愿	

## 東西優勝校争覇戦

### 二百米リレー

1	高知商	1.56.0
	下村利雪、荒川真一郎	
	永山茂久、横山隆志	
2	濱松中	
	宮崎康二、太田武雄	
	宮本秀雄、片山兼吉	



八百米自由型

1	横山隆志 (高知)	11.16.8
2	北村久壽 (〃)	11.22.4
3	太田武雄 (濱中)	11.43.6
4	石井光次郎 (〃)	
5	宮崎康二 (〃)	
6	久保正太郎 (高知)	

百米平泳

1	山下正果 (濱中)	1.26.8
2	式守正 (〃)	1.28.8
3	梶浦一之 (〃)	1.33.2
4	横山寅太郎 (高知)	
5	中村廣典 (〃)	
6	刈谷武男 (〃)	

百米自由型

1	横山隆志 (高知)	1.00.4
2	片山兼吉 (濱中)	1.00.8
3	宮崎康二 (〃)	1.06.0
3	荒川眞一郎 (高知)	
4	下村利雪 (〃)	
5	太田武雄 (濱中)	

五十米背泳

1	片山兼吉 (濱)	34.4
2	柿内久壽馬 (高)	36.0
3	長尾三郎 (〃)	38.2
4	横山寅太郎 (〃)	
5	菅沼加雄 (濱)	
6	關英喜 (〃)	

四百米自由型

1	横山隆志 (高)	5.06.6
2	宮崎康二 (濱)	5.22.8
3	北村久壽 (高)	5.23.0
4	太田武雄 (濱)	
5	石井光次郎 (濱)	
6	久保庄太郎 (高)	

二百米平泳

1	式守正 (濱)	3.07.4
2	山下正果 (〃)	3.10.6
3	梶浦一之 (〃)	3.19.4
4	中村廣典 (高)	
5	吉田福治 (〃)	
6	刈谷武男 (〃)	

百米背泳

1	片山兼吉 (濱)	1.17.6
2	柿内久壽馬 (高)	1.20.8
3	横山寅次郎 (〃)	1.24.2
4	菅沼加雄 (濱)	
5	長尾三郎 (高)	
6	關英喜 (濱)	

八百米リレー

1	高知商	9.53.6
	荒川眞一郎、長尾三郎 北村久壽郎、横山隆志	
2	濱松中	
	宮崎康二、太田武雄 石井光次郎、片山兼吉	

編輯後記

◇第二號は期日に遅れず出す積りであつたが、印刷所の變つたのと他に用事が多いので、また遅れてしまつた。何とも申譯けない。いつも乍ら原稿の集りが悪い。期日を過ぎてから殺到する有様で割愛したのが可なり出きた。ちつとは編輯子を同情して早く出してもらひたい。末弘會長がお忙しい中から原稿を下つて感謝。麻生武ちゃんの手紙は此號の花であらう。

◇本號は遅れただけにインターカレッジの記事を全部入れ得た。せめてもの償ひである。松澤君の努力に感謝する。細かい数字的勞作に従事した若い無名氏も感謝する。次號は愈々忙がしかりし一九三〇の回顧號である。掲載記事の豫定は本年度全國水上競技會總覽、一九三〇年度ベストテン、全國學生合宿日記(早慶明その他)、海外水泳通信(飯田光太郎)、本年度の回顧(諸家)、神宮プール第二期工事設計、スポーツ醫事(深山泉)、水球の研究(吉本祐一)、文部省講習會講義、關西水泳家柵御し、その他、……就中、競技會總覽は大仕事である。まだ報告を送つて居られない團體は、横濱市

西戸部境谷一七〇九日本水上競技聯盟編輯部宛て、至急お送り願ひたい。

◇神宮プールも愈々第二期工事に入る。一萬四千五百人を容れる大スタンド、貴賓席以下設備完全なメインスタンド。想像しても心の躍る大計畫が遠からず實現するのだ。

昭和五年十月二十七日納本 (定價一部三十錢)  
 昭和五年十月二十九日發行  
 編輯兼發行人 日本水上競技聯盟代表  
 白山源三郎  
 印刷所 合資會社 光文社  
 東京市外西巢鴨宮仲二七一(電話大塚3918)  
 發行所 日本水上競技聯盟  
 東京市外代々木山谷三〇〇 (電話四谷1770)  
 (振替 39919)

# ！め讀！夏の人若！夏る光水

水

泳

競

泳

漕

艇

オリ  
ン  
ピ  
ツ  
ク  
よ  
り  
歸  
り  
て  
  
(第九回オリ  
ン  
ピ  
ツ  
ク  
水  
泳  
報  
告)

日  
本  
水  
上  
競  
技  
規  
則

日  
獨  
競  
技  
を  
顧  
み  
て

競  
走  
と  
百  
メ  
ー  
ト  
ル  
十  
五  
年

ス  
ポ  
ー  
ツ  
フ  
イ  
ー  
ル  
ド  
(跳  
擲)

叢  
書  
▲執  
筆  
者  
▼南  
部  
忠  
平、織  
田  
幹  
雄、中  
澤  
米  
太  
郎、沖  
田  
芳  
夫、住  
吉  
耕  
作、齋  
辰  
雄、森  
田  
俊  
彦。

ス  
ポ  
ー  
ツ  
ト  
ラ  
ツ  
ク  
(競  
走)  
▲執  
筆  
者  
▼森  
田  
俊  
彦、谷  
三  
三  
五、相  
澤  
巖  
夫、村  
上  
國  
平、納  
戸  
德  
重、桑  
田  
行  
芳、繩  
田  
尙  
門、三  
木  
義  
雄、津  
田  
晴  
一  
郎、谷  
三  
三  
五。

齊藤 誠洋 著  
定價 一圓五十錢  
送料 八錢

和久山修二 著  
定價 一圓一十錢  
送料 六錢

鷺島富造 著  
定價 一圓四十錢  
送料 八錢

日本水上競技聯盟編  
定價 二圓  
送料 十錢

日本水上競技聯盟編  
定價 五十五錢  
送料 四錢

全日本陸上競技聯盟編  
定價 六十錢  
送料 四錢

谷三三五 著  
定價 一圓二十錢  
送料 八錢

オリ  
ン  
ピ  
ツ  
ク  
選  
手  
さ  
し  
て、  
ま  
た  
大  
學  
選  
手  
さ  
し  
て、  
巴  
里  
に  
ハ  
ワ  
イ  
に、  
遠  
洲  
に  
遠  
征  
の  
榮  
ある  
チ  
ャ  
ン  
ピ  
オ  
ン  
生  
活  
を  
終  
へ  
目  
下  
大  
毎  
日  
運  
動  
部  
記  
者  
さ  
し  
て  
活  
躍  
中  
の  
「  
水  
の  
覇  
者  
」  
が、  
初  
心  
者  
並  
に  
一  
般  
水  
泳  
家  
の  
爲  
に  
生  
きた  
體  
験  
を  
そ  
の  
ま  
ま  
に  
説  
い  
た  
好  
指  
導  
書。

競泳研究の好手引。内容は、(一)初心者に対する競泳の心得(二)競泳(クロール、バック、フリスト)に対する各部分的研究及ターニングスタートの説明(三)競泳の練習方法並にレースに就ての注意(四)諸大家の練習に關する論説等。

日本人の體力、生活、習慣等に適應した独自の漕法、用艇・コーチ等に原則的プリンスブルを樹立したもの。直截明快、ボート界の好テキスト。

第九回國際オリ  
ン  
ピ  
ツ  
ク  
水  
上  
競  
技  
大  
會  
に  
世  
界  
第  
二  
の  
榮  
冠  
を  
獲  
た  
我  
選  
手  
監  
督  
役  
員  
の  
権  
威  
ある  
報  
告  
に  
我  
特派  
新  
聞  
記  
者  
其  
他  
の  
親  
戰  
記  
を  
配  
して、  
そ  
の  
ま  
ま  
に  
日  
章  
旗  
を  
め  
ぐ  
つ  
て  
奮  
戦  
した  
我  
選  
手  
諸  
君  
の  
勝  
因  
並  
に  
活  
躍  
振  
り  
を  
彷彿  
さ  
せる。

水上聯盟で改正された規則で、本規則の出版は本書がはじめてである。水泳家の必携！

本書は昨秋神宮外苑に舉行された記念すべき日獨競技の興味深い記録で、吾國陸上競技の過去の決算と將來への飛躍のためにできた是非一讀すべきもの。

選手としてコーチヤーとしてスポーツライフ十有五年の華々しき經驗をもつ著者が、後進のために、一般フアンの爲に、短距離競走のコツを指導解説した参考書。本書によつて第二第三の谷選手の出現を希ふもの獨り著者ばかりではあるまい。

ス  
ポ  
ー  
ツ  
通  
廣瀬謙三 著  
定價七十錢 送料八錢  
スポーツの種々相を縦横に説きあかした快著

野  
球  
通  
橋戸頑鐵 著  
定價七十錢 送料八錢  
野球時代来る！ 野球智識は近代智識！

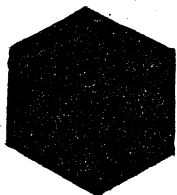
國  
技  
角  
力  
通  
三木愛花 著  
定價七十錢 送料八錢  
角力こそは日本の花！ 好角家のバイブルはこれ。

本  
社  
支  
店

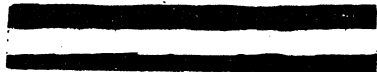
東  
京  
市  
神  
田  
區  
駿  
河  
臺  
・  
振  
替  
東  
京  
一  
三  
五  
五  
五  
大  
阪  
市  
南  
區  
順  
慶  
町  
・  
振  
替  
大  
阪  
一  
八  
三  
〇  
〇

會  
社  
三  
省  
堂

1930.  
 極東オリンピヅク大会 並=



各競技大会  
 御用命製作



トロフキー・メタル・カツブ。

多数の藝術家を  
 原型製作者として有する。

佐藤省吾製作所

東京市本郷区根津八重垣町65.  
 TEL. F谷(83) 3262.



Tak.